

は し が き

財団法人 明るい選挙推進協会では、第21回参議院議員通常選挙（平成19年 7 月29日）における有権者の投票行動と意識を探り、今後の選挙啓発活動に資するため、全国の有権者3,000人を対象として、面接調査の方法により調査いたしました。

本調査の企画、実施に当たりましては、東京大学教授（当時）蒲島郁夫氏、首都大学東京准教授 今井亮佑氏にご協力をいただきました。

なお、本書「調査結果の概要」につきましては、国際基督教大学 石生義人上級准教授、今井亮佑准教授にご執筆いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

本調査が、今後の新しい啓発事業の企画検討のよき参考資料となることを願ってやみません。

平成 20 年 3 月

財団法人 明るい選挙推進協会

目 次

I 調査の設計	1
II 標本抽出方法	3
III 質問表と回答の単純分布	6
IV 調査結果の概要	23
1 はじめに	23
2 投票率・選挙結果・選挙競争率・選挙違反検挙状況	24
(1) 投票率	24
(2) 選挙結果	28
(3) 選挙競争率	29
(4) 選挙違反摘発状況	30
3 政治・選挙に対する意識	32
(1) 政治に対する関心	32
(2) 選挙に対する関心	33
(3) 投票義務感	35
4 投票傾向	36
(1) 投票傾向の説明	36
(2) 個人の属性と投票傾向	36
(3) 社会・政治意識と投票傾向	40
(4) 有効性感覚と投票傾向	43
(5) 投票・棄権の要因	46
(6) 棄権決定時期	52
5 投票時間	53
6 投票以外の政治参加	54
7 政治的志向	56
(1) 政党支持	56
(2) 保革イデオロギー	62
(3) 考慮した問題	63
(4) 国政信頼度・政治満足度・生活満足度	65

8	投票行動	66
(1)	社会的属性と投票政党	66
(2)	投票政党の連続と変化	69
(3)	政党支持と投票行動	72
(4)	決定時に重視した点と投票政党	74
(5)	最も考慮した問題と投票政党	78
9	選挙関連情報源と明るい選挙推進協議会への参加	80
(1)	選挙関連情報媒体への接触度と有用度	80
(2)	明るい選挙推進協議会の周知と参加	83
10	選挙制度について	86
(1)	期日前投票制度	86
(2)	投票時間	86
(3)	非拘束名簿式比例代表制	88
(4)	在外選挙	88
11	清潔度の印象	89
12	まとめ	91
	付録：調査対象者の社会的特徴	96

I 調査の設計

1 調査目的

この調査は、平成19年 7月29日に執行された第21回参議院議員通常選挙における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的とする。

2 調査項目

この調査は、次の諸項を調査の項目とした。

- (1) 投票と棄権
- (2) 政治・選挙への関心
- (3) 投票選択の経緯
- (4) 選挙情報媒体との接触
- (5) 選挙啓発への参加と接触
- (6) 選挙制度について

3 調査設計

この調査は、次のように設計した。

- (1) 調査地域 全国
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 標本抽出 選挙人名簿を使用
- (5) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (6) 調査方法 調査員による面接調査
- (7) 調査時期 平成19年 8月25日～9月9日
- (8) 調査実施委託機関 社団法人 中央調査社

4 回収結果

- (1) 有効回収数 (%) 1,853 (61.8%)
- (2) 回収不能数 (%) 1,147 (38.2%)
- (3) 回収不能理由内訳数 (%)
 - 転居 32 (1.1%) 住所不明 31 (1.0%)
 - 長期不在 87 (2.9%) 拒否 557 (18.5%)
 - 一時不在 403 (13.4%) その他 37 (1.2%)

(4) 男女別・年齢別、都市規模別回収結果

①男性

年齢	標本数	回収数	回収率
20歳代前半	88	29	33.0%
20歳代後半	100	50	50.0%
30歳代	251	115	45.8%
40歳代	233	125	53.6%
50歳代	294	175	59.5%
60歳代	273	188	68.9%
70歳代	206	145	70.4%
80歳以上	55	40	72.7%
合計	1,500	867	57.8%

②女性

年齢	標本数	回収数	回収率
20歳代前半	82	34	41.5%
20歳代後半	86	44	51.2%
30歳代	221	114	51.6%
40歳代	259	185	71.4%
50歳代	307	204	66.4%
60歳代	274	213	77.7%
70歳代	190	140	73.7%
80歳以上	81	52	64.2%
合計	1,500	986	65.7%

③都市規模別

都市規模	標本数	回収数	回収率
大都市	772	414	53.6%
人口10万以上の市	1,247	773	62.0%
人口10万未満の市	663	466	70.3%
町村	318	200	62.9%
合計	3,000	1,853	61.8%

Ⅱ 標本抽出方法

- 1 母集団：全国の市区町村に居住する満20歳以上の者
- 2 標本数：3,000人
- 3 地点数：212市区町村 212地点
- 4 抽出方法：層化二段無作為抽出法及び等間隔抽出法

〔層化〕

- (1) 全国の市区町村を、都道府県を単位として次の11地区に分類した。

北海道地区	=北海道	(1 道)
東北地区	=青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	(6 県)
関東地区	=茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	(1 都6 県)
北陸地区	=新潟県、富山県、石川県、福井県	(4 県)
東山地区	=山梨県、長野県、岐阜県	(3 県)
東海地区	=静岡県、愛知県、三重県	(3 県)
近畿地区	=滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	(2 府4 県)
中国地区	=鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	(5 県)
四国地区	=徳島県、香川県、愛媛県、高知県	(4 県)
北九州地区	=福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	(4 県)
南九州地区	=熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	(4 県)

- (2) 各地区内においては、さらに都市規模によって次のように21分類し、それぞれを第一次層として計51層とした。

- ・大都市（各都市ごとに分類）

（東京都区部、札幌市、仙台市、新潟市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市）

- ・人口10万以上の市
- ・人口10万未満の市
- ・町村

（注）ここでいう市とは、平成19年4月1日現在、市制施行の地域である。

- (3) 各地区・都市規模の層別における母集団人口（平成18年3月31日現在の満20歳以上の人口）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分して、1 調査地点の標本が15人前後になるように調査地点数を決めた。

〔抽出〕

(1) 第一次抽出単位となる調査地点として、平成12年国勢調査時に設定された調査地区を使用した。

(2) 調査地点（調査区）の抽出は

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における20歳以上国勢調査人口の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

(3) 抽出に際しての各層内における市区町村配列順序については、平成19年4月1日現在の市区町村コード順に従った。

(4) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点（町・丁目・番地・地区などを指定）から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した。

5. 抽出結果

抽出作業の結果、得られた地区・都市規模別標本数と調査地点数は、次の通りである。
() 内は調査地点数

都市規模	大都市	人口10万人以上の市	人口10万人未満の市	町村	計
北海道	45(3)	38(3)	25(2)	27(2)	135(10)
東北	23(2)	89(6)	69(5)	47(3)	228(16)
関東	367(25)	412(27)	141(9)	57(4)	977(65)
北陸	19(2)	53(4)	46(3)	13(1)	131(10)
東山		47(3)	52(4)	22(2)	121(9)
東海	86(8)	125(8)	57(4)	29(2)	297(22)
近畿	150(12)	206(13)	101(7)	31(2)	488(34)
中国	27(2)	101(7)	37(3)	17(2)	182(14)
四国		48(3)	33(3)	17(2)	98(8)
北九州	55(4)	57(4)	62(4)	27(2)	201(14)
南九州		71(5)	40(3)	31(2)	142(10)
計	772(58)	1,247(83)	663(47)	318(24)	3,000(212)

大都市（各都市別）

東京都区部	204 (13)	千葉市	21 (2)	名古屋市	51 (4)
広島市	27 (2)	札幌市	45 (3)	川崎市	31 (2)
京都市	33 (3)	北九州市	23 (2)	仙台市	23 (2)
横浜市	84 (6)	大阪市	61 (4)	福岡市	32 (2)
新潟市	19 (2)	静岡市	17 (2)	堺市	20 (2)
さいたま市	27 (2)	浜松市	18 (2)	神戸市	36 (3)

Ⅲ 質問票と回答の単純分布

第21回参議院議員通常選挙についての意識調

平成 19 年 8 月
社団法人 中央調査社

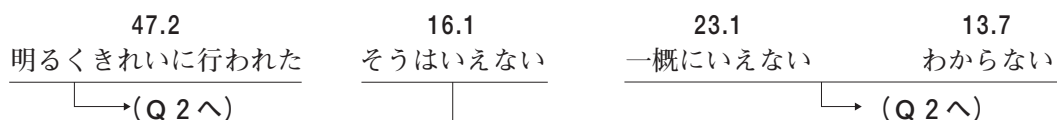
支局番号	地点番号	対象番号	調査月日
			月 日

財団法人 明るい選挙推進協会からの依頼を受けて、選挙に関するご意見についてお伺いにあがりました。この調査は全国の有権者を対象に、有権者の意思が正しく政治に反映される選挙についての調査研究を目的として、先日行われました第21回参議院議員通常選挙のを中心、あなたのご意見をお伺いさせていただくものです。お答えいただいた内容はすべて統計的に処理いたしますので、個人のお名前やご回答内容が外部に公表及び特定されることはございません。率直なご意見をお聞かせください。

どうしても答えられないときは「わからない」とおっしゃっていただければ結構ですので、どうかよろしくお願いいたします。

〔全員に〕

Q 1. 今回の参議院選挙は、全体として明るくきれいな選挙が行われたと思いますか、そうはいえないと思いますか。



S Q 1. それはどのような点ですか。具体的におっしゃってください。(F.A.)

(n=298)

79.2 20.8
回答あり 回答なし

S Q 2. 〔回答票 1〕 今回の選挙が明るくきれに行われなかったのは、主としてこの中のどれに責任があると思いますか。1つ選んでください。

(n=298)

7.7 (ア) 有権者	6.0 (オ) 選挙運動の取締りのやり方
21.1 (イ) 候補者	5.0 その他 ()
39.9 (ウ) 政党	7.7 わからない
12.4 (エ) 選挙制度	

〔全員に〕

Q 2.〔回答票 2〕 それでは、あなたは、国や地方の政治について、どの程度関心をもっていますか。

23.6 (ア) 非常に関心をもっている	2.6 (エ) 全く関心をもっていない
60.4 (イ) 多少は関心をもっている	0.4 わからない
13.0 (ウ) ほとんど関心をもっていない	

Q 3.〔回答票 3〕 それでは、今回の選挙について、どれくらい関心をもちましたか。

40.3 (ア) 非常に関心をもった	3.0 (エ) 全く関心をもたなかった
43.9 (イ) 多少は関心をもった	0.2 わからない
12.6 (ウ) ほとんど関心をもたなかった	

Q 4.〔回答票 4〕 あなたは、選挙での投票について、この中のどれに近い考えをおもちですか。

56.7 (ア) 投票することは、国民の義務である
23.7 (イ) 投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない
18.0 (ウ) 投票する、しないは個人の自由である
1.6 わからない

Q 5.〔回答票 5〕 次に、国民と選挙や政治とのかかわり合いについての意見を読みあげます。それぞれについてのあなたのお気持ちを、この中から 1 つずつあげてください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)		
	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえ	そうは思わない	わからない	無回答／ 答えたくない
(1) 自分の支持している政党や候補者が 勝つ見込がないときには、投票して もむだである	→	7.8…	6.9…	13.4…	11.7…	58.0…	2.1… 0.2
(2) 選挙では大勢の人々が投票するのだから、 自分一人くらい投票しても、 しなくても、どちらでもかまわない	→	3.8…	6.4…	8.6…	13.6…	66.2…	1.3… 0.1
(3) 自分には政府のすることに対して、 それを左右する力はない	→	27.3…	18.4…	19.0…	11.8…	20.6…	2.8… 0.1
(4) 政治とか政府とかは、あまりに複雑 なので、自分には何をやっているの がよく理解できないことがある	→	30.6…	28.0…	13.8…	10.9…	14.7…	1.9… 0.1

Q 6. 仕事や旅行、冠婚葬祭などで投票日当日に投票できない方が、公示日の翌日から投票日の前日までの間、投票することができる期日前投票制度をあなたはご存知でしたか。

97.2	2.6	0.2
知っていた	知らなかった	わからない

Q 7. [回答票 6] 今回の参議院選挙についてお伺いします。次の(1)～(13)は、今回の選挙にどの程度あてはまりますか、あるいはあてはまりませんか。それぞれについて、この中から1つずつあげてください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)		
	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	覚えていない／わからない	無回答／答えたくない
(1) 投票日に、用事があった	→	27.9…	5.1…	3.8…	62.2…	1.0… 0.1
(2) 投票日に、体調がすぐれなかった	→	4.3…	2.7…	3.9…	88.4…	0.6… 0.1
(3) 自分の選挙区に、どうしても当選させたい候補者がいた	→	24.4…	14.6…	15.0…	44.7…	1.2… —
(4) もりたてたい政党があった	→	30.7…	20.5…	13.7…	34.1…	1.1… —
(5) 団体・組織・知り合いから、特定の候補者や政党に投票するよう、頼まれたり勧められたりした	→	30.1…	14.0…	6.5…	48.5…	1.0… —
(6) 投票日の前に、どの候補者が当選しそうか、予想がついた	→	16.7…	25.0…	13.1…	41.7…	3.6… —
(7) 政党の立場の違いがはっきりしていた	→	31.6…	22.7…	18.1…	18.5…	9.0… 0.1
(8) 投票に行くのは面倒だった	→	6.4…	12.5…	9.9…	69.7…	1.2… 0.3
(9) 自分の一票が、選挙結果を左右すると思えた	→	22.5…	23.4…	24.5…	26.2…	3.2… 0.3
(10) 自分の一票が、日本の政治のあり方を左右すると思えた	→	17.5…	22.6…	26.9…	29.2…	3.7… 0.2
(11) 選挙結果によって、自分の身の回りの生活や暮らし向きが左右されるように思えた	→	14.6…	22.3…	24.0…	35.2…	3.8… 0.1
(12) 選挙結果によって、日本の政治のあり方が左右されるように思えた	→	22.6…	31.7…	18.2…	22.8…	4.5… 0.2
(13) 候補者についてよくわからなかった	→	22.1…	30.5…	16.1…	28.2…	2.9… 0.2

Q 8.〔回答票 7〕参議院選挙では、都道府県単位で行われる「選挙区選挙」と全国単位で行われる「比例代表選挙」の2つの選挙が行われましたが、今回の選挙では、あなたは投票しましたか、しませんでしたか。

81.9 (ア)	0.5 (イ)	0.3 (ウ)	17.2 (エ)
選挙区、比例代表とも 投票した	選挙区だけ 投票した	比例代表だけ 投票した	どちらも 投票しなかった
			→ (4 ページ S Q 5 へ)

S Q 1. 投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票・不在者投票などをしましたか。
(n=1534)

85.7 当日投票した	14.3 期日前投票・不在者投票をした
	→ (4 ページ S Q 3 へ)

S Q 2.〔回答票 8〕投票したのは何時ごろですか。
(n=1314)

7.5 (ア) 午前 7 時台	4.3 (カ) 午後 0 時台	5.9 (サ) 午後 5 時台
11.5 (イ) 午前 8 時台	5.2 (キ) 午後 1 時台	5.1 (シ) 午後 6 時台
11.0 (ウ) 午前 9 時台	6.6 (ク) 午後 2 時台	4.0 (ス) 午後 7 時から午後 8 時
15.5 (エ) 午前 10 時台	5.7 (ケ) 午後 3 時台	0.5 わからない
10.7 (オ) 午前 11 時台	6.6 (コ) 午後 4 時台	

※ Q 8 で、「1 選挙区、比例代表とも投票した」または「2 選挙区だけ投票した」と答えた人は 4 ページ Q 9 へ、「3 比例代表だけ投票した」と答えた人は 5 ページ Q 10 へ

〔3 ページ Q 8 S Q 1 で、「2 期日前投票・不在者投票をした」と答えた人に〕

S Q 3.〔回答票 9〕期日前投票・不在者投票などをしたのはいつですか。この中から選んでください。

(n=220)

6.8 (ア) 公示日の翌日・7 月 13 日 (金曜日)	15.5 (エ) 投票日の前日
48.6 (イ) 投票日の 4 日以上前	0.5 わからない
28.6 (ウ) 投票日の 2、3 日前	

S Q 4.〔回答票 10〕期日前投票・不在者投票などをしたのは何時ごろですか。この中から選んでください。

(n=220)

50.5 (ア)	37.3 (イ)	11.8 (ウ)	0.5
午前中	午 後	午後 6 時～午後 8 時	わからない

※ 3 ページ Q 8 で、「1 選挙区、比例代表とも投票した」または「2 選挙区だけ投票した」と答えた人は Q 9 へ、「3 比例代表だけ投票した」と答えた人は 5 ページ Q 10 へ

〔3 ページ Q 8 で、「4 どちらも投票しなかった」と答えた人に〕

S Q 5. 〔回答票11〕 今回の選挙で、あなたが投票しないことを決めたのはいつごろですか。
この中から、おっしゃってください。

(n=319)

26.0 (ア) 選挙期間に入る前	10.0 (オ) 投票日の前日
9.7 (イ) 選挙期間に入った時 (公示日)	38.9 (カ) 投票日当日
6.3 (ウ) 投票日の4日以上前	3.4 わからない
5.6 (エ) 投票日の2、3日前	

※次は7 ページ Q11へ

〔3 ページ Q 8 で、「1 選挙区、比例代表とも投票した」または「2 選挙区だけ投票した」と答えた人に〕

〔選挙区選挙について〕

Q 9. 選挙区選挙で、あなたが投票したのは何党の候補者でしたか。

おさしつかえなければ、おっしゃってください。

(n=1528)

27.1 自由民主党	0.1 維新政党・新風
31.2 民主党	0.1 9 条ネット
3.5 日本共産党	0.1 共生新党
0.8 社会民主党	0.9 無所属 ()
0.1 国民新党	0.1 その他 ()
2.4 公明党	11.2 わからない

S Q 1. 〔回答票11〕 選挙区選挙で、あなたがその候補者に投票することを決めたのはいつごろですか。
この中から、おっしゃってください。

(n=1528)

48.4 (ア) 選挙期間に入る前	4.3 (オ) 投票日の前日
21.9 (イ) 選挙期間に入った時 (公示日)	7.4 (カ) 投票日当日
10.1 (ウ) 投票日の4日以上前	1.2 わからない
6.8 (エ) 投票日の2、3日前	

S Q 2. 〔回答票12〕 あなたは、選挙区選挙で投票する候補者を決める時、どういう点を重くみたのですか。

この中ではどれでしょうか。いくつでも結構です。(M.A.)

(n=1528)

12.6 (ア) 団体や組合からの推薦	11.6 (ケ) 候補者の識見
12.1 (イ) 地元の利益を代表しているかどうか	15.2 (コ) 候補者の政治家としての力量
7.1 (ウ) 自分と同じような職業の利益を代表しているかどうか	15.0 (サ) テレビや新聞、雑誌などを通じて感じた、候補者に対する親近感
19.5 (エ) 自分の生活の利益を代表しているかどうか	31.7 (シ) 候補者の属する政党の政策や活動
28.0 (オ) 国全体の政治のあり方	9.6 (ス) 候補者の属する政党の政権担当能力
17.8 (カ) 政党間の勢力バランス	7.8 (セ) 候補者の属する政党の党首
30.4 (キ) 候補者の政策や主張	12.6 (ソ) 家族や知人からのすすめ
25.6 (ク) 候補者の人柄	2.4 その他 ()
	3.0 わからない

※複数あげた人は S Q 3 へ、1 つしかあげなかった人は S Q 4 へ

S Q 3.〔回答票12〕 それでは、今あげられた中で、最も重くみたのはどれですか。1つ選んでください。

(n=1031)

5.5 (ア) 団体や組合からの推薦	2.4 (ケ) 候補者の識見
4.6 (イ) 地元の利益を代表しているかどうか	5.4 (コ) 候補者の政治家としての力量
2.7 (ウ) 自分と同じような職業の利益を代表しているかどうか	3.7 (サ) テレビや新聞、雑誌などを通じて感じた、候補者に対する親近感
8.9 (エ) 自分の生活の利益を代表しているかどうか	14.9 (シ) 候補者の属する政党の政策や活動
10.8 (オ) 国全体の政治のあり方	2.6 (ス) 候補者の属する政党の政権担当能力
7.6 (カ) 政党間の勢力バランス	2.6 (セ) 候補者の属する政党の党首
13.9 (キ) 候補者の政策や主張	3.9 (ソ) 家族や知人からのすすめ
9.0 (ク) 候補者の人柄	0.9 その他 ()
	0.6 わからない

S Q 4. 選挙区選挙では、あなたは政党のほうを重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

(n=1528)

62.2	28.1	8.3	1.4
政党を重くみて	候補者個人を重くみて	一概にいけない	わからない
※ 3 ページ Q 8 で、「2 選挙区だけ投票した」と答えた人は 7 ページ Q 11 へ			

〔3 ページ Q 8 で、「1 選挙区、比例代表とも投票した」または「3 比例代表だけ投票した」と答えた人に〕

〔比例代表選挙について〕

Q 10. 次に比例代表選挙についてお聞きします。比例代表選挙で、あなたが投票したのは、何党、または何党の候補者でしたか。おさしつかえなければ、おっしゃってください。

(n=1524)

24.6 自由民主党	0.6 国民新党	0.1 9 条ネット
32.8 民主党	6.7 公明党	0.1 共生新党
3.6 日本共産党	0.2 女性党	0.6 新党日本
1.8 社会民主党	— 維新政党・新風	7.7 わからない

S Q 1.〔回答票13〕 比例代表選挙で、あなたがその党、または候補者に投票することを決めたのはいつごろでしたか。この中から、おっしゃってください。

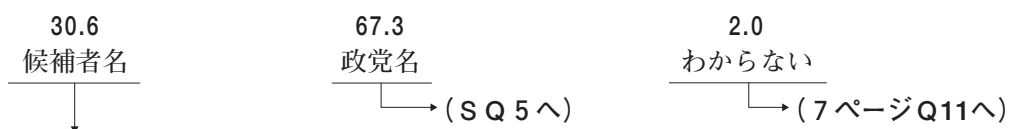
(n=1524)

49.8 (ア) 選挙期間に入る前	3.9 (オ) 投票日の前日
18.9 (イ) 選挙期間に入った時 (公示日)	8.0 (カ) 投票日当日
10.8 (ウ) 投票日の 4 日以上前	2.0 わからない
6.7 (エ) 投票日の 2、3 日前	

〔3 ページ Q 8 で、「1 選挙区、比例代表とも投票した」または「3 比例代表だけ投票した」と答えた人に〕

S Q 2. 比例代表選挙では、あなたは候補者名で投票しましたか、それとも政党名で投票しましたか。

(n=1524)



S Q 3. 〔回答票14〕あなたは、比例代表選挙で投票する候補者を決める時、どういう点を重くみたのですか。この中ではどれでしょうか。いくつでも結構です。(M.A.)

(n=467)

- | | |
|----------------------------------|--|
| 21.2 (ア) 団体や組合からの推薦 | 15.0 (ケ) 候補者の識見 |
| 9.0 (イ) 地元の利益を代表しているかどうか | 15.4 (コ) 候補者の政治家としての力量 |
| 6.6 (ウ) 自分と同じような職業の利益を代表しているかどうか | 11.1 (サ) テレビや新聞、雑誌などを通じて感じた、候補者に対する親近感 |
| 13.3 (エ) 自分の生活の利益を代表しているかどうか | 24.6 (シ) 候補者の属する政党の政策や活動 |
| 17.1 (オ) 国全体の政治のあり方 | 7.7 (ス) 候補者の属する政党の政権担当能力 |
| 9.6 (カ) 政党間の勢力バランス | 6.0 (セ) 候補者の属する政党の党首 |
| 30.8 (キ) 候補者の政策や主張 | 15.2 (ソ) 家族や知人からのすすめ |
| 32.3 (ク) 候補者の人柄 | 2.4 その他 () |
| | 1.5 わからない |

※複数あげた人は S Q 4 へ、1つしかあげなかった人は 7 ページ Q11 へ

〔Q10S Q 3 で、「1～17」の中から複数あげた人に〕

S Q 4. 〔回答票14〕それでは、今あげられた中で、最も重くみたのはどれですか。1つ選んでください。

(n=296)

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 10.1 (ア) 団体や組合からの推薦 | 3.4 (ケ) 候補者の識見 |
| 4.1 (イ) 地元の利益を代表しているかどうか | 6.8 (コ) 候補者の政治家としての力量 |
| 4.1 (ウ) 自分と同じような職業の利益を代表しているかどうか | 2.7 (サ) テレビや新聞、雑誌などを通じて感じた、候補者に対する親近感 |
| 6.8 (エ) 自分の生活の利益を代表しているかどうか | 10.8 (シ) 候補者の属する政党の政策や活動 |
| 7.4 (オ) 国全体の政治のあり方 | 0.3 (ス) 候補者の属する政党の政権担当能力 |
| 5.4 (カ) 政党間の勢力バランス | 2.0 (セ) 候補者の属する政党の党首 |
| 16.6 (キ) 候補者の政策や主張 | 5.1 (ソ) 家族や知人からのすすめ |
| 12.8 (ク) 候補者の人柄 | 1.0 その他 () |
| | 0.7 わからない |

※次は 7 ページ Q11 へ

〔Q10SQ2で、「2 政党名」と答えた人に〕

SQ5.〔回答票15〕あなたは、比例代表選挙で投票する政党を決める時、どのような点を重くみたのですか。この中ではどれでしょうか。いくつでも結構です。(M.A.)

(n=1026)

7.5 (ア) 団体や組合からの推薦	43.5 (キ) 政党の政策や活動
7.3 (イ) 地元の利益を代表しているかどうか	12.8 (ク) 政党の政権担当能力
5.5 (ウ) 自分と同じような職業の利益を代表しているかどうか	10.6 (ケ) 政党の党首
18.7 (エ) 自分の生活の利益を代表しているかどうか	2.8 (コ) 名簿に載っていた候補者の良し悪し
31.8 (オ) 国全体の政治のあり方	10.9 (サ) 家族や知人からのすすめ
24.1 (カ) 政党間の勢力バランス	2.4 その他 ()
	3.3 わからない

※複数あげた人は7ページSQ6へ、1つしかあげなかった人は7ページQ11へ

〔6ページQ10SQ5で、「1～13」の中から複数あげた人へ〕

SQ6.〔回答票15〕それでは、今あげられた中で、最も重くみたのはどれですか。1つ選んでください。

(n=516)

3.3 (ア) 団体や組合からの推薦	27.1 (キ) 政党の政策や活動
3.9 (イ) 地元の利益を代表しているかどうか	5.6 (ク) 政党の政権担当能力
2.3 (ウ) 自分と同じような職業の利益を代表しているかどうか	4.8 (ケ) 政党の党首
14.1 (エ) 自分の生活の利益を代表しているかどうか	0.8 (コ) 名簿に載っていた候補者の良し悪し
19.2 (オ) 国全体の政治のあり方	3.7 (サ) 家族や知人からのすすめ
13.4 (カ) 政党間の勢力バランス	1.0 その他 ()
	0.8 わからない

〔全員に〕

Q11. あなたの投票区の投票時間は何時まででしたか。

0.8 午後5時以前	7.9 午後7時	0.2 その他 ()
3.6 午後6時	76.0 午後8時	11.6 わからない

SQ.〔回答票16〕平成9年の改正で投票時間が午後6時までから午後8時までに延長されていますが、このことについて、あなたは、どうお感じになられていますか。この中からあげてください。

83.7 (ア) 今のままでよい	0.7 その他 ()
7.3 (イ) もっと早く終了すべきである	2.3 わからない
6.0 (ウ) もっと遅くまで延長すべきである	

Q12. [回答票17] 役に立ったか立たないかは別として、今回の選挙で、あなたが見たり聞いたりしたものが、この中にありましたら、**全部**おっしゃってください。(M.A.)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 39.5 (ア) 候補者の経歴放送 (テレビ) | 31.6 (セ) 候補者のビラ |
| 47.4 (イ) 政党の政見放送 (テレビ) | 41.1 (ソ) 掲示場に貼られた候補者のポスター |
| 26.3 (ウ) 政党のテレビスポット広告 | 29.7 (タ) 政党のビラ・ポスター |
| 50.4 (エ) テレビの選挙報道
(解説・評論を含む) | 15.2 (チ) 候補者の葉書 |
| 7.4 (オ) 候補者の経歴放送 (ラジオ) | 7.3 (ツ) 政党の葉書 |
| 8.9 (カ) 政党の政見放送 (ラジオ) | 5.5 (テ) 政党の機関紙 |
| 3.9 (キ) 政党のラジオスポット広告 | 14.1 (ト) 政党のマニフェスト |
| 6.7 (ク) ラジオの選挙報道
(解説・評論を含む) | 16.4 (ナ) 党首討論会 |
| 32.9 (ケ) 選挙公報 | 5.2 (ニ) 公開討論会 |
| 29.1 (コ) 候補者の新聞広告 | 6.4 (ヌ) 個人演説会 |
| 24.6 (サ) 政党の新聞広告 | 3.3 (ネ) 政党の演説会 |
| 36.5 (シ) 新聞の選挙報道
(解説・評論を含む) | 11.0 (ノ) 候補者の街頭演説 |
| 6.4 (ス) 週刊誌・雑誌の選挙報道
(解説・評論を含む) | 5.9 (ハ) 政党の街頭演説 |
| | 13.9 (ヒ) 連呼 |
| | 3.7 (フ) インターネット上の選挙報道 |
| | 4.0 この中のどれも見聞きしない |
| | 0.6 わからない |

(8 ページ
Q14へ)

※「1～28」を答えた人は8ページQ13へ

[7ページQ12で、「1～28」と答えた人に]

Q13. [回答票17] それでは投票してもしなくても、役に立ったものがこの中にありましたら、**全部**おっしゃってください。(M.A.)

(n=1767)

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 16.0 (ア) 候補者の経歴放送 (テレビ) | 6.2 (セ) 候補者のビラ |
| 21.7 (イ) 政党の政見放送 (テレビ) | 6.5 (ソ) 掲示場に貼られた候補者のポスター |
| 5.6 (ウ) 政党のテレビスポット広告 | 4.6 (タ) 政党のビラ・ポスター |
| 24.6 (エ) テレビの選挙報道
(解説・評論を含む) | 2.2 (チ) 候補者の葉書 |
| 2.2 (オ) 候補者の経歴放送 (ラジオ) | 1.1 (ツ) 政党の葉書 |
| 2.7 (カ) 政党の政見放送 (ラジオ) | 1.7 (テ) 政党の機関紙 |
| 0.7 (キ) 政党のラジオスポット広告 | 6.3 (ト) 政党のマニフェスト |
| 2.0 (ク) ラジオの選挙報道
(解説・評論を含む) | 6.9 (ナ) 党首討論会 |
| 12.4 (ケ) 選挙公報 | 1.8 (ニ) 公開討論会 |
| 8.6 (コ) 候補者の新聞広告 | 2.8 (ヌ) 個人演説会 |
| 7.2 (サ) 政党の新聞広告 | 1.0 (ネ) 政党の演説会 |
| 15.1 (シ) 新聞の選挙報道
(解説・評論を含む) | 3.1 (ノ) 候補者の街頭演説 |
| 1.7 (ス) 週刊誌・雑誌の選挙報道
(解説・評論を含む) | 1.5 (ハ) 政党の街頭演説 |
| | 1.0 (ヒ) 連呼 |
| | 1.9 (フ) インターネット上の選挙報道 |
| | 21.9 この中のどれも役に立っていない |
| | 3.0 わからない |

〔全員に〕

Q 14. 〔回答票18〕 参考になったかどうかは別として、今回の選挙で、あなたがすすめられたものがこの中にありましたら、**全部**おっしゃってください。(M.A.)

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 10.1 (ア) 家族からのすすめ | 5.3 (コ) 選挙熱心な人の勧誘 |
| 4.9 (イ) 近所のすすめ | 13.3 (サ) 電話による勧誘 |
| 8.1 (ウ) 職場の推薦 | 6.4 (シ) 後援会の推薦や依頼 |
| 22.7 (エ) 友人・知人・親戚のすすめ | 46.6 この中のどれもすすめられていない |
| 1.2 (オ) 上役や有力者のすすめ | 0.8 わからない |
| 3.9 (カ) 労働組合関係の推薦 | |
| 6.3 (キ) 仕事関係の団体（同業組合・商店会など）の推薦 | |
| 2.0 (ク) 町内会、自治会、区会などの推薦 | |
| 4.4 (ケ) その他の団体（宗教団体・文化団体など）の推薦 | |

Q 15. 〔回答票19〕 今回の選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にありましたらおっしゃってください。いくつでも結構です。(M.A.)

- | | | |
|------------------|-----------------|---------------|
| 48.8 (ア) 医療・介護 | 3.4 (コ) 土地・住宅問題 | 13.8 (テ) 憲法問題 |
| 34.6 (イ) 高齢化対策 | 6.5 (サ) 農林漁業対策 | 11.2 (ト) 防衛問題 |
| 18.8 (ウ) 少子化対策 | 6.3 (シ) 中小企業対策 | 22.1 (ナ) 教育問題 |
| 27.7 (エ) 景気・雇用 | 2.2 (ス) 社会資本整備 | 6.3 (ニ) 食糧問題 |
| 12.6 (オ) 財政再建 | 10.0 (セ) 地域活性化 | 8.7 (ヌ) 治安対策 |
| 37.6 (カ) 税金問題 | 8.0 (ソ) 政治倫理 | 8.6 (ネ) 災害対策 |
| 69.7 (キ) 年金問題 | 10.1 (タ) 行政改革 | 1.0 その他 () |
| 12.7 (ク) 政権のあり方 | 6.2 (チ) 地方分権 | 7.8 政策は考えなかった |
| 13.4 (ケ) 環境・公害問題 | 7.8 (ツ) 国際・外交問題 | 2.5 わからない |

※ 「1～25」の中から複数あげた人は9ページS Q 1へ、1つしかあげなかった人は9ページS Q 2へ、「26 政策は考えなかった」または「27 わからない」を選択した人は9ページQ 16へ

〔8ページQ 15で、「1～25」の中から複数あげた人に〕

S Q 1. 〔回答票19〕 それでは、今あげられた中で、最も考慮した問題はどれですか。
1つ選んでください。

(n=1482)

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------------|
| 16.5 (ア) 医療・介護 | 0.1 (コ) 土地・住宅問題 | 3.2 (テ) 憲法問題 |
| 8.4 (イ) 高齢化対策 | 1.1 (サ) 農林漁業対策 | 0.7 (ト) 防衛問題 |
| 3.2 (ウ) 少子化対策 | 0.9 (シ) 中小企業対策 | 3.2 (ナ) 教育問題 |
| 7.4 (エ) 景気・雇用 | 0.1 (ス) 社会資本整備 | 0.1 (ニ) 食糧問題 |
| 2.6 (オ) 財政再建 | 0.9 (セ) 地域活性化 | 0.1 (ヌ) 治安対策 |
| 7.7 (カ) 税金問題 | 1.3 (ソ) 政治倫理 | 0.1 (ネ) 災害対策 |
| 34.9 (キ) 年金問題 | 1.1 (タ) 行政改革 | 0.3 その他 () |
| 3.0 (ク) 政権のあり方 | 0.3 (チ) 地方分権 | 0.7 わからない→(Q 16へ) |
| 1.1 (ケ) 環境・公害問題 | 1.1 (ツ) 国際・外交問題 | |

〔8 ページ Q15で、「1～25」と答えた人に〕

S Q 2. あなたが、最も考慮している問題について、どの党の政策があなたの立場に近いですか。

(n=1651)

25.8	自由民主党	0.2	国民新党	0.2	9 条ネット
34.0	民主党	5.4	公明党	0.1	共生新党
4.0	日本共産党	0.2	女性党	0.2	新党日本
1.9	社会民主党	—	維新政党・新風	25.7	どの党でもない

〔全員に〕

Q 16. あなたが、前回平成16年 7 月の参議院の選挙区選挙で、投票したのは何党の候補者でしたか。

41.7	自由民主党	0.1	維新政党・新風	13.1	忘れた
18.8	民主党	0.3	無所属	6.7	いいたくない
3.3	日本共産党	0.1	その他 ()	1.6	わからない
4.9	公明党	6.5	棄権した		
1.1	社会民主党	1.9	選挙権がなかった		

Q 17. あなたが、前回平成16年 7 月の参議院の比例代表選挙で、投票したのは何党、または何党の候補者でしたか。

39.4	自由民主党	—	みどりの会議	1.9	選挙権がなかった
18.1	民主党	—	維新政党・新風	14.5	忘れた
3.4	日本共産党	—	女性党	6.3	いいたくない
6.1	公明党	0.1	その他 ()	1.6	わからない
1.8	社会民主党	6.9	棄権した		

Q 18. あなたが、平成17年 9 月の衆議院の小選挙区選挙で、投票したのは何党の候補者でしたか。

42.0	自由民主党	0.1	国民新党	7.8	棄権した
18.3	民主党	0.1	新党日本	1.1	選挙権がなかった
2.9	日本共産党	0.1	新党大地	13.7	忘れた
4.3	公明党	0.2	無所属	6.7	いいたくない
1.1	社会民主党	0.1	その他 ()	1.6	わからない

Q 19. あなたが、平成17年 9 月の衆議院の比例代表選挙で、投票したのは何党でしたか。

39.2	自由民主党	0.2	国民新党	1.1	選挙権がなかった
18.5	民主党	0.1	新党日本	14.1	忘れた
3.2	日本共産党	0.1	新党大地	6.9	いいたくない
5.8	公明党	0.1	その他 ()	1.9	わからない
1.5	社会民主党	7.4	棄権した		

Q20.〔回答票20〕次にあげるようなことを、これまでに一度でも、したことがありますか。

(1)～(16)のそれぞれについて、次の中から1つずつあげてください。

(ア) (イ) (ウ)

何度
か
あ
る

一
〜
二
回
あ
る

一
度
も
な
い

わ
か
ら
な
い

無
回
答
／
答
え
た
く
な
い

(1) 選挙で投票する	→	95.6…	2.3…	1.7…	0.1…	0.3
(2) 選挙に立候補する	→	0.3…	0.1…	98.8…	0.6…	0.3
(3) 選挙運動を手伝う	→	10.4…	8.7…	80.3…	0.3…	0.3
(4) 候補者や政党への投票を知人に依頼する	→	9.6…	7.0…	82.6…	0.5…	0.3
(5) 政治家の後援会員となる	→	10.1…	7.0…	82.0…	0.6…	0.3
(6) 政党の党員となる	→	3.9…	2.1…	93.0…	0.6…	0.4
(7) 政党の活動を支援する(献金・党の機関紙の購読)	→	5.0…	3.8…	90.2…	0.7…	0.3
(8) 政党や政治家の集会に行く	→	11.4…	10.2…	77.4…	0.6…	0.3
(9) 国や地方の議員に手紙を書いたり、電話をする	→	1.7…	1.6…	96.0…	0.4…	0.3
(10) 役所に相談する	→	2.1…	2.3…	94.9…	0.5…	0.3
(11) 請願書に署名する	→	9.0…	8.5…	81.7…	0.6…	0.3
(12) デモや集会に参加する	→	3.1…	3.5…	92.5…	0.6…	0.3
(13) 住民投票で投票する	→	2.2…	2.5…	92.6…	2.4…	0.3
(14) 地域のボランティア活動やNPO活動に参加する	→	9.1…	4.0…	85.9…	0.8…	0.3
(15) 住民運動に参加する	→	3.2…	2.5…	93.1…	0.8…	0.3
(16) 自治会活動に積極的に参加する	→	21.9…	10.6…	66.7…	0.5…	0.3

Q21.〔回答票21〕よく保守的とか革新的とかいう言葉が使われていますが、あなたご自身はこの中のどれにあたると思いますか。

15.0	20.9	38.3	11.6	3.3	10.8
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
保守的	やや保守的	中 間	やや革新的	革新的	わからない

Q22. あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか。

35.0 自由民主党	0.1 国民新党	— 9条ネット	32.5 支持政党なし
18.5 民主党	5.1 公明党	— 共生新党	3.5 わからない
2.5 日本共産党	0.1 女性党	0.1 新党日本	
1.3 社会民主党	— 維新政党・新風	0.1 その他 ()	

(SQ5へ)

SQ1. 強く支持されていますか、それほどでもありませんか。

(n=1162)

29.0	69.8	1.2	
強く支持している	それほどでもない	わからない	※次は11ページQ23へ

〔Q22で、「13 支持政党なし」または「14 わからない」と答えた人に〕

S Q 2. あなたは、支持するまでではなくても、ふだん好ましいと思っている政党がありますか。
あればあげてください。

(n=667)

8.4	自由民主党	1.3	社会民主党	0.3	女性党	—	共生新党
62.1	そのような政党はない	11.1	民主党	0.4	国民新党	—	維新政党・新風
0.7	新党日本	11.4	わからない	2.8	日本共産党	1.2	公明党
—	9条ネット	—	その他 ()				

〔全員に〕

Q23. 〔回答票22〕 あなたは、投票日以前に、今回の参議院選挙の結果はどうなって欲しいとお考えでしたか。次の中から1つ選んで下さい。

23.4	(ア) 連立与党 (自民党・公明党) が過半数を大きく超える安定多数
25.6	(イ) 連立与党が過半数を占めるが、与野党が伯仲状況
30.8	(ウ) 連立与党が過半数割れ
20.2	わからない → (Q24へ)

S Q. それでは、今回の参議院選挙で、このような与野党の勢力比を考慮に入れて投票または棄権されましたか。

(n=1478)

69.8	24.9	5.3
した	しなかった	わからない

〔全員に〕

Q24. 〔回答票23〕 あなたは、現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。

11.3	54.6	25.4	8.0	0.6
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
満足している	だいたい満足している	やや不満である	不満である	わからない

Q25. 〔回答票23〕 あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか。

0.6	14.4	48.1	32.6	4.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
満足している	だいたい満足している	やや不満である	不満である	わからない

Q26. 〔回答票24〕 あなたは、国の政治をどれくらい信頼できるとお考えでしょうか。

1.1	23.2	51.1	21.1	3.6
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
信頼できる	だいたい信頼できる	あまり信頼できない	信頼できない	わからない

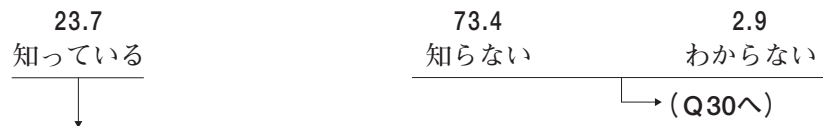
Q27.〔回答票25〕平成13年7月の参議院選挙から、比例代表選挙の候補者名簿に当選順位をつけず、候補者の得票順で当選者を決める非拘束名簿式比例代表制になっています。
あなたはこのことをご存知ですか。

44.4	13.3	38.6	3.7
(ア)	(イ)	(ウ)	
以前から知っていた	今回知った	知らない	わからない

Q28.〔回答票26〕今回の参議院選挙で、「投票に参加しましょう」という呼びかけを、国や都道府県・市区町村等や明るい選挙を推進する民間団体が行っていましたが、あなたは、この中で見たり聞いたりしたのがありますか。
あればいくつでも結構ですからあげてください。(M.A.)

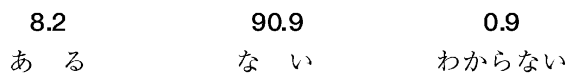
48.2 (ア) 新聞広告
59.7 (イ) テレビスポット広告
11.3 (ウ) ラジオスポット広告
0.8 (エ) 映画館スポット広告
11.3 (オ) 交通広告(車内・駅)
1.8 (カ) フリーペーパー
5.9 (キ) 雑誌広告
21.3 (ク) 啓発ポスター
11.5 (ケ) 啓発チラシ
24.6 (コ) 国や都道府県、市区町村の広報紙
35.8 (サ) 広報車
1.5 (シ) 飛行機の機内、空港での広告
8.5 (ス) 駅前やイベント会場などでの街頭の呼びかけ
16.2 (セ) 立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン
2.6 (ソ) 電光掲示板、大型映像広告
2.1 (タ) デパート、ショッピングセンター、遊園地などでのアナウンス
1.5 (チ) 銀行などのATM
2.3 (ツ) 有線放送
0.4 (テ) 文字放送
2.2 (ト) 国、都道府県、市区町村の選挙管理委員会のホームページ
2.9 (ナ) インターネット上での広告(バナー、動画広告など)
0.4 (ニ) スーパーのビニール袋やレシート
0.4 (ヌ) ファーストフード店やファミリーレストランのトレーマットや割り箸入れ
0.6 その他()
13.9 見聞きしなかった
1.7 わからない

Q 29. あなたの県（都・道・府）や市（区・町・村）に、投票を呼びかけたり選挙をきれいにするための活動を行っている、「明るい選挙推進協議会」や「白ばら会」があることをご存知ですか。



S Q. 「明るい選挙推進協議会」や「白ばら会」の行っている講演会、話し合い活動、学級講座などに参加されたことがありますか。

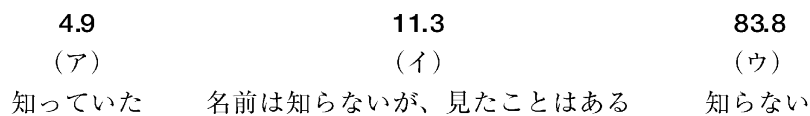
(n=440)



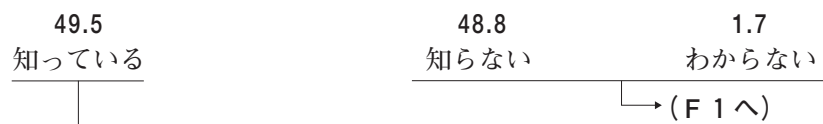
〔全員に〕

Q 30. 〔回答票27〕 明るい選挙推進運動のイメージキャラクターは「選挙のめいすい（明推）くん」ですが、あなたはご存知でしたか。

※調査員が、回答票に記載してある“めいすいくん”のイラストを掲示する。

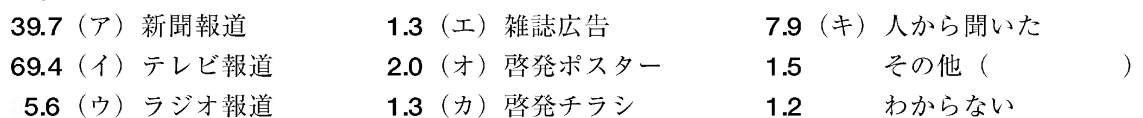


Q 31. 平成12年の衆議院総選挙から、衆・参の比例代表選挙については海外にいても投票できる「在外選挙」が行われていますが、今回の選挙から選挙区選挙でも投票できるようになりました。あなたはこのことをご存知ですか。



S Q. 〔回答票28〕 では、あなたはこのことを何で知りましたか。この中からいくつでも結構ですのであげてください。(M.A.)

(n=917)



〔フェース・シート〕

ご意見をお伺いするのはこれで終わりですが、この結果を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

F 1. (性)

46.8
男 性

53.2
女 性

F 2. (年齢) あなたのお年は満でいくつですか。

(記入)

--	--

歳

8.5	20～29歳	20.5	50～59歳
12.4	30～39歳	21.6	60～69歳
16.7	40～49歳	20.3	70歳以上

F 3. (学歴) あなたが最後に在籍した（または現在、在籍している）学校をあげてください。

18.5 小学校・高等小学校・新制中学校

20.6 大学・旧制専門学校・予科

42.4 旧制中学校・女学校・新制高校

1.3 大学院

16.4 高専・短大・旧制高校・専修学校

0.8 わからない

F 4. (本人職業) あなたのご職業は何ですか（どんな仕事をなさっているのですか、ご自分で経営していらっしゃるのですか、勤めていらっしゃるのですか）。

※いわゆる主婦であっても、家の職業を手伝っている場合は家族従業のほうに入れる

5.2 勤め（公務員）
37.3 勤め（公務員）

11.5 自営（自由業を含む）
4.0 家族従業
0.6 その他（ ）

1.1 学 生
21.4 主 婦
18.5 無 職
0.4 無回答

→ (F 5 へ)

S Q 1. 〔回答票29〕 あなたのお仕事は、この中のどれにあたりますか。

(n=787)

12.5 (ア) 管理職
23.9 (イ) 事務職
8.0 (ウ) 専門職（医師・弁護士など）
28.0 (エ) 販売業・サービス業
21.2 (オ) 運輸業・通信・生産工程
4.6 その他（ ）
0.9 わからない
1.0 無回答／答えたくない

S Q 2. 〔回答票30〕 あなたのお仕事は、この中のどれにあたりますか。

(n=299)

24.4 (ア) 農林業・漁業
60.5 (イ) 商工業・サービス業
6.4 (ウ) 自由業
5.7 (エ) 専門職（医師・弁護士など）
2.7 その他（ ）
— わからない
0.3 無回答／答えたくない

〔全員に〕

F 5. (居住年数) あなたは、この市(区・町・村)に何年くらい住んでいますか。

4.6	9.1	13.1	73.0	0.2
3 年未満	3 年以上	10 年以上	20 年以上	わからない
(生まれてからずっと)				

F 6. (投票所までの距離) お宅から投票所まで歩いて何分くらいかかりますか。

36.9	33.4	18.3	10.1	1.2
5 分未満	10 分未満	20 分未満	20 分以上	わからない

F 7. (家族構成)〔回答票31〕あなたのご家族は、このように分類した場合、どれにあたりますか。

7.7 (ア) 一人世帯	18.7 (エ) 三世代世帯 (親と子と孫)
23.4 (イ) 一世代世帯 (夫婦だけ)	1.0 (オ) その他の世帯 ()
49.1 (ウ) 二世代世帯 (親と子)	0.1 わからない

F 8. (愛着度)〔回答票32〕あなたは、この市(区・町・村)にどの程度愛着を感じていますか。
この中からお答えください。

38.2 (ア) 非常に愛着を感じている	4.9 (エ) あまり愛着を感じていない
47.4 (イ) ある程度愛着を感じている	0.9 (オ) まったく愛着を感じていない
8.3 (ウ) どちらともいえない	0.4 わからない

F 9. (所属団体)〔回答票33〕あなたは、このような団体に加入していますか。
あればいくつでも結構ですからあげてください。(M.A.)

3.5 (ア) 政治家の後援会	2.8 (ケ) 商工業関係の経済団体
40.4 (イ) 自治会	3.5 (コ) 宗教団体
5.3 (ウ) 婦人会	14.1 (サ) 同好会・趣味のグループ
1.2 (エ) 青年団・消防団	0.8 (シ) 住民運動・消費者運動・市民運動の団体
9.0 (オ) 老人クラブ(会)	1.3 (ス) N P O・地域づくり団体
7.6 (カ) P T A	1.1 その他 ()
4.3 (キ) 農協その他の農林漁業団体	36.4 どれにも加入していない
4.5 (ク) 労働組合	0.9 わからない

(長い間どうもありがとうございました)

Ⅳ 調査結果の概要

1 はじめに

平成19年7月29日、第21回参議院議員通常選挙（以下参院選という）の投開票が行われた。今回参院選の選挙期日は当初7月22日が想定されていたが、国会の会期が12日間延長されたため、1週間後の7月29日となった。

今回参院選では、与党が過半数の議席を確保できるかどうかに関心が集まったが、自民党は結党以来初めて参議院第一党でなくなり、連立与党の議席数も過半数を割り込んだ。

また、12年に一度、同じ年に統一地方選と参院選が行われる「亥年の選挙」で、投票率の低下が懸念されたが、前回（第20回）を若干上回る投票率が確保された。

明るい選挙推進協会は、選挙後に有権者の全国的な政治意識調査を実施したが、本報告書はその調査結果を中心としながら、あわせて過去の調査データとの比較を行い、今回参院選の実態を明らかにすることを目的にしている。

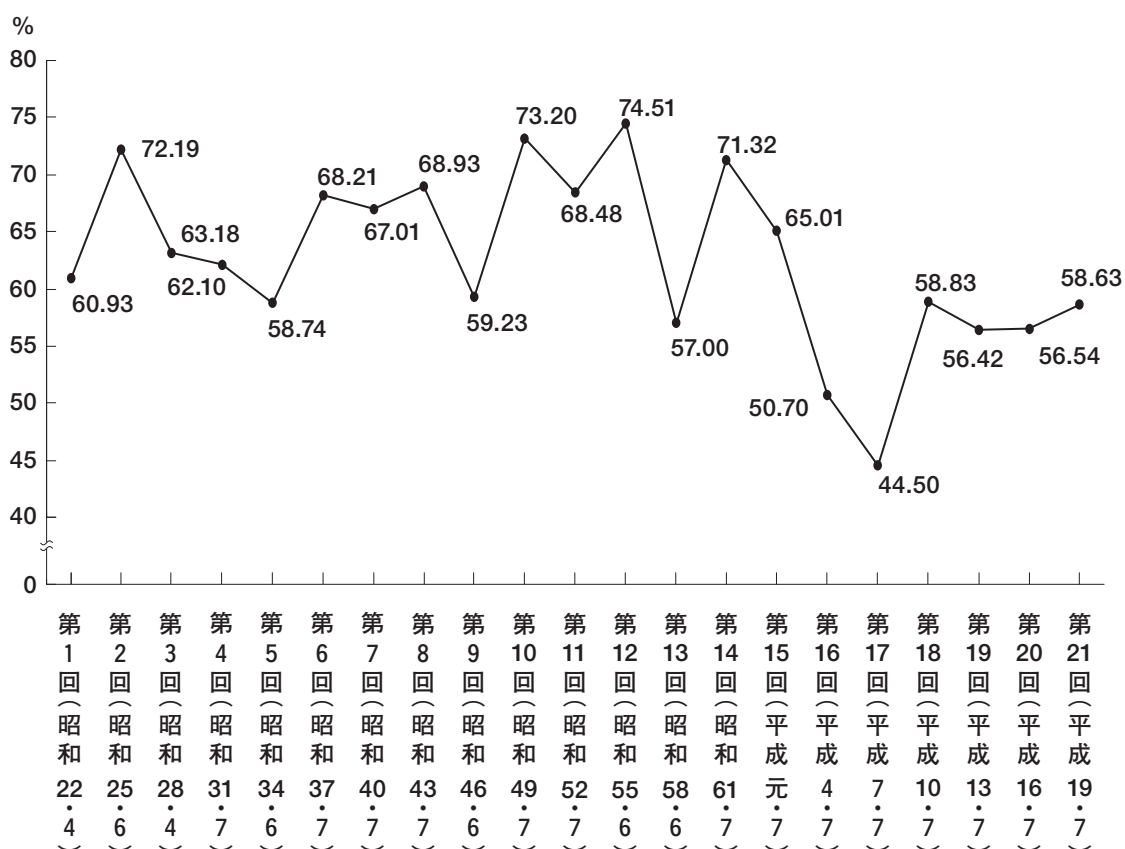
2 投票率・選挙結果・選挙競争率・選挙違反検挙状況

(1) 投票率

今回参院選（平19）での投票率は、比例代表選挙が58.63%、選挙区選挙が58.64%であった。平成16年に実施された前回参院選での投票率（比例代表選挙）は56.54%であったので、約2ポイントほど上昇している。

図2-1は、昭和22年の第1回参院選からの投票率（全国区選挙・比例代表選挙）の推移を示している。最も投票率が高かったのは、第12回参院選（昭55）の74.51%、最も低かったのが第17回参院選（平7）の44.50%となっている。第17回参院選の他、第13回（昭58）、第9回（昭46）、第5回（昭34）もそれぞれ前回の投票率を大きく下回っていることが図2-1から見ることができる。これらは今回参院選同様、亥年に行われた参院選である。第18回参院選（平10）以降、投票率は50%台後半でやや安定している。

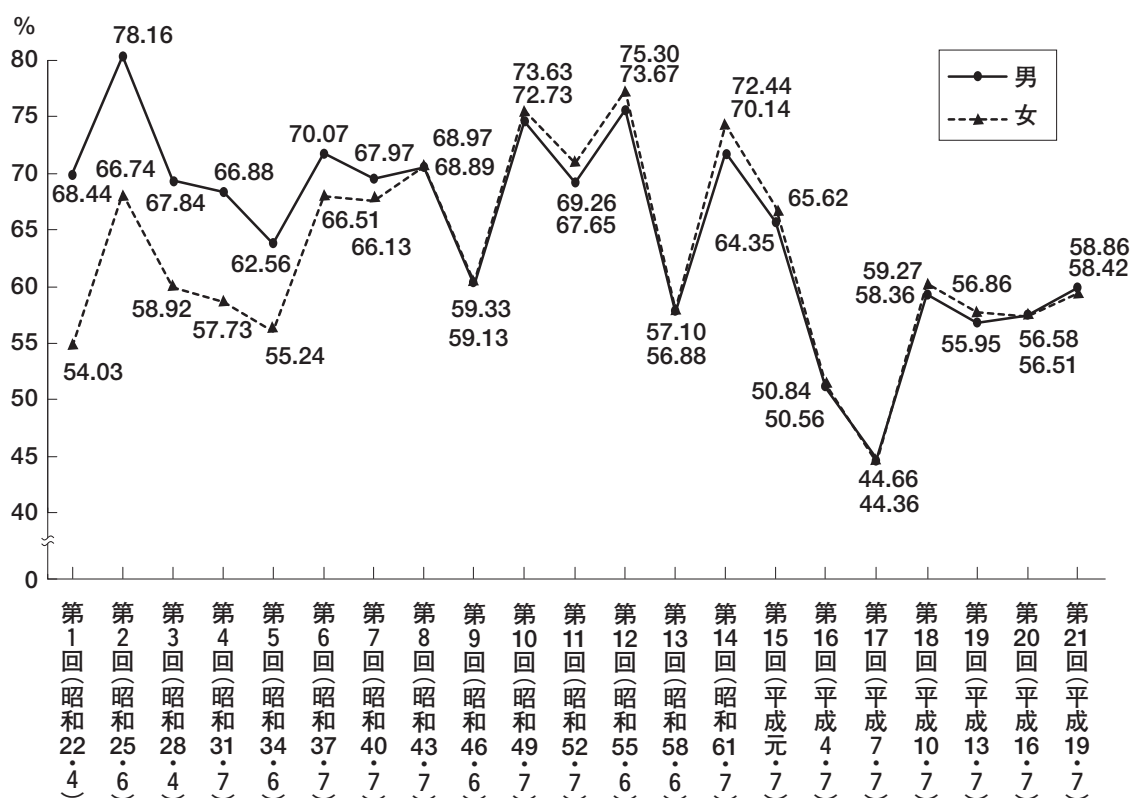
図2-1 投票率の推移



第12回以前は全国区選挙の投票率。その後は比例代表選挙の投票率である。

図2-2は、昭和22年の第1回参院選からの投票率（全国区選挙・比例代表選挙）の推移を男女別に示している。第1回～第6回参院選までは、男性の投票率が女性のそれよりも著しく高かったが、第7回参院選（昭40）ではその差が2ポイント以下に縮まった。第8回から女性の投票率が男性を上回っていたが、今回は再度男性の投票率がわずかながら女性を上回った。

図2-2 男女別投票率（全国区選挙、比例代表選挙）



第12回以前は全国区選挙の投票率。その後は比例代表選挙の投票率である。

表2-1は、今回参院選の都道府県別投票率を、前回の投票率と比較している。今回、特に投票率が高かったのは、島根県（71.80%）、秋田県（67.69%）、鳥取県（67.66%）、山形県（67.28%）である。前回参院選においても、島根県（68.84%）と秋田県（65.30%）の投票率が高く、今回と同じ傾向があることがわかる。前回3番目と4番目に投票率が高かったのは、大分県（64.55%）と鳥取県（64.14%）であった。

今回特に投票率が低かったのは、青森県（53.88%）、茨城県（54.00%）、群馬県（54.60%）、福岡県（54.83%）である。前回投票率が特に低かったのは、茨城県（50.06%）、栃木県（50.98%）、千葉県（51.85%）、埼玉県（52.57%）であった。

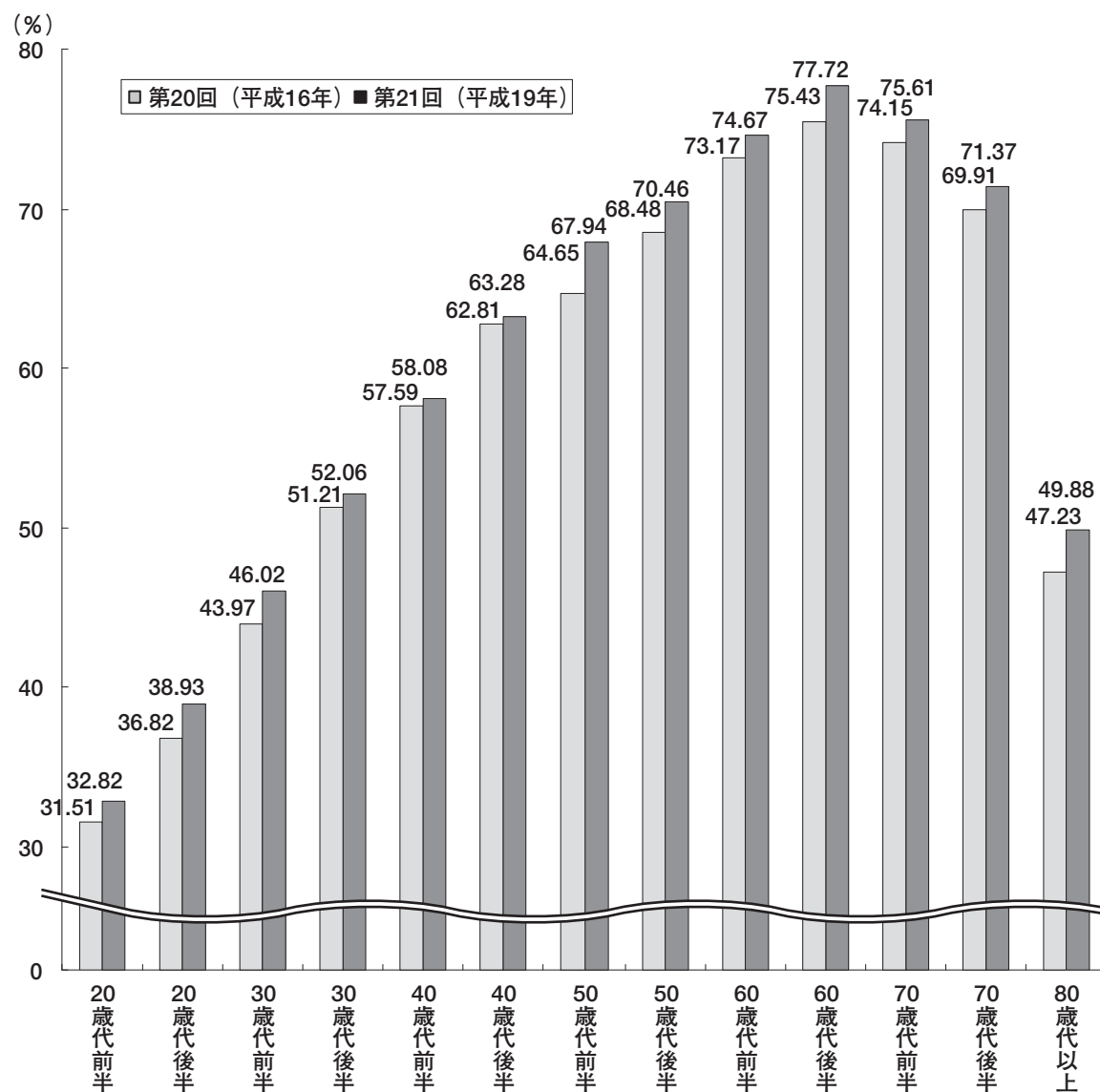
投票率の変化が前回と比べて特に大きかったのは、富山県（+7.36ポイント）、沖縄県（+6.21ポイント）、石川県（+6.10ポイント）となっている。

表 2－1 都道府県別投票率（比例代表選挙）

	今回（A）	前回（B）	比較（A－B）
北海道	62.39	61.71	0.68
青森	53.88	53.89	－0.01
岩手	63.39	63.31	0.08
宮城	55.78	53.90	1.88
秋田	②67.69	②65.30	2.39
山形	④67.28	61.71	5.57
福島	61.57	60.31	1.26
茨城	54.00	50.06	3.94
栃木	56.66	50.98	5.68
群馬	54.60	57.97	－3.37
埼玉	56.34	52.57	3.77
千葉	55.13	51.85	3.28
東京	57.86	56.02	1.84
神奈川	56.32	54.44	1.88
新潟	64.58	63.22	1.36
富山	64.95	57.59	7.36
石川	62.89	56.79	6.10
福井	63.24	61.00	2.24
山梨	63.65	61.79	1.86
長野	65.04	61.47	3.57
岐阜	61.47	59.35	2.12
静岡	58.41	57.92	0.49
愛知	59.11	54.53	4.58
三重	60.58	62.25	－1.67
滋賀	60.31	57.98	2.33
京都	56.37	54.58	1.79
大阪	55.80	53.16	2.64
兵庫	56.61	55.09	1.52
奈良	60.77	57.73	3.04
和歌山	59.34	58.40	0.94
鳥取	③67.66	④64.14	3.52
島根	①71.80	①68.84	2.96
岡山	59.16	58.59	0.57
広島	56.91	53.67	3.24
山口	62.01	62.28	－0.27
徳島	58.45	54.56	3.89
香川	58.84	55.18	3.66
愛媛	61.90	56.35	5.55
高知	58.39	57.26	1.13
福岡	54.83	54.82	0.01
佐賀	62.86	62.00	0.86
長崎	61.53	60.11	1.42
熊本	63.11	59.64	3.47
大分	63.03	③64.55	－1.52
宮崎	56.78	62.10	－5.32
鹿児島	60.67	62.84	－2.17
沖縄	60.23	54.02	6.21

図 2－4 で年齢別投票率を見てみよう。年齢と投票率には明らかに強い関係があることがわかる。20歳代前半では32.82%と3人に一人程度しか投票しておらず、20歳代後半でも38.93%である。年齢が上がるにつれて投票率が高くなり、30歳代前半で46.02%、40歳代前半で58.08%、50歳代前半で67.94%、60歳代後半で77.72%まで上がりピークになっている。70歳代前半から投票率は下がり始め、70歳代後半で71.37%、80歳以上で49.88%となっている。図 2－4 からどの年齢層も前回は上回っていることが確認できるものの、その上昇幅は直近に行われた第44回衆院選（平17）ほどではなかった。特に20歳代・30歳代前半は第44回衆院選では前回と比べ、約10ポイントの上昇を見たが、今回参院選では数ポイントの上昇にとどまった。

図 2－4 年齢別投票率



各都道府県の市区町村の投票区から、標準的な投票率の選挙区を一つ抽出（142選挙区の平均）

(2) 選挙結果

全改選議席121（比例代表48、選挙区73）の内、民主党が60議席（49.6%）、自民党が37議席（30.6%）を獲得した（表2-2参照）。公明党は9議席（7.4%）、共産党3議席（2.5%）、社民党2議席（1.7%）、国民新党2議席（1.7%）、新党日本1議席（0.8%）、無所属7議席であった。この選挙の結果、参院全体では、自民党に替わって、民主党が第一党に躍進した。

表2-2 第21回参院選結果

政党	当選議席数	当選者（%）	新勢力
民主党	60	49.6	109
自由民主党	37	30.6	83
公明党	9	7.4	20
日本共産党	3	2.5	7
社民党	2	1.7	5
国民新党	2	1.7	4
新党日本	1	0.8	1
諸 派	0	0.0	1
無所属	7	5.8	12
合 計	121	100	242

表2-3は、比例代表選挙の結果を提示している。民主党は全国で39.5%の比例代表の票を集め、20議席を獲得している。自民党は、28.1%の票を獲得し、14議席を獲得している。公明党は13.2%で7議席を獲得。共産党は7.5%で3議席、社民党は4.6%で2議席、日本新党は3.0%で1議席、国民新党は2.2%で1議席となっている。その他の政党は1議席を取るだけの票を得ていない。

表2-3 比例代表選挙結果

政党	当選議席数	得票率（%）
民主党	20	39.5
自由民主党	14	28.1
公明党	7	13.2
日本共産党	3	7.5
社会民主党	2	4.6
新党日本	1	3.0
国民新党	1	2.2
女性党	0	1.1
9条ネット	0	0.5
維新政党・新風	0	0.3
共生新党	0	0.3
合 計	48	100

表 2－4 は、選挙区選挙の結果を表している。民主党は全国で40.5%の票を集め、40議席を獲得した。自民党は31.4%で23議席を獲得。公明党は6.0%で 2 議席、国民新党は1.9%で 1 議席、無所属は8.6%で 7 議席を獲得した。その他の政党は、選挙区で議席を取ることはできなかった。

表 2－4 選挙区選挙結果

政党	当選議席数	得票率 (%)
民主党	40	40.5
自由民主党	23	31.4
公明党	2	6.0
日本共産党	0	8.7
社会民主党	0	2.3
国民新党	1	1.9
9条ネット	0	0.3
維新政党・新風	0	0.2
共生新党	0	0.2
諸 派	0	0.1
無所属	7	8.6
合 計	73	100

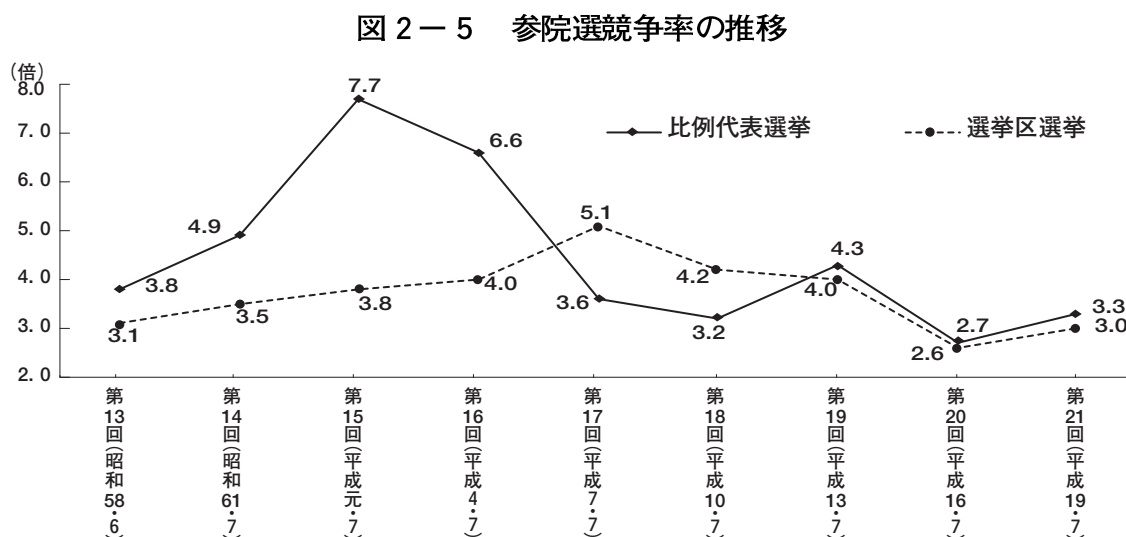
(3) 選挙競争率

今回参院選の選挙競争率は、選挙区選挙が3.0倍、比例代表選挙が3.3倍、全体で3.2倍であった。(表 2－5 参照)

表 2－5 競争率

	競争率	改選定数	立候補者数
選挙区選挙	3.0	73	218
比例代表選挙	3.3	48	159
計	3.2	121	377

図2-5は、参院選の全国区選挙に替わって比例代表選挙が導入された第13回参院選（昭58）からの競争率の推移を提示している。図からわかるように、比例代表選挙の競争率は第15回参院選（平元）で7.7倍まで上昇したが、第18回参院選（平10）に3.2倍まで下がった。その後、非拘束名簿式が導入された第19回参院選（平13）には4.3倍まで上昇したが、前回参院選（平16）で2.7倍まで下がり、今回3.3倍になった。選挙区選挙では、第17回参院選（平7）で競争率が5.1倍のピークに達したが、その後下降し、前回の2.6倍、今回の3.0倍となっている。



(4) 選挙違反摘発状況

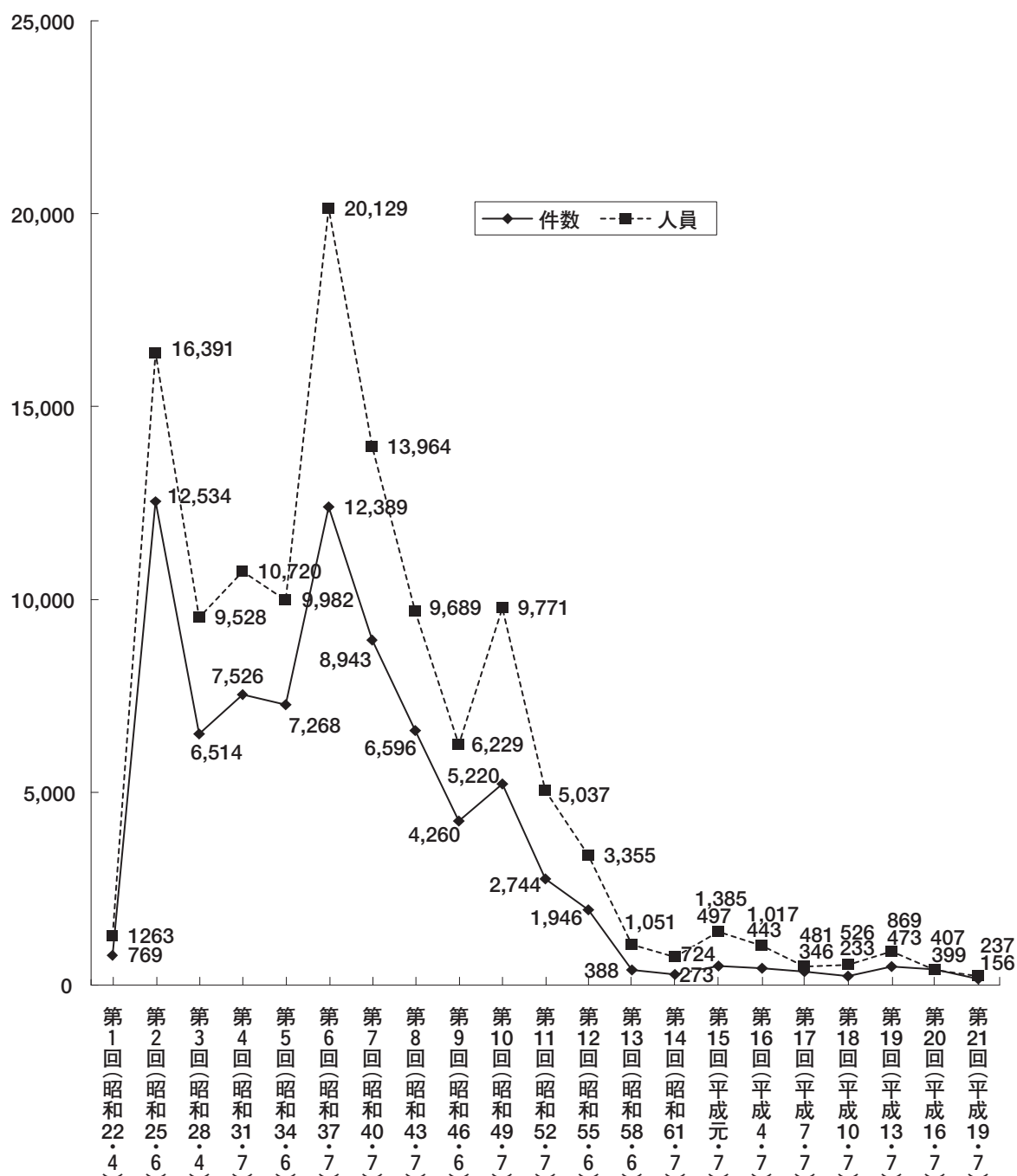
今回参院選における選挙違反検挙件数と検挙人数を警察庁発表の選挙期日後90日時点のものを示している（表2-6参照）。今回参院選における検挙件数は156件、検挙人員は237人となっている。最も検挙件数が多かったのは買収で67件、次いで自由妨害の49件となっている。検挙人員も同様に、買収が最も多く136人、次いで自由妨害41人となっている。

表 2-6 選挙違反検挙件数と検挙人数（選挙期日後90日時点）

	件 数	人 員
買 収	67	136
自由妨害	49	41
投票干渉	0	0
詐欺投票	16	20
投票偽造	6	14
地位利用	2	2
戸別訪問	1	0
文書違反	12	21
その他	3	3
合 計	156	237

図2-6は、第1回参院選（昭22）からの検挙数の推移をグラフで表している。検挙人員数は、第6回参院選（昭37）の20,129人でピークに達した後急激に減少し、第13回参院選（昭58）には2,000人を下回り、それ以降は200人から400人で推移し今回156人と過去最低になった。検挙件数は、およそ検挙人員数と比例していることがわかる。

図2-6 検挙数の推移



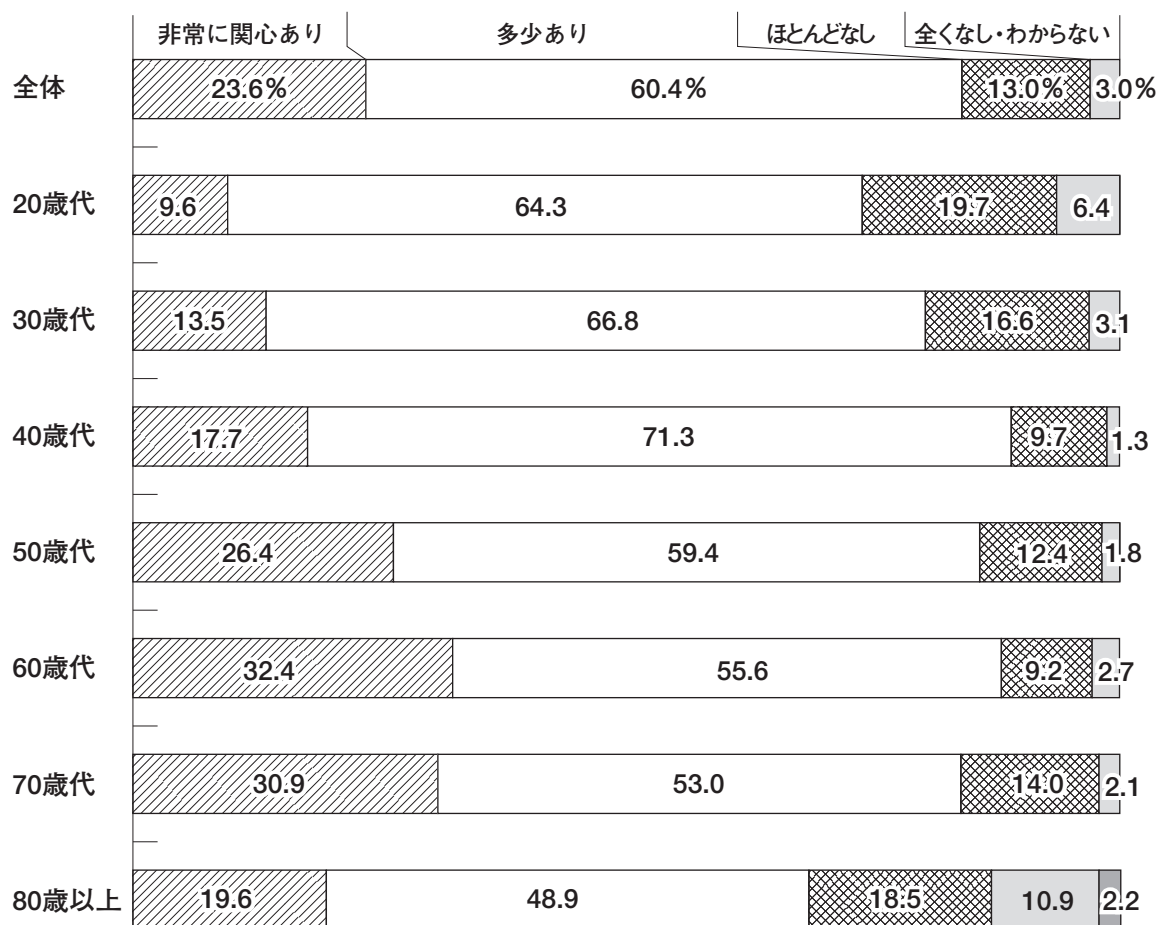
3 政治・選挙に対する意識

(1) 政治に対する関心

本世論調査では、調査対象者に対して「あなたは、国や地方の政治について、どの程度関心を持っていますか」という質問を行った（Q 2）。その結果23.6%が「非常に関心をもっている」、60.4%が「多少は関心をもっている」と回答した。

図3－1は、国や地方の政治への関心度を、年齢別に図で表したものである。「非常に関心をもっている」を見ると20歳代が9.6%、30歳代が13.5%と年齢が上がるごとにその割合が増えていることが明瞭にわかる。逆に「ほとんど関心をもっていない」の割合については、年齢が上がるごとにほぼ減少していることがわかる。

図3－1 年齢別政治関心度



(2) 選挙に対する関心

本世論調査では、調査対象者に対して「今回の選挙について、どれくらい関心を持ちましたか」という質問を行った（Q 3）。その結果40.3%が「非常に関心」があったと回答し、43.9%が「多少は関心」があったと回答した（図 3－2 参照）。

明るい選挙推進協会では過去の調査においても同じ質問をしているので、以前の参院選の世論調査と比較できる。図 3－2 を見てみると、「非常に関心」があると答えた割合は、第16回参院選（平 4）からでは、今回が最も大きかったことがわかる。ただし、第15回参院選（平元）では、44.5%が「非常に関心」があったと答えており、今回参院選よりも関心が高かったようである。この第15回参院選は、リクルート問題や消費税の導入等が大きな争点となった選挙であった。

図 3－2 選挙関心度

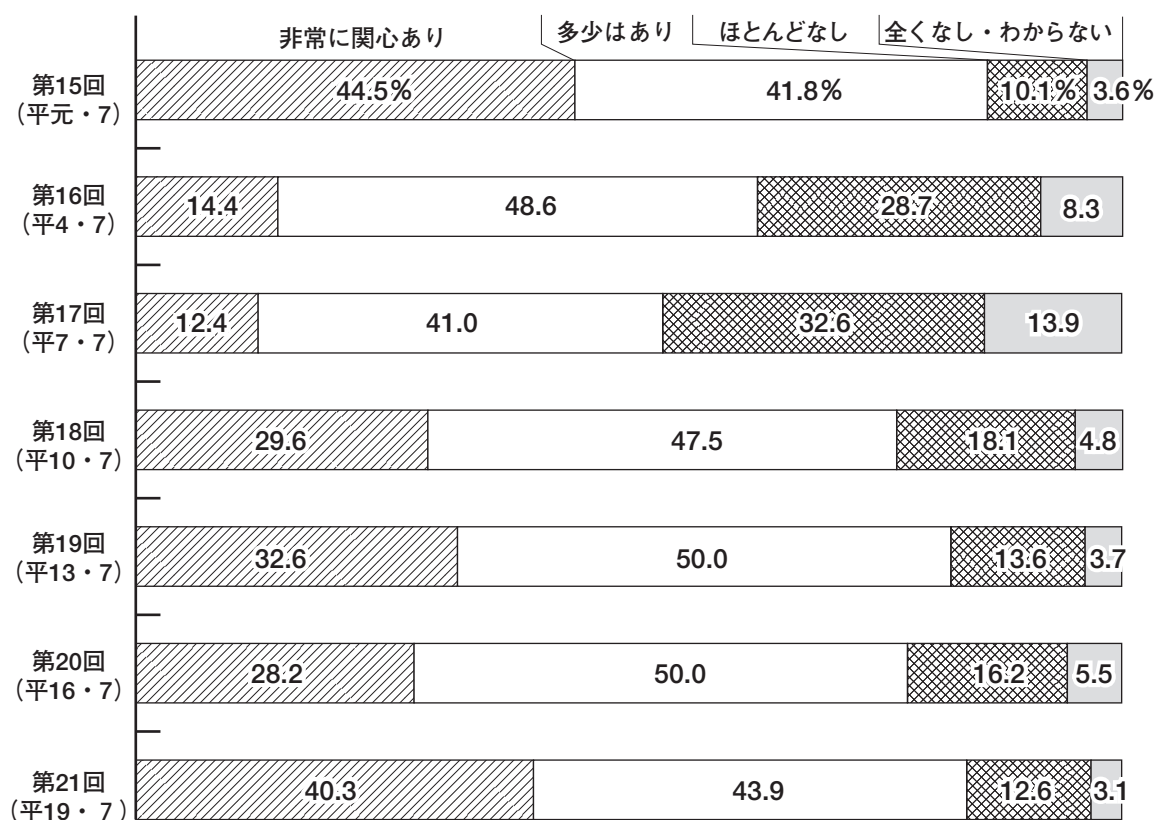
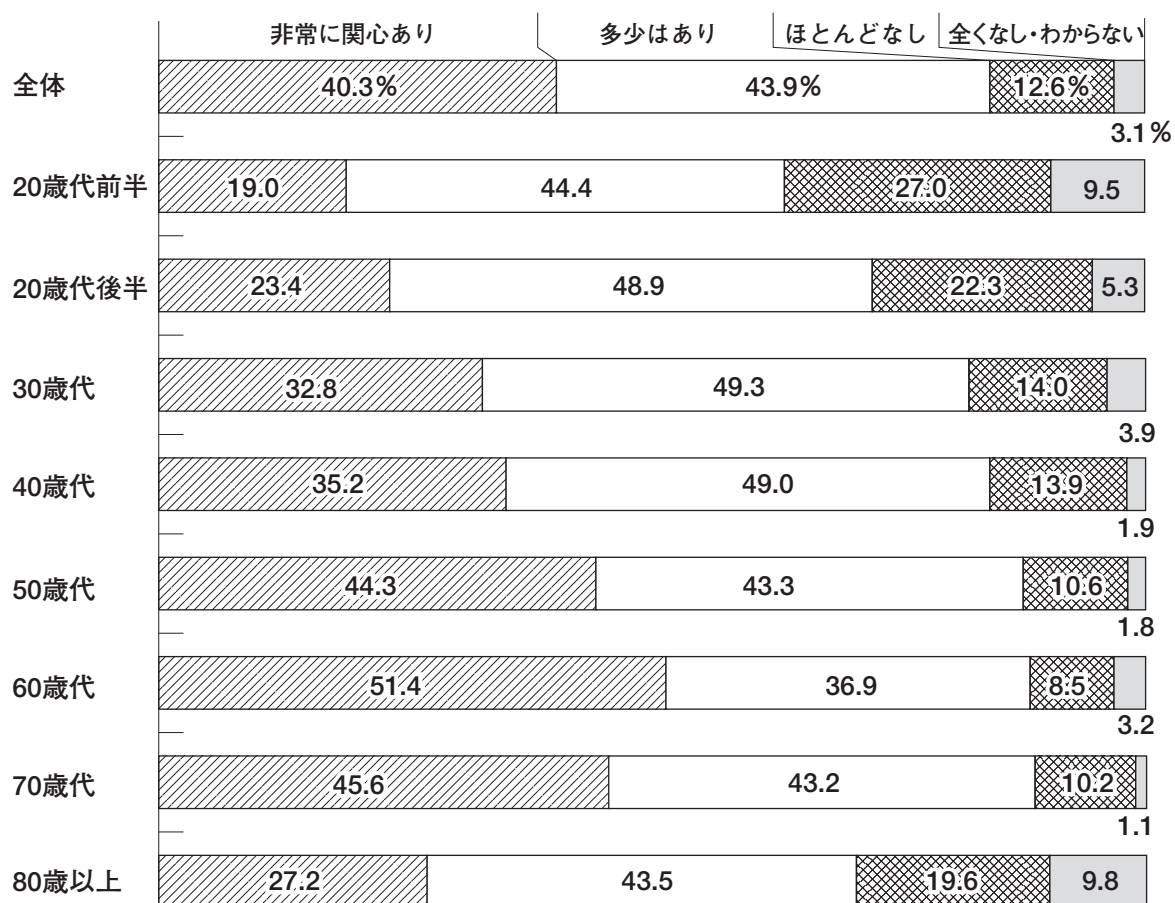


図3－3は、今回参院選における関心度を、年齢別に図で表したものである。この図から、選挙への関心が年齢と大きく関係があることがわかる。20歳代前半では、19.0%のみが「非常に関心」があったと回答しているが、年齢が上がるごとにその割合が大きくなり、60歳代では51.4%が「非常に関心」があったと回答している。しかし、70歳代からその割合が減少し、80歳以上では27.2%まで下がっている。

図3－3 年齢別選挙関心度



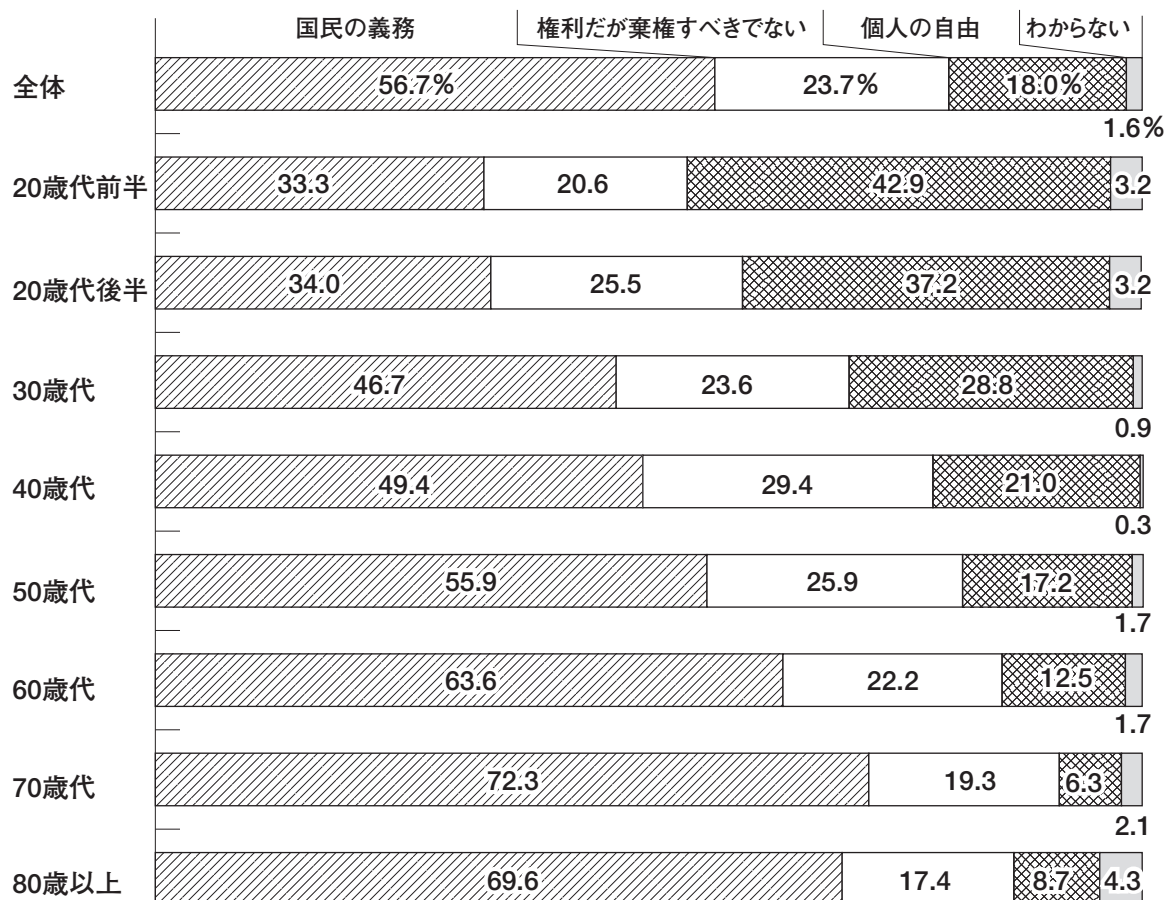
(3) 投票義務感

有権者は、選挙で投票するという行為をどのように捉えているのか。「あなたはふだん、選挙の投票について、この中のどれに近い考えをもっていますか」（Q 4）という質問をし、3つの選択肢から選ばせているが、56.7%が「投票することは、国民の義務である」、23.7%が「投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない」、18.0%が「投票する、しないは個人の自由である」と回答している。

つまり、過半数が選挙で投票することに対して、国民としての倫理的義務を感じている。

図3－4は、この質問への回答を年齢別に図で表している。この図からわかることは、年代によって選挙に対する意識が大きく異なるということである。若い人は選挙を「個人の自由」と見る割合が高い。具体的には、20歳代前半の42.9%が個人の自由であると見ており、「国民の義務」であると見ているのは33.3%と少ない。しかし、高年層は投票を「国民の義務」と見る傾向が強く、個人の自由と見る傾向は弱い。70歳代では、72.3%が義務であると回答し、わずか6.3%が「個人の自由」であると回答している。

図 3－4 参院選への関心度



4 投票傾向

(1) 投票傾向の説明

本節では、今回参院選で投票した人と棄権した人の違いを見ていく。本報告書では、世論調査の対象者の中で投票した人の割合を「投票傾向」と呼ぶことにし、実際の「投票率」とは区別する。投票傾向と投票率は、理論上ほぼ同じであるべきであるが、実際には異なる。具体的に言うと、今回参院選の投票率は58.63%（比例代表選挙）であるが、本世論調査の対象者の中で投票したと回答した人の割合は82.8%であった。本世論調査は全国の有権者を対象とし、無作為抽出法を使って科学的にデータを集めているが、実際の投票率と世論調査サンプルの投票傾向には20ポイント以上のギャップが存在している。これは、投票傾向に関してはサンプリングの誤差が小さいことを意味している。

このようなサンプリングの誤差が生じるのは、本世論調査の有効回収率が61.8%であり、残りの38.2%の人に選挙を棄権した人が多かったと思われることが主な原因であろう。

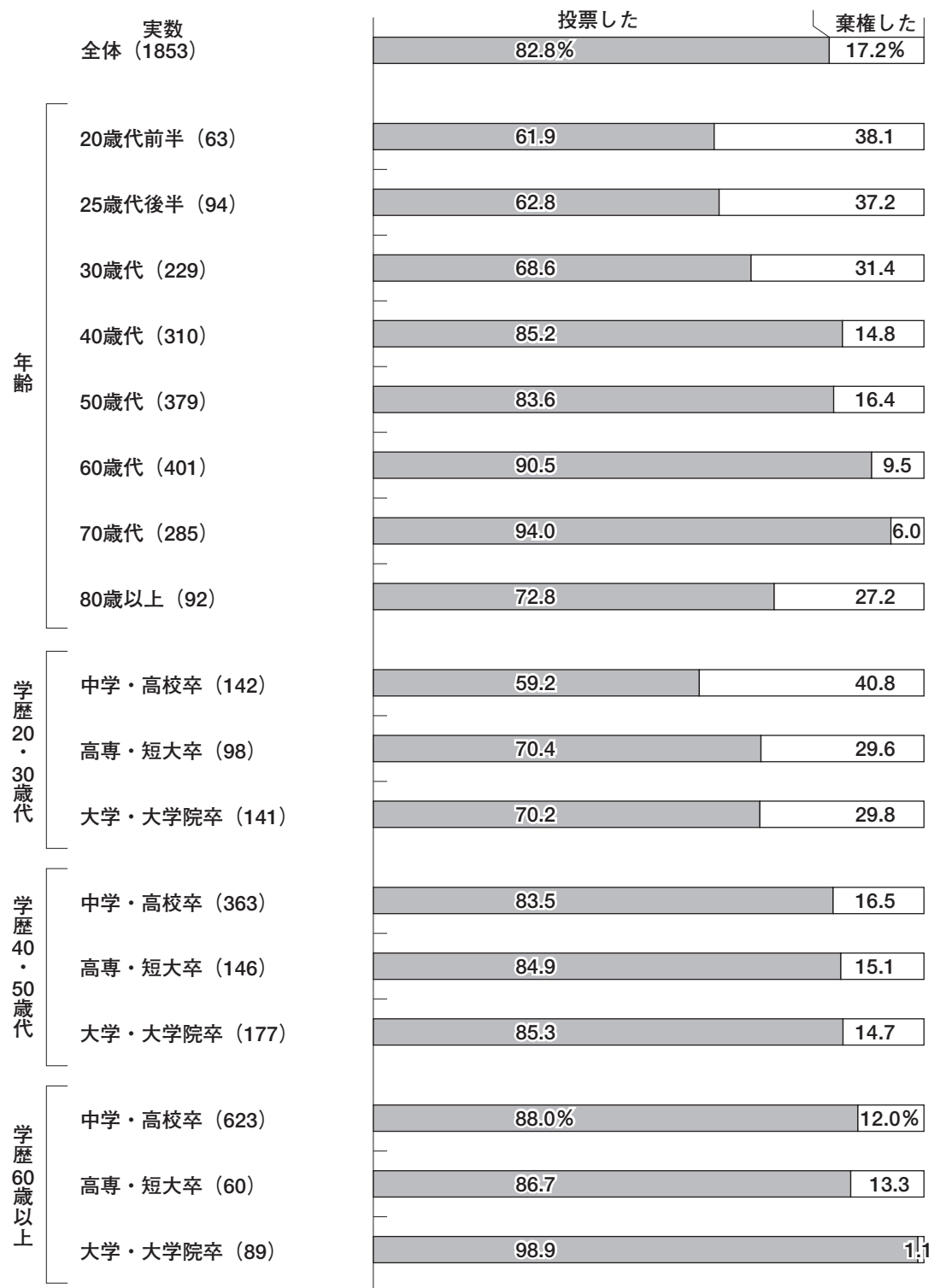
ただし、投票率と投票傾向のギャップは本調査に限ったことではなく、一般に生じる誤差である。したがって、本報告書での投票傾向の値にはこの誤差が含まれていることを考慮して見ていく必要がある。

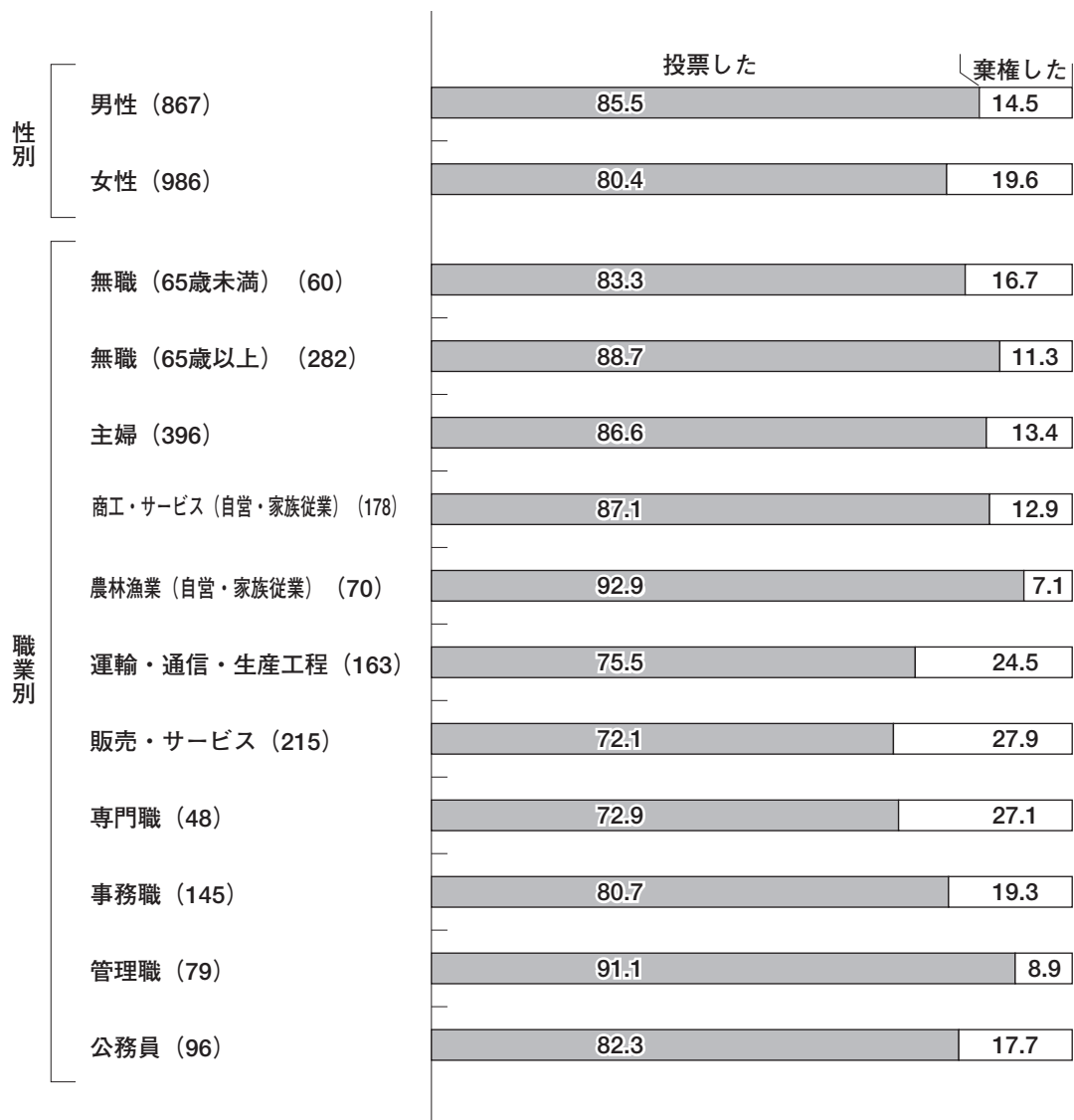
(2) 個人の属性と投票傾向

個人の属性と投票傾向の関係を図4-1に見てみる。年齢と投票傾向は、若い人ほど投票傾向が小さく、高年層ほど投票傾向が強いことがわかる。ただし、80歳以上では投票傾向が下がっている。このパターンはほぼ図2-4と同じである。

次に最終学歴の影響を、年代別に見てみよう。図4-1によると、若年層（20・30歳代）では、中学・高校卒の投票傾向が59.2%であるのに対し、高専・短大卒が70.4%、大学・大学院卒が70.2%である。つまり、最終学歴によって10ポイント程度の違いが出てきている。中年層（40・50歳代）では、学歴の影響はほとんど見てとれないが、高年層（60歳以上）では、中学・高校卒の投票傾向が88.0%であるのに対し、高専・短大卒が96.7%、大学・大学院卒が98.9%で、学歴によって10ポイント程度の違いが出ている。

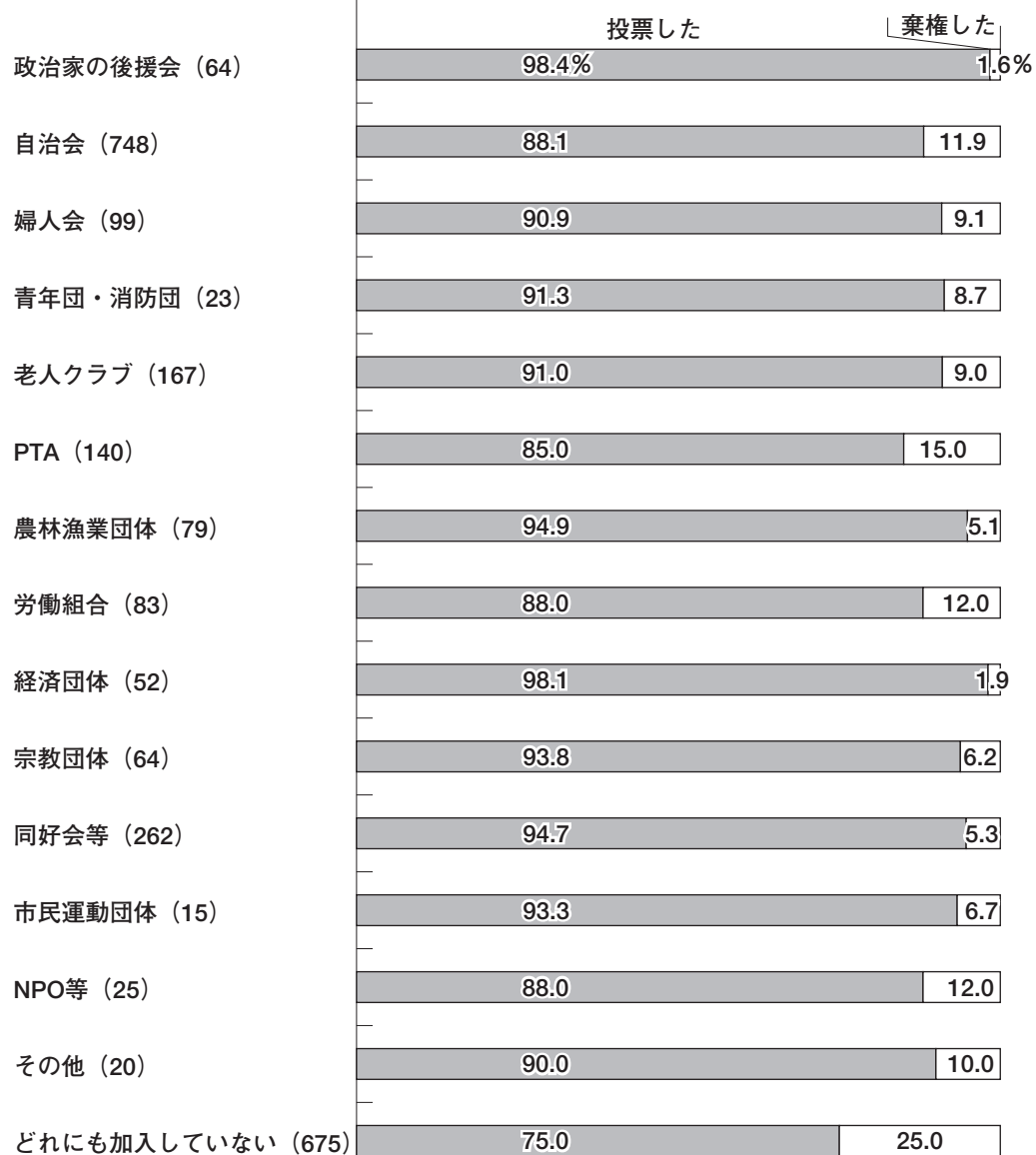
図 4－1 個人の属性と投票・棄権





職業別の投票傾向の違いを見てみると、農林漁業（92.9%）と管理職（91.1%）で特に投票傾向が高く、運輸・通信・生産工程（75.5%）、専門職（72.9%）、販売・サービス（72.1%）は低くなっている。

所属組織別の投票傾向を見てみると、団体に全く所属していない人の投票傾向は75.0%であり、いずれかの団体に所属している人よりも低い。もともと社会性のある人が団体に所属するのではないかということと、団体やグループに所属することで、社会・政治に関する情報を得たり、社会・政治運動に参加する機会も増えることから、投票傾向が高くなるのであらうと考えられる。



(3) 社会・政治意識と投票傾向

図4－2は、社会・政治意識（地元への愛着度、投票意識、政治関心、政党支持）と投票傾向の関係を表している。

本世論調査では、「あなたは、この市（区・町・村）にどの程度愛着を感じていますか」という質問をしている（F 8）。この質問に対して、38.2%が「非常に愛着を感じている」、47.4%が「ある程度愛着を感じている」、8.3%が「どちらでもない」、4.9%が「あまり愛着を感じていない」、0.9%が「まったく愛着を感じていない」と回答している。この回答を3つに分けて、投票傾向を図4－2で見ると、地元への愛着が強い人ほど投票傾向が高いという傾向が見てとれる。

次に投票義務感が投票傾向に与える影響を、年齢別に見てみよう。

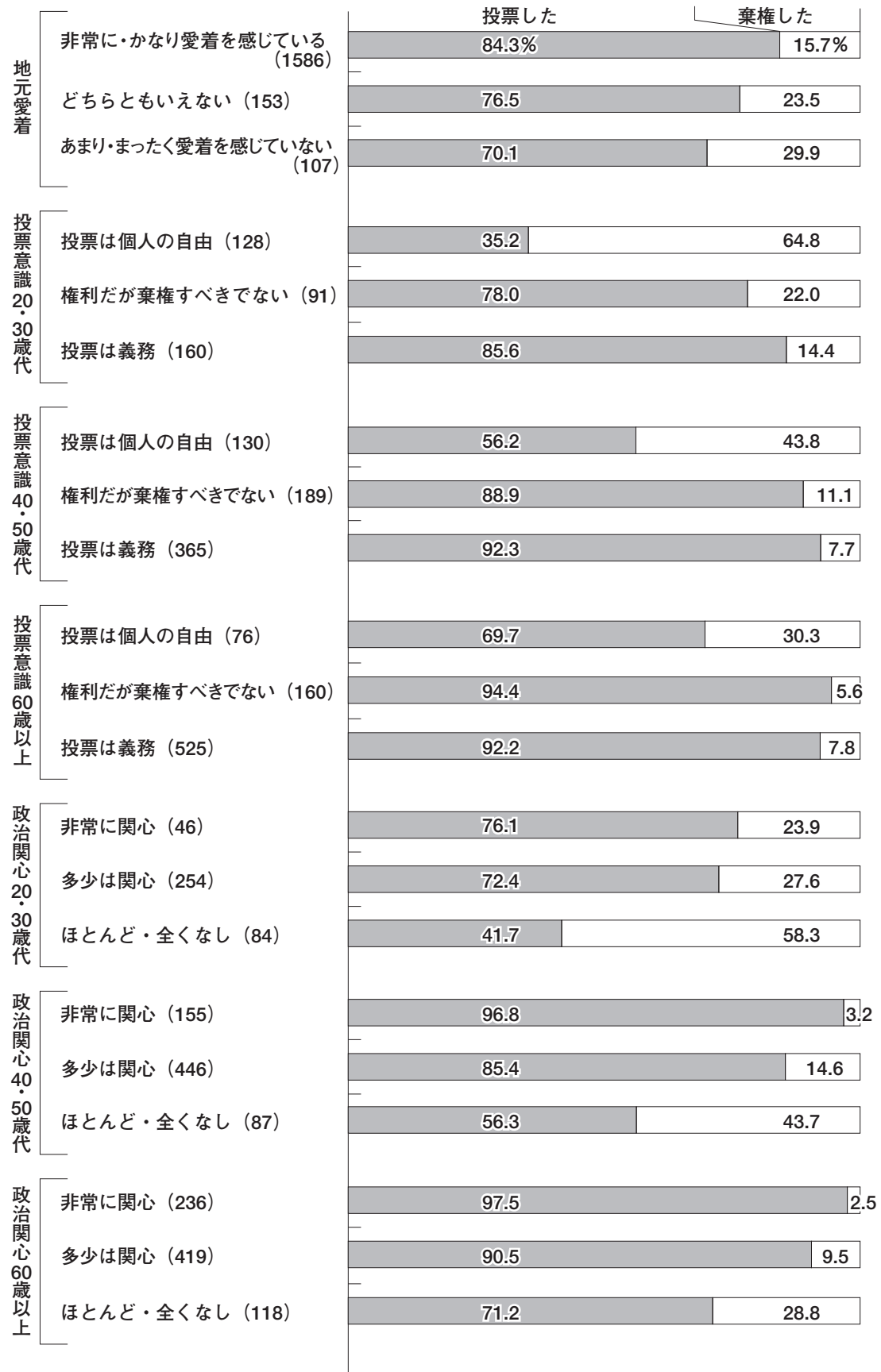
20～30歳代では、投票を「個人の自由」と位置づけている人の投票傾向は35.2%にすぎない。しかし、同じ20～30歳代でも、「権利だが棄権すべきではない」と位置づけている人の投票傾向は78.0%、「投票は義務」と考えている人は85.6%となっており、この世代では、投票義務感が投票傾向に大きく影響していることがわかる。

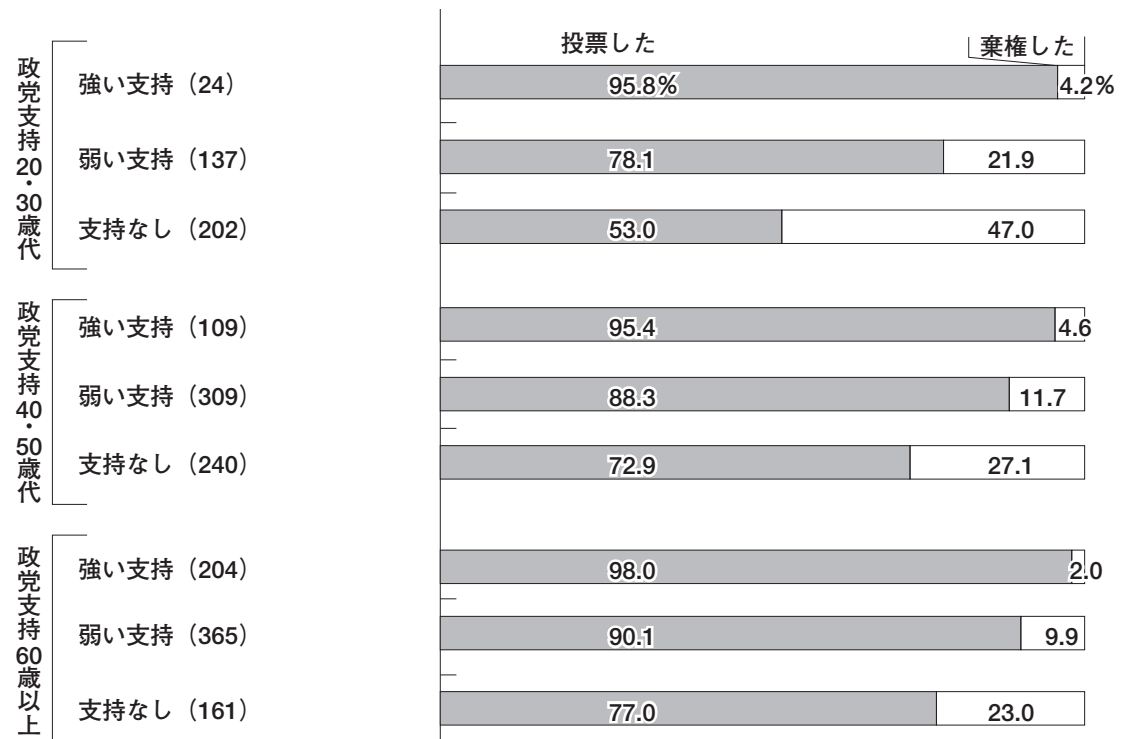
40～50歳代および60歳以上でも同じ傾向が見られ、「投票は個人の自由」と考えている人の投票傾向は低い。他の2つの選択肢を選んだ人との差は、20～30歳代より小さい。また、20～30歳代とは異なり、「権利だが棄権すべきではない」と考えている人と「投票は義務」と考えている人の投票傾向は、ほとんど差がない。

次に政治関心度と投票傾向の関係を年齢別に見てみよう。政治関心度は「あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心をもっていますか」という質問を指標としている。

20～30歳代に注目してみると、「ほとんど関心をもっていない」・「全く関心をもっていない」と答えた人の投票傾向は41.7%にすぎない。しかし、「多少は関心がある」と答えた人の72.4%が、「非常に関心がある」と答えた人の76.1%が投票に行っている。このように政治関心度は投票傾向に強く影響していることがわかる。同様の傾向は他の年齢層でも見られる。

図 4-2 社会・政治意識と投票傾向





次に政党支持と投票傾向の関係を年齢別に見てみよう。本調査では、「あなたは、ふだん何党を支持していच्छいますか」(Q22)という質問をし、政党を支持している人には「その政党を強く支持していますか、それほどでもありませんか」(Q22 S Q1)と質問している。この2つの質問の回答から、(1)「強い支持」(2)「弱い支持」(3)「支持なし」の3つに分類し、投票傾向の違いを年齢別に調べた。20～30歳代の場合、強い支持を持っている人の投票傾向は95.8%、弱い支持でも78.1%であるが、支持政党がないと53.0%と低くなる。40～50歳代と60歳以上の場合、支持政党がない人でも投票傾向はそれぞれ72.9%と77.0%で、20～30歳代の支持なしよりもかなり高い。40～50歳代・60歳以上では、政党支持の有無によって投票傾向に差は生じないが、20～30歳代では差が生じることがわかる。

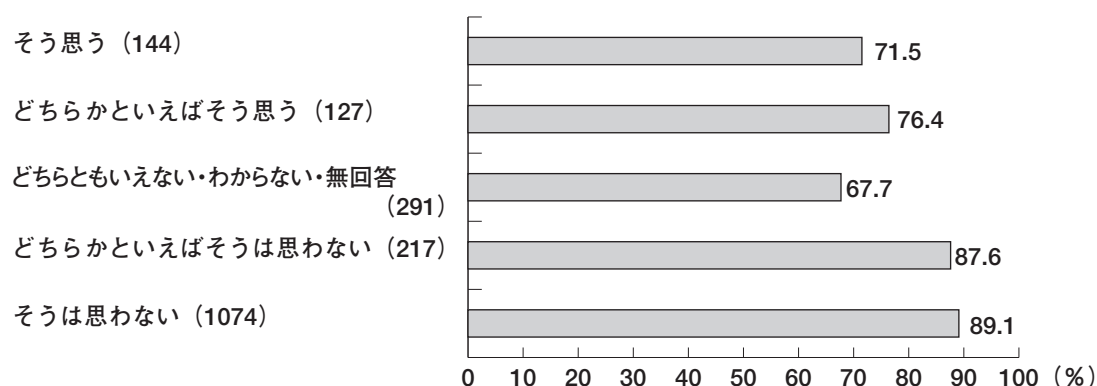
(4) 有効性感覚と投票傾向

今回の調査では、初めて、選挙や政治とのかかわり合いのあり方に関する意見、いわゆる「有効性感覚」を尋ねた（Q 5）。具体的には、(1)「自分の支持している政党や候補者が勝つ見込がないときには、投票してもむだである」、(2)「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しても、しなくても、どちらでもかまわない」、(3)「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない」、(4)「政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある」という4つの意見について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」の5つの選択肢の中から当てはまるものを選んでもらうという、政治意識調査ではごく一般的な形式の質問を行った。これら4つの意見に対する考え方と参院選での投票参加との関係を見たのが図4-3である。

まず(1)については、各選択肢を選んだ回答者の数は、「そう思う」が144名（7.8%）、「どちらかといえばそう思う」が127名（6.9%）、「どちらともいえない／わからない／答えない」が291名（15.7%）、「どちらかといえばそうは思わない」が217名（11.7%）、「そうは思わない」が1074名（58.0%）と、この意見に同意する人は少数派であった。そして、各選択肢を選んだ人の間での投票傾向については、「そう思う」が71.5%、「どちらかといえばそう思う」が76.4%、「どちらともいえない／わからない／無回答」が67.7%、「どちらかといえばそうは思わない」が87.6%、「そうは思わない」が89.1%であった。明確な意見を持たない人々（「どちらともいえない／わからない／無回答」を選択した人々）を除くと、「自分の支持している政党や候補者が勝つ見込がないときには、投票してもむだである」という意見に同意する人ほど棄権する比率が高いという顕著な傾向が見て取れよう。

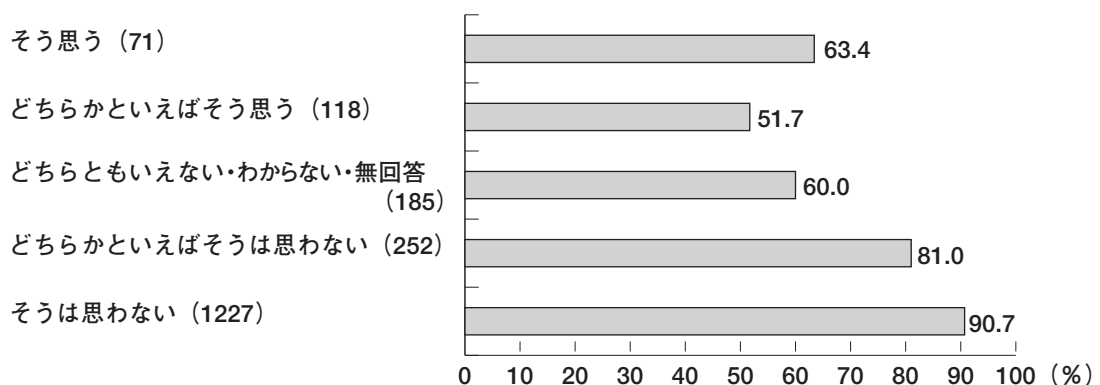
図4-3 有効性感覚と投票傾向

(1) 「自分の支持している政党や候補者が勝つ見込がないときには、投票してもむだである」



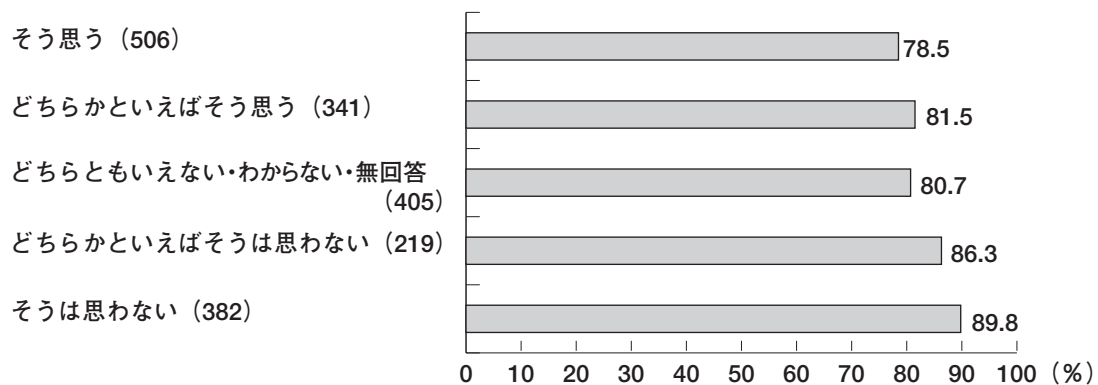
次に(2)については、各選択肢を選んだ回答者の比率を見ると、「そう思う」が71名(3.8%)、「どちらかといえばそう思う」が118名(6.4%)、「どちらともいえない／わからない／無回答」が185名(10.0%)、「どちらかといえばそうは思わない」が252名(13.6%)、「そうは思わない」が1227名(66.2%)で、この意見に同意しない人が圧倒的多数を占めるという、偏った分布を示している。各選択肢を選んだ人の投票傾向を見ると、「そう思う」が63.4%、「どちらかといえばそう思う」が51.7%、「どちらともいえない／わからない／無回答」が60.0%、「どちらかといえばそうは思わない」が81.0%、「そうは思わない」が90.7%であった。「そう思う」よりも「どちらかといえばそう思う」と答えた人の投票傾向が低いということで、きれいな線形の関係とはなっていないものの、「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しても、しなくても、どちらでもかまわない」という意見に同意する人は同意しない人に比べ棄権する比率が高いということは言えそうである。

- (2) 「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しても、しなくても、どちらでもかまわない」



続いて(3)については、各選択肢を選んだ回答者の数は、「そう思う」が506名(27.3%)、「どちらかといえばそう思う」が341名(18.4%)、「どちらともいえない／わからない／無回答」が405名(21.9%)、「どちらかといえばそうは思わない」が219名(11.8%)、「そうは思わない」が382名(20.6%)であった。そして、各選択肢を選んだ人の投票傾向については、「そう思う」が78.5%、「どちらかといえばそう思う」が81.5%、「どちらともいえない／わからない／無回答」が80.7%、「どちらかといえばそうは思わない」が86.3%、「そうは思わない」が89.8%であった。明確な意見を持たない人々を除き、「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない」という意見に同意する人ほど棄権する比率が高いという傾向が見られるが、考え方の違いによる投票傾向の差は10ポイント強とそれ程大きくない。

(3) 「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない」

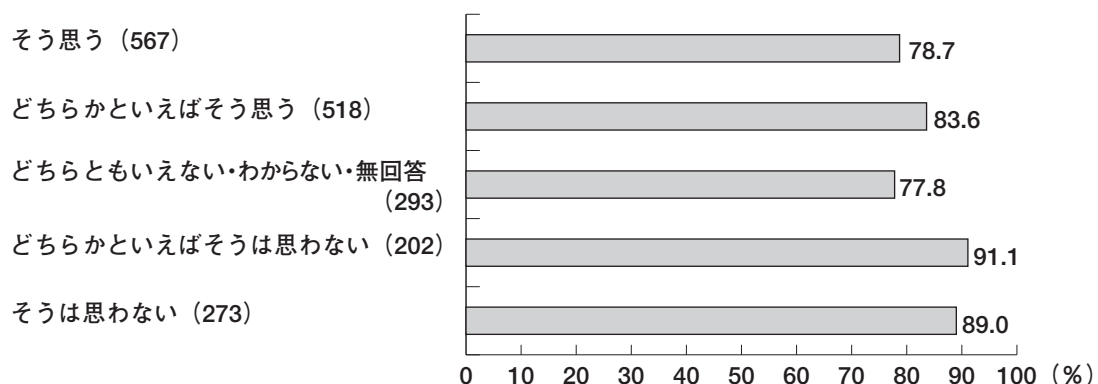


最後に(4)については、各選択肢を選んだ回答者の比率を見ると、「そう思う」が567名 (30.6%)、「どちらかといえばそう思う」が518名 (28.0%)、「どちらともいえない／わからない／無回答」が293名 (15.8%)、「どちらかといえばそうは思わない」が202名 (10.9%)、「そうは思わない」が273名 (14.7%) で、この意見に同意する人が多数を占めるという分布となっている。

各選択肢を選んだ人の投票傾向を見ると、「そう思う」が78.7%、「どちらかといえばそう思う」が83.6%、「どちらともいえない／わからない／無回答」が77.8%、「どちらかといえばそうは思わない」が91.1%、「そうは思わない」が89.0%であった。先の3つに比べ関係は明瞭ではないが、「政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある」という意見に同意する人は同意しない人に比べ棄権する人が多いように見える。

全体として、有効性感覚を持たない人に比べそれを持つ人ほど、棄権せずに投票所に足を運んだという傾向が読み取れる。

(4) 「政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある」



(5) 投票・棄権の要因

明推協の調査ではこれまで、投票した人だけを対象に投票に行った理由、棄権した人だけを対象に棄権した理由を尋ねていた¹。だが、このように投票した人と棄権した人との異なる項目を尋ねるのは、投票・棄権を促進する要因を明らかにする上で必ずしも適切な方法とは言えないのではなかろうか。そこで今回の調査では、「今回の参議院選挙についてお伺いします。次の(1)～(13)は、今回の選挙にどの程度あてはまりますか。あるいはあてはまりませんか。それぞれについて、この中から1つずつあげてください。(ア) あてはまる (イ) 少しあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない」という質問を、投票・棄権の判断に影響を与えと考えられる以下の13項目について、全回答者を対象に行った(Q 7)。

- (1) 投票日に、用事があった
- (2) 投票日に、体調がすぐれなかった
- (3) 自分の選挙区に、どうしても当選させたい候補者がいた
- (4) もりたてたい政党があった
- (5) 団体・組織・知り合いから、特定の候補者や政党に投票するよう、頼まれたり勧められたりした
- (6) 投票日の前に、どの候補者が当選しそうか、予想がついた
- (7) 政党の立場の違いがはっきりしていた
- (8) 投票に行くのは面倒だった
- (9) 自分の一票が、選挙結果を左右すると思えた
- (10) 自分の一票が、日本の政治のあり方を左右すると思えた
- (11) 選挙結果によって、自分の身の回りの生活や暮らし向きが左右されるように思えた
- (12) 選挙結果によって、日本の政治のあり方が左右されるように思えた
- (13) 候補者についてよくわからなかった

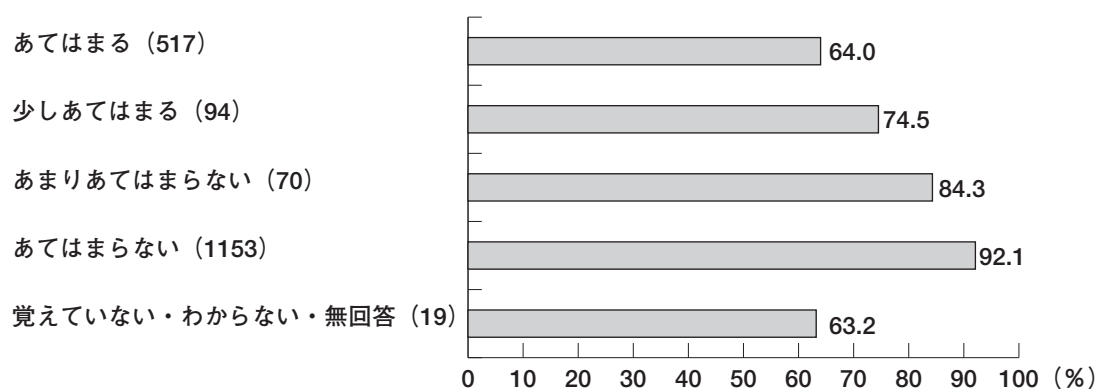
¹たとえば第20回参院選(平16)調査では、「今回の選挙で、投票に行かれたのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけ選んでください。 1. どうしても当選させたい候補者がいたから 2. もりたてたい政党があったから 3. 今の政治がよくないので、それを改めたいと思ったから 4. 政治をよくするためには、投票することが大事だから 5. 投票するのは国民の義務だから 6. 団体、組織、知り合いにたのまれて 7. その他」(Q 6S Q1)、「今回の選挙で、あなたが投票しなかったのはなぜですか。この中からあてはまるものをいくつかあげてください。 1. 用があったから 2. 病気だったから 3. 面倒だから(投票所が遠いからを含む) 4. 選挙にあまり関心がなかったから 5. 政策や候補者の人物などについて、事情がよくわからなかったから 6. 適当な候補者も政党もなかったから 7. 私一人が投票してもしなくても同じだから 8. 選挙によって政治はよくならないと思ったから 9. 今住んでいる所に選挙権がないから 10. その他」(Q 9)という質問が行われている。

「あてはまる」と回答した人の投票傾向が低く、「あてはまらない」と回答した人の投票傾向が高い項目は、投票参加にマイナスに働く要因、逆に「あてはまる」と回答した人の投票傾向が高く、「あてはまらない」と回答した人の投票傾向が低い項目は、投票参加にプラスに働く要因ということになる。これを検討するために、各項目に対する回答ごとに投票傾向をまとめたのが図4-4である。この図からは、投票参加にマイナスに働く要因とプラスに働く要因とが顕著に読み取れる。

マイナスに働く要因としては、(1)投票日に、用事があった、(2)投票日に、体調がすぐれなかった、(8)投票に行くのは面倒だった、(13)候補者についてよくわからなかった、の4つが挙げられる。とりわけ、「あてはまる」と回答した人が多かった(1)と(13)について、投票参加を抑制する効果が大きかったと言える。(1)では、「あてはまらない」と回答した1,153名の投票傾向が92.1%であるのに対し、「あてはまる」と回答した517名の投票傾向は64.0%と、28ポイントの差がある。(13)では、「あてはまらない」と回答した522名の投票傾向が90.0%であるのに対し、「あてはまる」と回答した410名の投票傾向は68.0%で、22ポイントの差がある。「あてはまる」と回答した人自体が少ないため及ぼす影響はより小さいものの、これと同様の傾向が(2)(8)でも確認できる。容易に予想されることではあるが、投票日に用事があった、候補者についてよくわからなかった、投票日に体調がすぐれなかった、投票に行くのが面倒だと感じた場合には、そうでない場合に比べ、棄権する傾向が明らかである²。

図4-4 投票・棄権の要因

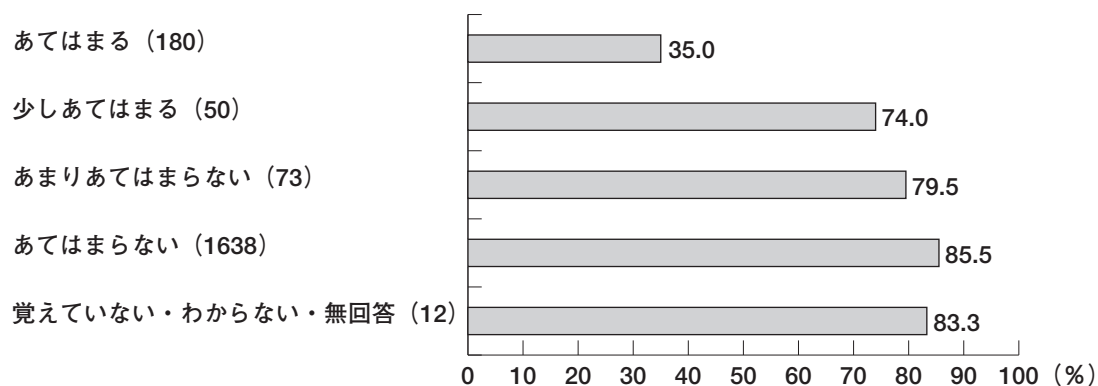
(1) 投票日に、用事があった



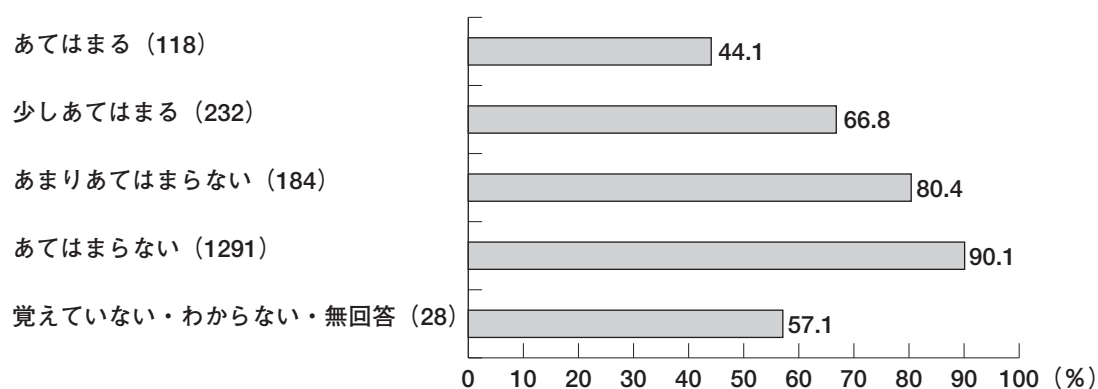
² なお、本論からは逸れるものの、「投票に行くのは面倒だった」という意見と自宅から投票所までの距離との関係を分析したところ、両者の間には全く関連性が見出されなかった。

³ もっとも、(6)に関して得られた結果は、予想とは正反対のものであった。投票日の前にどの候補者が当選しそうか予想がついた人ほど棄権すると予想したが、実際には、予想がつかなかった人ほど棄権する傾向が見られたのである。これが有権者の実態を表しているのか、質問文の不備から生じた誤った結果なのかについて、今後改めて検討する必要があるだろう。

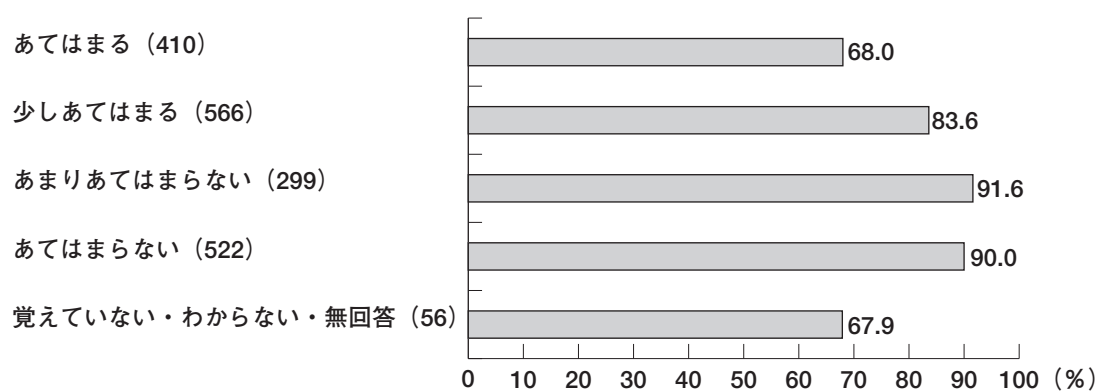
(2) 投票日に、体調がすぐれなかった



(8) 投票に行くのは面倒だった

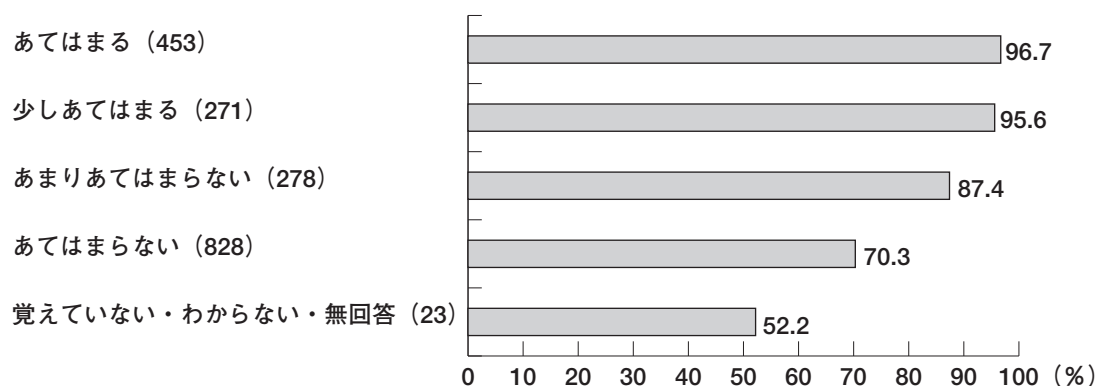


(13) 候補者についてよくわからなかった

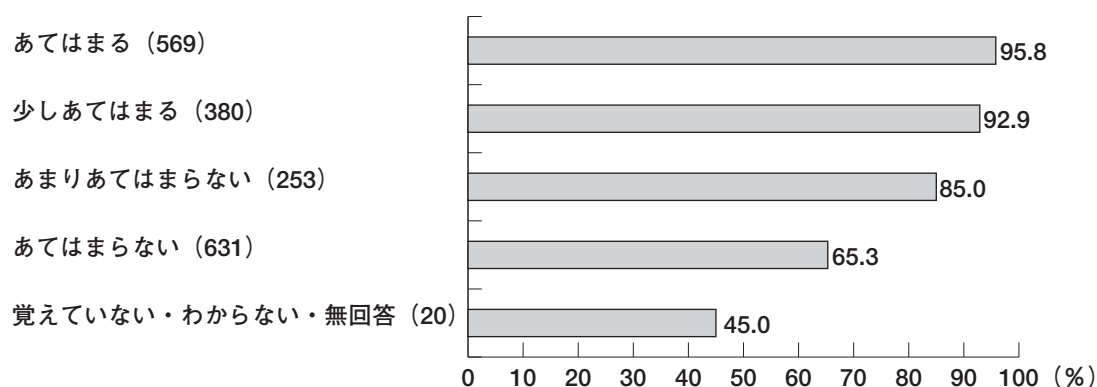


これに対し残る 9 項目に関しては、「あてはまらない」と回答した人に比べ「あてはまる」と回答した人の投票傾向がより高く、投票参加にプラスに働いたということが見て取れる。たとえば(4)では、「あてはまらない」と回答した631名の投票傾向が65.3%であるのに対し、「あてはまる」と回答した569名の投票傾向は95.8%で、後者の方が前者よりも約30ポイント投票傾向が高い。これと同様の傾向を他の 8 項目についても確認できる。つまり今回の選挙に際して、「自分の選挙区に、どうしても当選させたい候補者がいた」、「もりたてたい政党があった」、「団体・組織・知り合いから、特定の候補者や政党に投票するよう、頼まれたり勧められたりした」、「政党の立場の違いがはっきりしていた」、「自分の一票が、選挙結果を左右すると思えた」、「自分の一票が、日本の政治のあり方を左右すると思えた」、「選挙結果によって、自分の身の回りの生活や暮らし向きが左右されるように思えた」、「選挙結果によって、日本の政治のあり方が左右されるように思えた」人ほど、投票所に足を運ぶ傾向があったことがわかる。

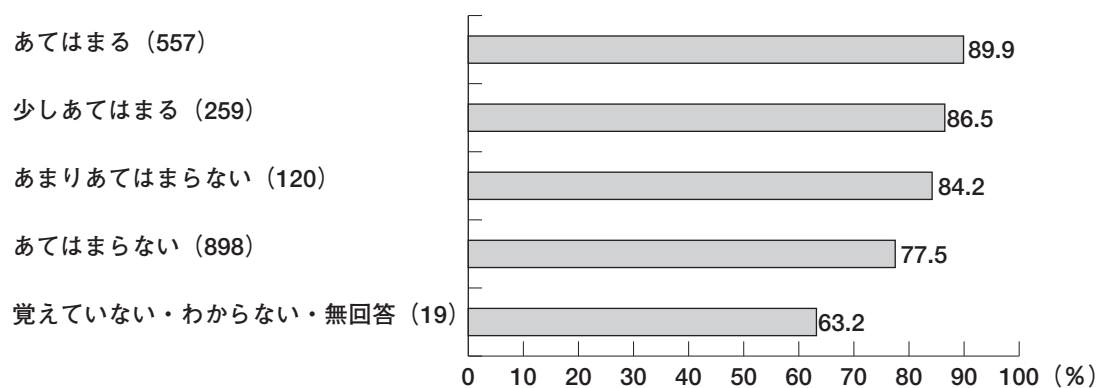
(3) 自分の選挙区に、どうしても当選させたい候補者がいた



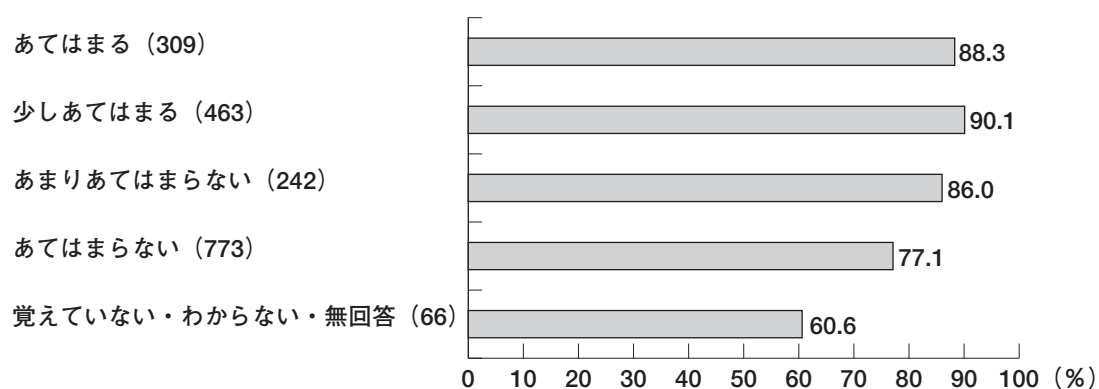
(4) もりたてたい政党があった



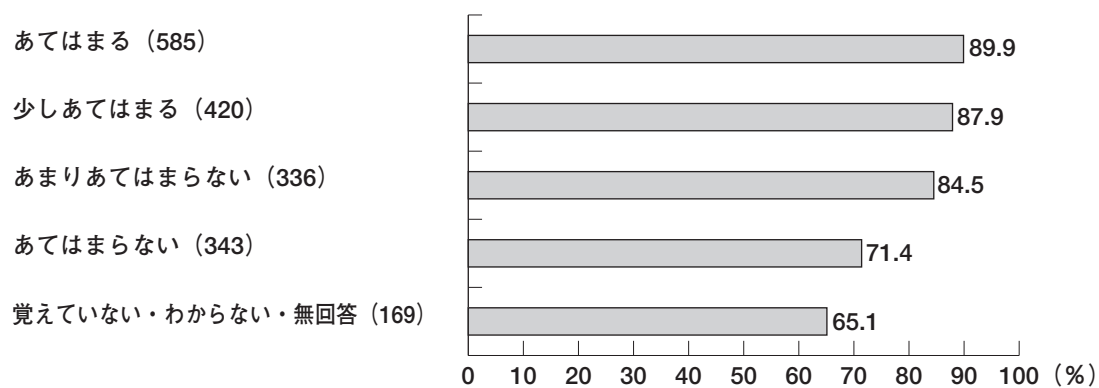
(5) 団体・組織・知り合いから、特定の候補者や政党に投票するよう、頼まれたり勧められたりした



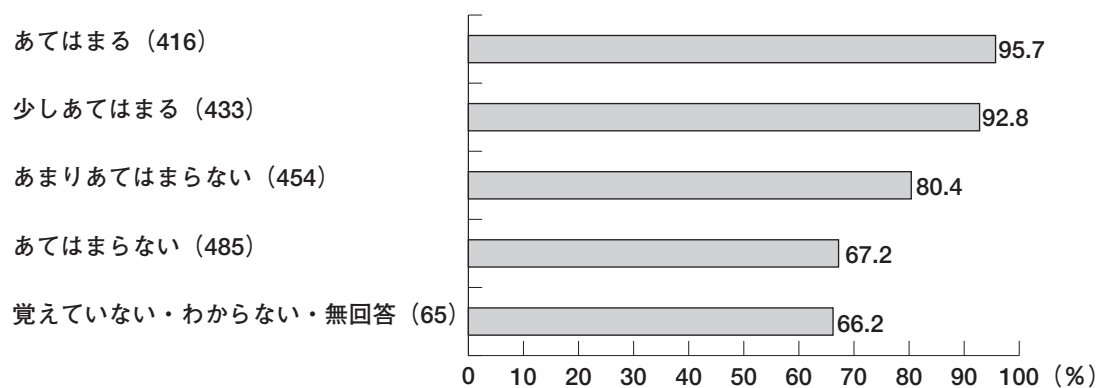
(6) 投票日の前に、どの候補者が当選しそうか、予想がついた



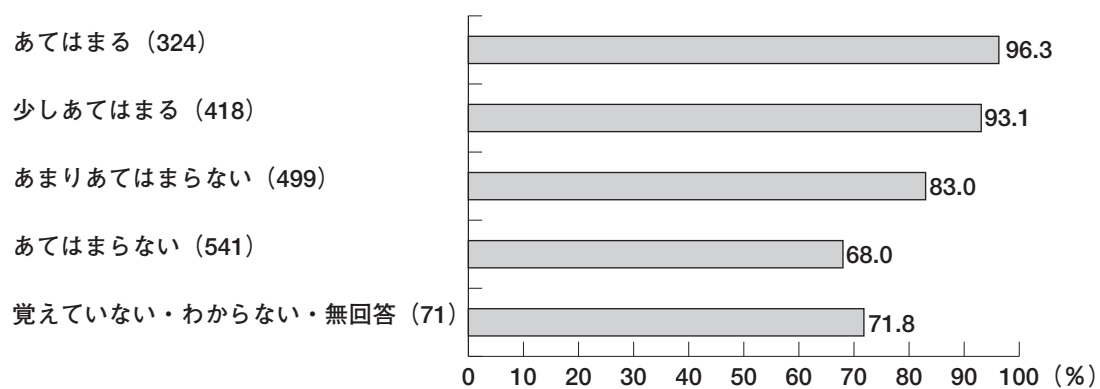
(7) 政党の立場の違いがはっきりしていた



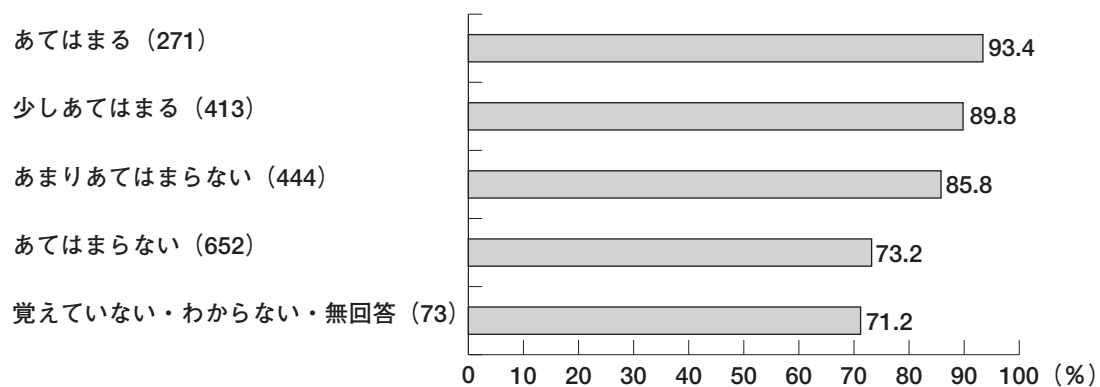
(9) 自分の一票が、選挙結果を左右すると思えた



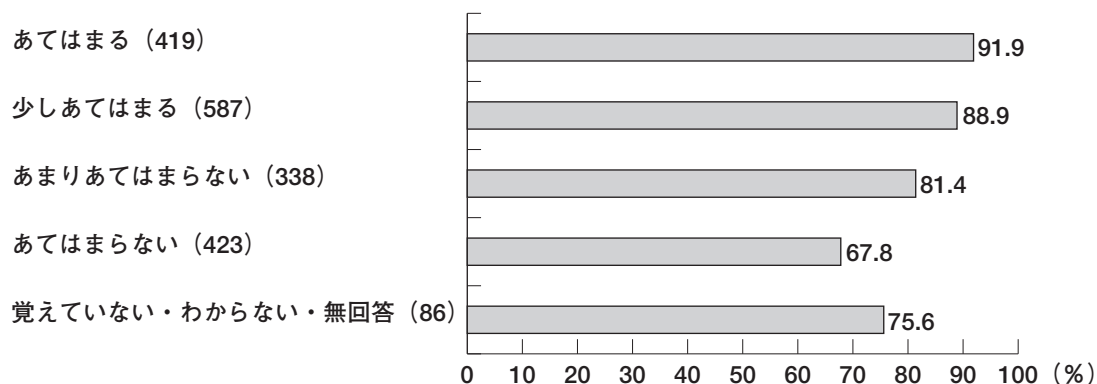
(10) 自分の一票が、日本の政治のあり方を左右すると思えた



(11) 選挙結果によって、自分の身の回りの生活や暮らし向きが左右されるように思えた



(12) 選挙結果によって、日本の政治のあり方が左右されるように思えた

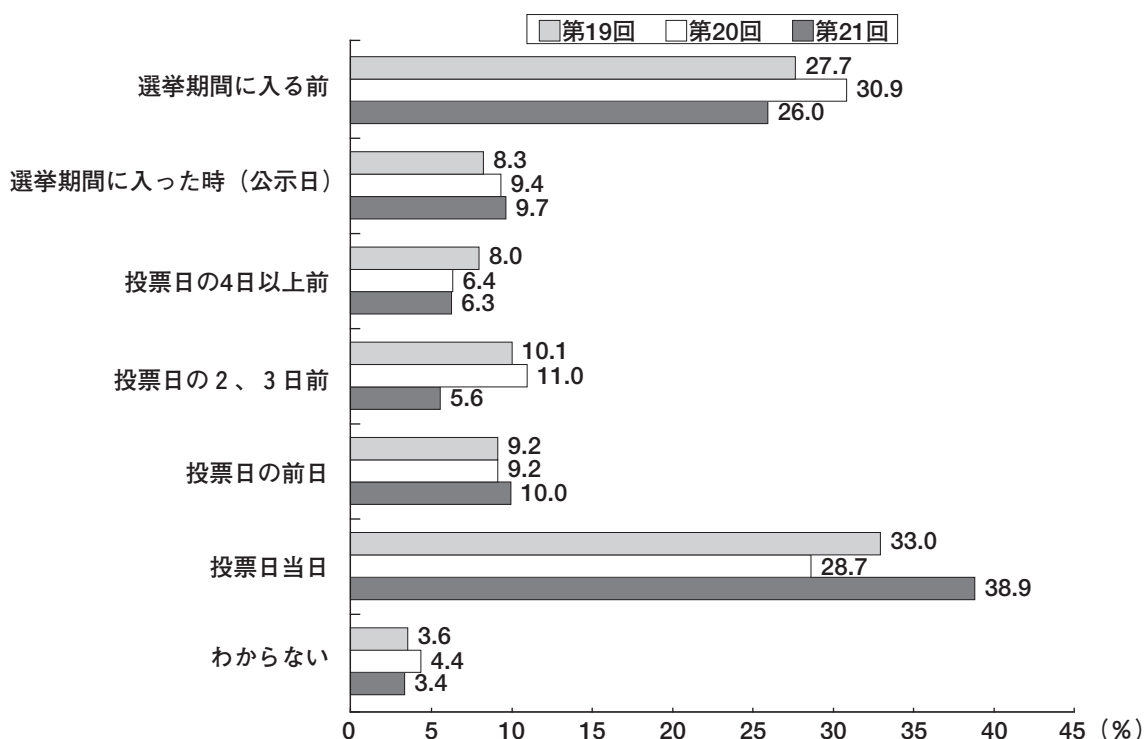


(6) 棄権決定時期

本世論調査では、今回参院選での投票を棄権した対象者に「今回の選挙で、あなたが投票しないことを決めたのはいつごろですか」という質問をした（Q8S Q5）。

図4-6では、その結果を過去の調査のものと比較している。今回の棄権者の内、26.0%が選挙期間に入る前に棄権することを決めていた。割合が最も大きいのは投票日当日で、38.9%が投票日当日に棄権することを決定していた。過去2回（第19回と第20回）の参院選後の調査と比較してみると、基本的には類似した傾向が見てとれるが、投票日当日に棄権することを決めた割合が今回やや増えていることがわかる。

図4-6 棄権することを決めた時期

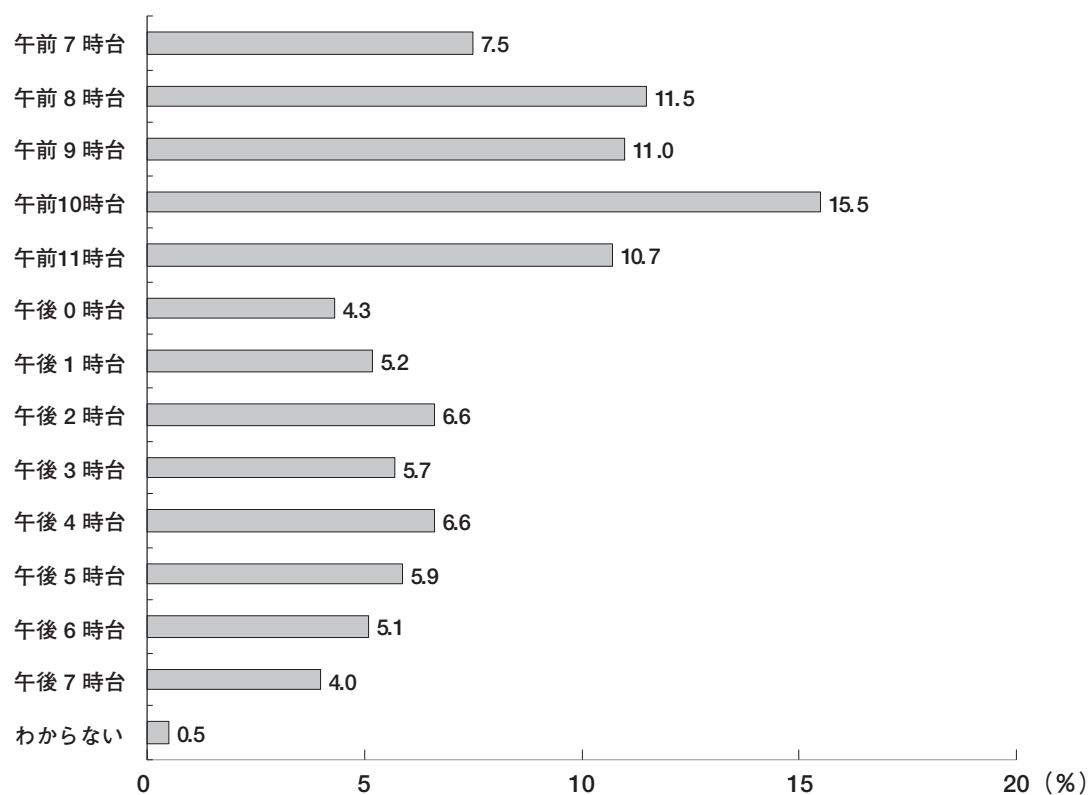


5 投票時間

図 5－1 は、選挙当日投票した人の投票時刻の分布を表している。午前中に投票する人が多く、正午までに56.2%が投票をすましている。

午後 6 時から 8 時の間に投票した投票者の割合は全体で9.1%であった。

図 5－1 当日投票した時刻

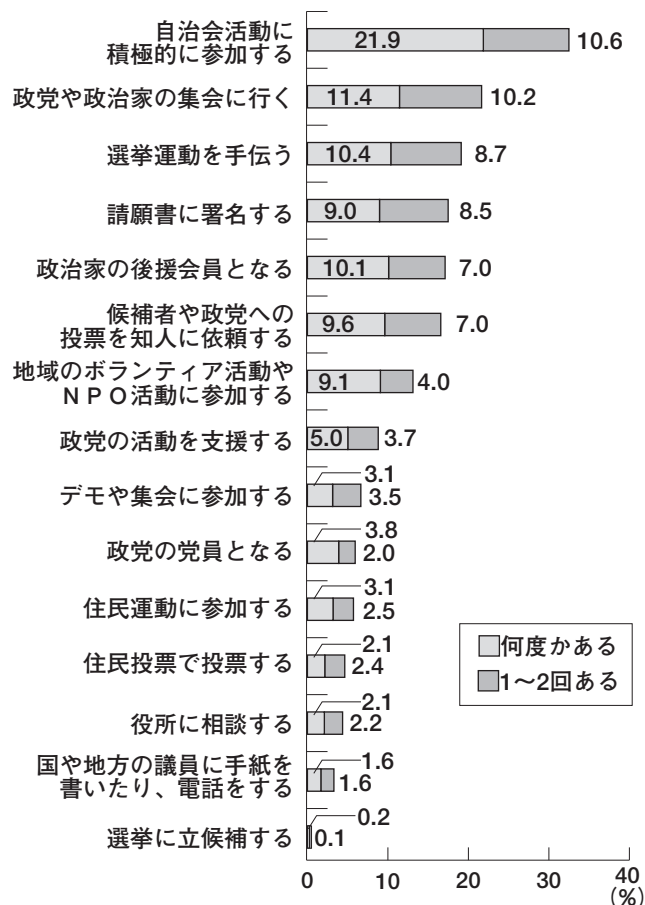


6 投票以外の政治参加

選挙で投票する以外の形で、有権者はどの程度政治に参加しているのでしょうか。本調査では、投票以外の15の政治参加の形態について、過去の経験の有無を尋ねている（Q20）。具体的には、「選挙に立候補する」、「選挙運動を手伝う」、「候補者や政党への投票を知人に依頼する」、「政治家の後援会員となる」、「政党の党员となる」、「政党の活動を支援する（献金・党の機関紙の購読）」、「政党や政治家の集会に行く」、「国や地方の議員に手紙を書いたり、電話をする」、「役所に相談する」、「請願書に署名する」、「デモや集会に参加する」、「住民投票で投票する」、「地域のボランティア活動やNPO活動に参加する」、「住民運動に参加する」、「自治会活動に積極的に参加する」の15項目について、「何度かある」、「1～2回ある」、「1度もない」の中から該当するものを選んでもらった。その結果をまとめたのが図6－1である。

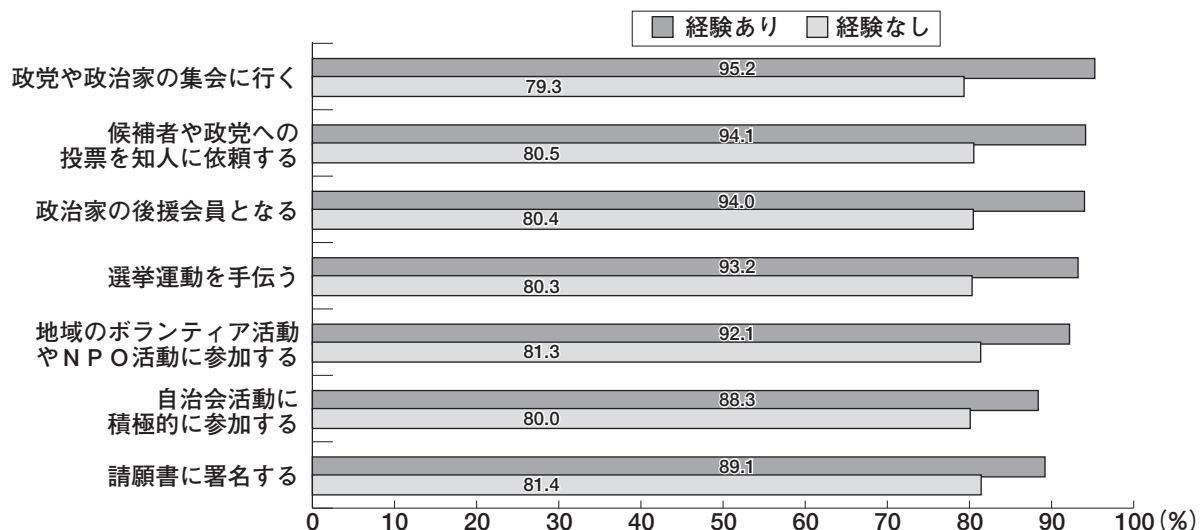
過去に1度でも経験したことのある人（「何度かある」もしくは「1～2回ある」を選じた人）の比率を見ると、投票以外で最も高いのが「自治会活動に積極的に参加する」で、少なくとも1度は積極的に参加したことがあると回答した人は32.5%（「何度かある」が21.9%、「1～2回ある」が10.6%）であった。以下、言及率が10%を超えた項目は、「政党や政治家の集会に行く」（「何度かある」が11.4%、「1～2回ある」が10.2%、計21.6%）、「選挙運動を手伝う」（「何度かある」が10.4%、「1～2回ある」が8.7%、計19.1%）、「請願書に署名する」（「何度かある」が9.0%、「1～2回ある」が8.5%、計17.5%）、「政治家の後援会員となる」（「何度かある」が10.1%、「1～2回ある」が7.0%、計17.1%）、「候補者や政党への投票を知人に依頼する」（「何度かある」が9.6%、「1～2回ある」が7.0%、計16.6%）、「地域のボランティア活動やNPO活動に参加する」（「何度かある」が9.1%、「1～2回ある」が4.0%、計13.1%）であった。

図 6－1 投票以外の政治参加



さて、こういった投票以外の形態で政治に参加した経験を持つことと、今回参院選で投票することとは関連していたのであろうか。言及率が10%を超えた7項目について、言及した人の投票傾向、言及しなかった人の投票傾向を求め、その差が大きい順に並べたのが図 6－2 である。これを見ると、どのような形の政治参加であれ、参加したことがある人は参加したことがない人よりも投票傾向が高い。しかし一口に政治参加といっても、その種類によって投票参加との関連の強さに多少の違いがあることがわかる。すなわち、選挙と直接関係する「政党や政治家の集会に行く」（経験あり95.2%－経験なし79.3%＝15.9%以下同じ）、「候補者や政党への投票を知人に依頼する」（13.6%）、「政治家の後援会員となる」（13.6%）、「選挙運動を手伝う」（12.9%）という政治参加の形に比べ、直接関係しない「地域のボランティア活動やNPO活動に参加する」（10.8%）、「自治会活動に積極的に参加する」（8.3%）、「請願書に署名する」（7.7%）という政治参加の形とでは、参加経験の有無による投票傾向の差が小さい。

図 6－2 投票以外の政治参加と今回参院選における投票との関係



7 政治的志向

政党支持や保革イデオロギーといった有権者の心理的志向は、実際の政治行動を強く規定する。換言すれば、そうした心理的志向から、その人の政治行動をある程度予測できる。本節では、政治行動を規定する心理的諸要因、具体的には(1)政党支持、(2)保革イデオロギー、(3)考慮した問題、(4)政治信頼度・政治満足度・生活満足度について検討する。

(1) 政党支持

有権者の政党支持は、実際の投票行動と密接に結びついており、投票行動決定の心理的要因として極めて重要な意味を持つ。本調査では、「あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか」(Q22)と、「ふだん」という表現を入れることで、より長期的な政党支持態度の測定を試みている。この点で、「いま、あなたは何党を支持していますか」と聞くことの多い新聞社などの世論調査における政党支持とは少し意味合いが異なることに留意する必要がある。ここで着目するのは、①参院選直後の政党支持の分布はどのようなものか、②政党支持なし層はどの程度を占めるのか、③その政党支持の分布は時系列的にどの程度変化しているのか、④政党支持と社会的属性との間にはいかなる関係が存在するのか、という4つの論点である。順に見ていくことにしよう。

図7-1の円グラフは、今回の調査における支持強度を要素に入れた、政党支持の状況である。支持政党、各党を挙げた比率は、自民党35.0%、民主党18.5%、公明党5.1%、共産党2.5%、社民党1.3%であった。また「支持政党なし」と「わからない・無回答」を挙げた比率は37.3%であった。支持強度に着目すると、自民党を挙げた人の中で、「強く支持している」のは24.2%、「それほどでもない／わからない」のは75.8%であった。同様に、民主党を挙げた人の中で、「強く支持している」のは26.5%、「それほどでもない／わからない」のは73.5%であった。自民・民主両党共に支持者の中で強く支持している人は少ない点に特徴があると言えよう。

図7-1 政党支持

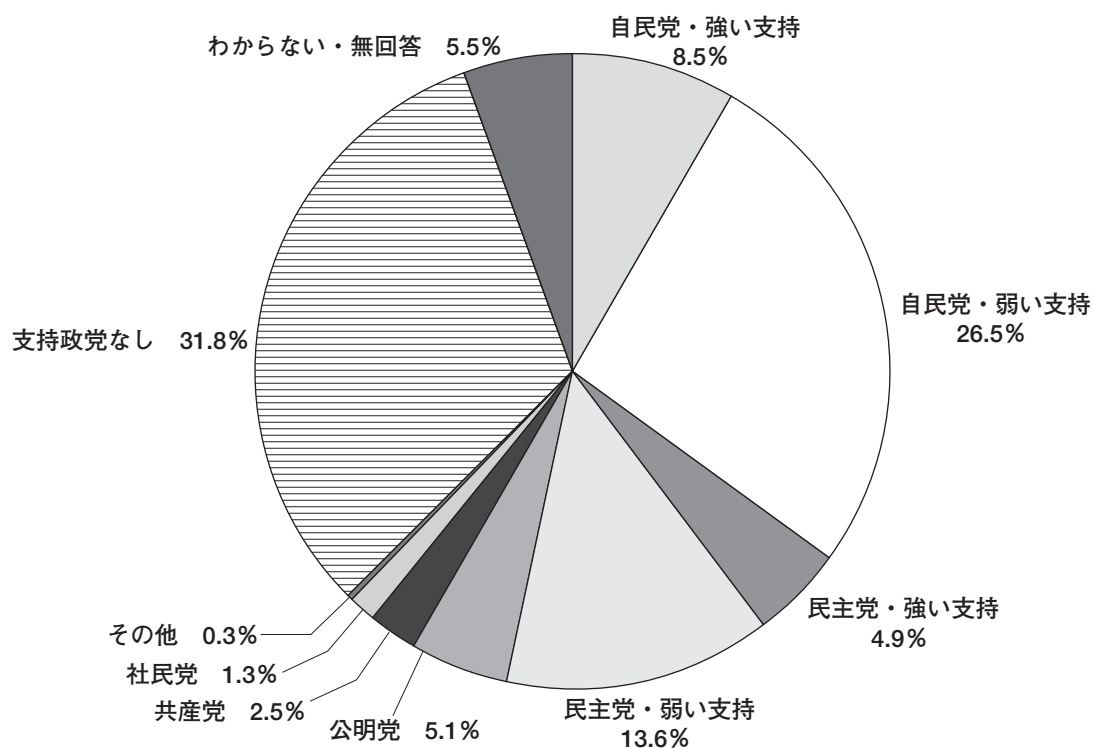
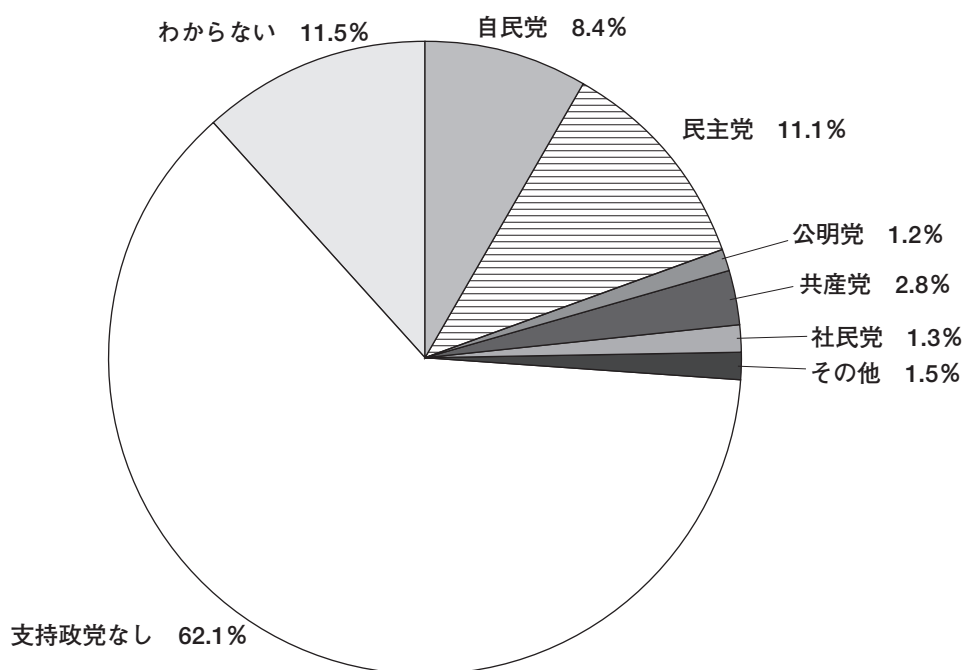


図7-2の円グラフは、Q22で「支持政党なし」もしくは「わからない」と回答した667名を対象に、「あなたは、支持するまでではなくても、ふだん好ましいと思っている政党がありますか。あればあげてください」（SQ2）と尋ねた回答をまとめたものである。これによると、「支持するまでではなくても、ふだん好ましいと思っている政党」として自民党を挙げた人が8.4%、民主党を挙げた人が11.1%いる一方で、「そのような政党はない」と回答した人が62.1%、「わからない」とした人が11.5%もいる。全回答者の3割弱を占めるこの層が、純粋な「支持なし層」ということになる。

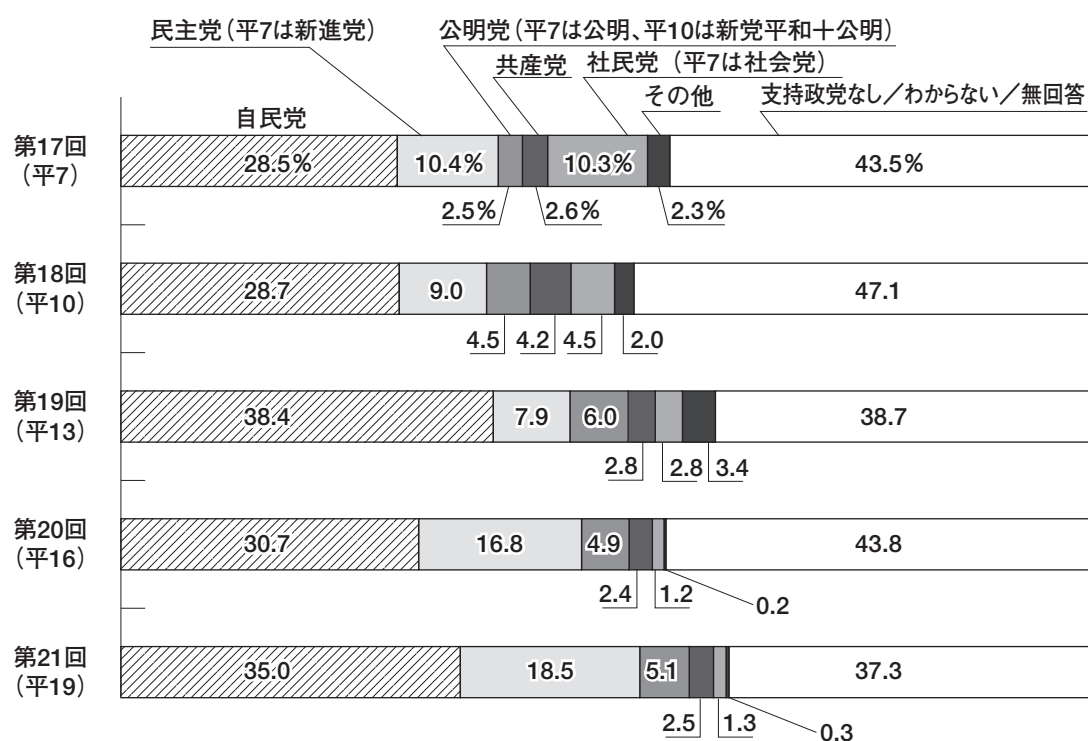
図7-2 支持なし層にとっての「好ましい政党」



続いて、時系列的に、第17回参院選（平7）から今回参院選（平19）にかけての政党支持の分布の変化を見たのが図7-3である。特徴は次の4点に要約できる。第一に、今回参院選で自民党は未曾有の大惨敗を喫したものの、「ふだん」の政党支持のレベルでは、前回参院選（平16）が30.7%であったのに対し今回参院選では35.0%と、支持率を増大させている。小泉純一郎内閣の発足に沸いた第19回参院選（平13）の38.4%には及ばないものの、高い支持率を誇っているのである。第二に、今回参院選で大躍進を遂げた民主党は、「ふだん」の政党支持のレベルでも、時を経るごとに次第に支持率を上昇させている。第19回参院選（平13）が7.9%、前回参院選（平16）が16.8%であったのに対し、今回参院選は18.5%と、これまでで最高の支持率を記録して

いる。第三に、これら2つの特徴の裏返しとして、政党支持なし層⁴が、この5回の参院選後調査の中で最少の37.3%となっている。第四に、いずれかの政党を支持する人々の間では、二大政党化が顕著に進行している。第17回参院選（平7）当時、いずれかの政党を支持する人々の中に占める、自民党・新進党支持者の比率は68.7%であった。それが今回参院選には、いずれかの政党を支持する人々の中に占める、自民党・民主党支持者の比率は85.3%にも上るのである。

図7-3 政党支持（第17回（平7）～第21回（平19））



⁴ 以下本報告書では、「支持なし」に、支持政党を問う質問（Q22）で「わからない」「無回答」とした回答者を含む。

最後に、社会的属性と政党支持との関係を検討しよう（表7-1参照）。まず、性別に関しては、男性（33.2%）に比べ女性（40.9%）の方が支持なし層が多い。また、民主党は、男性の支持率が22.6%であるのに対し、女性の支持率は14.9%と低い。

年齢に関しては、80歳以上を除き、年齢が上がるにつれて支持なしの比率が低下すると共に、自民党支持率が上昇する傾向が見られる。民主党支持率は、40歳代・50歳代を頂点とした単峰分布を示している。

学歴に関しては、時代によって進学率が大幅に異なるので、年齢別にその影響を見る必要がある。ここでは、「20歳以上40歳未満」「40歳以上60歳未満」「60歳以上」の3つに分類する。まず20歳以上40歳未満の人々に関しては、学歴が高くなるにつれて自民党支持率が低下し、支持なし層が増大するが、民主党支持率と学歴との間に線形の関係は見られない、という特徴を指摘できる。40歳以上60歳未満の人々に関しては、学歴が高くなるにつれて自民党支持率が低下し、民主党支持率が上昇するという傾向は見られるものの、明瞭な線形の関係ではない。最後に60歳以上の人々に関しては、学歴が高くなるにつれ自民党支持率が低下し、民主党支持率が上昇する傾向が見られるが、学歴による差異はさほど大きくはない。言い換えれば、学歴の影響は若年層ほど大きく、年齢が上がるにつれ小さくなっていく。

職業に関しては、農林業・漁業従事者（65.8%）、商工業・サービス業・自由業従事者（40.5%）、無職の人（43.3%）の自民党支持率が全体（35.0%）より高く、管理職（26.5%）、専門職（20.0%）、事務職（22.3%）、運輸業・通信・生産工程従事者（26.9%）、学生（19.0%）の民主党支持率が全体（18.5%）より高い。支持なしの比率が全体（37.2%）より高いのは、専門職（50.0%）、事務職（53.7%）、販売業・サービス業（45.0%）、学生（57.1%）、主婦（40.6%）である。政党支持と居住地域との間には、はっきりとした関係は見られない。

表 7－1 社会的属性と政党支持

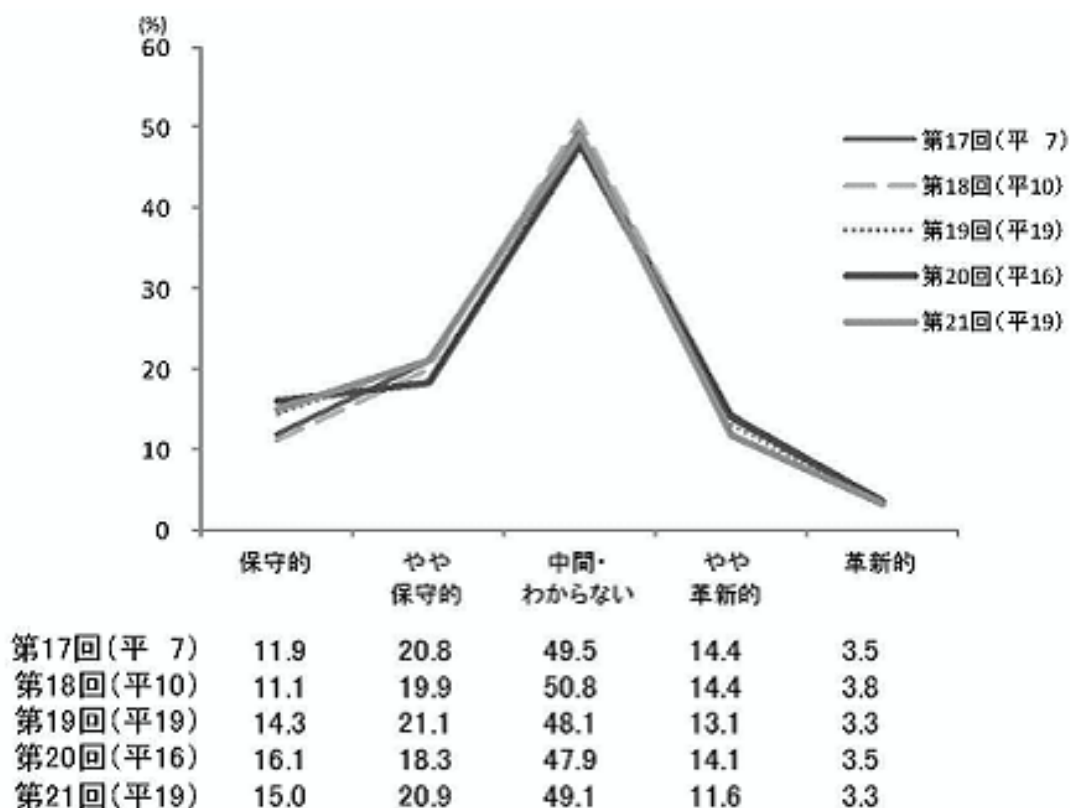
	自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	支持 あり	支持 なし	わからない 無回答	実数
<u>全体</u>	35.0%	18.5%	5.1%	2.5%	1.3%	0.3%	62.7%	32.5%	4.7%	1,853
<u>性別</u>										
男性	36.6	22.6	3.7	2.0	1.5	0.5	66.8	28.4	4.8	867
女性	33.6	14.9	6.3	2.9	1.2	0.2	59.1	36.2	4.7	986
<u>年齢</u>										
20歳代前半	14.3	12.7	0.0	1.6	0.0	0.0	28.6	65.1	6.3	63
20歳代後半	18.1	11.7	2.1	1.1	0.0	0.0	33.0	60.6	6.4	94
30歳代	25.8	17.5	4.8	2.2	0.0	0.0	50.2	45.4	4.4	229
40歳代	26.5	21.3	4.8	1.9	0.6	0.3	55.5	40.0	4.5	310
50歳代	32.7	20.8	5.3	4.0	2.4	0.3	65.4	30.6	4.0	379
60歳代	43.6	19.5	5.2	2.0	0.7	0.7	71.8	23.2	5.0	401
70歳代	49.1	16.5	7.0	2.1	3.5	0.4	78.6	16.8	4.6	285
80歳以上	45.7	15.2	5.4	4.3	1.1	0.0	71.7	21.7	6.5	92
<u>学歴：20～40歳未満</u>										
中学卒	30.8	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	53.8	30.8	15.4	13
高校卒	25.6	17.8	5.4	0.8	0.0	0.0	49.6	46.5	3.9	129
短大・高専卒	21.4	12.2	5.1	5.1	0.0	0.0	43.9	54.1	2.0	98
大学・大学院卒	19.1	15.6	0.7	0.0	0.0	0.0	35.5	57.4	7.1	141
<u>学歴：40～60歳未満</u>										
中学卒	43.8	9.4	12.5	4.7	3.1	0.0	73.4	25.0	1.6	64
高校卒	27.1	21.7	6.0	3.3	1.0	0.3	59.5	36.1	4.3	299
短大・高専卒	30.8	17.1	4.8	3.4	2.1	0.0	58.2	37.7	4.1	146
大学・大学院卒	29.4	27.7	1.1	1.7	1.7	0.6	62.1	33.9	4.0	177
<u>学歴：60歳以上</u>										
中学卒	47.2	13.2	8.3	1.5	1.9	0.4	72.5	22.6	4.9	265
高校卒	46.9	19.8	5.3	2.5	1.7	0.6	76.8	19.3	3.9	358
短大・高専卒	43.3	20.0	6.7	0.0	1.7	0.0	71.7	26.7	1.7	60
大学・大学院卒	42.7	21.3	1.1	5.6	2.2	1.1	74.2	15.7	10.1	89
<u>職業</u>										
農林業・漁業	65.8	17.8	1.4	0.0	0.0	0.0	84.9	13.7	1.4	73
商工業・サービス業・自由業	40.5	15.5	5.5	3.0	1.5	1.0	67.0	31.0	2.0	200
管理職	34.7	26.5	2.0	1.0	1.0	0.0	65.3	29.6	5.1	98
専門職	26.3	20.0	1.3	1.3	1.3	0.0	50.0	42.5	7.5	80
事務職	19.1	22.3	2.7	1.1	1.1	0.0	46.3	46.8	6.9	188
販売業・サービス業	31.4	15.0	4.5	3.2	0.9	0.0	55.0	40.0	5.0	220
運輸業・通信・生産工程	34.1	26.9	4.8	0.6	0.6	0.6	67.7	30.5	1.8	167
学生	23.8	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	57.1	0.0	21
主婦	32.6	14.6	7.1	3.5	1.3	0.3	59.3	34.3	6.3	396
無職	43.3	17.8	6.4	4.1	2.9	0.6	75.1	20.2	4.7	342
<u>居住地域</u>										
東京都区部	32.1	19.3	8.3	3.7	0.0	0.9	64.2	24.8	11.0	109
17大都市	25.6	24.9	3.3	3.3	1.3	0.3	58.7	37.0	4.3	305
人口10万以上の市	34.3	16.2	5.6	1.7	1.6	0.1	59.4	35.2	5.4	773
人口10万未満の市	41.4	18.2	3.9	3.2	1.3	0.2	68.2	27.5	4.3	466
町村	38.5	18.0	7.0	2.0	1.5	1.0	68.0	31.5	0.5	200

(2) 保革イデオロギー

個人や政党の政治的立場を表す際、保守—革新イデオロギーという「ものさし」を用いることがよくある。保革イデオロギーは有権者の政治意識の深層にあり、投票行動を強く規定する。もっとも、保革イデオロギーには経済的側面、価値的側面、政策的側面などがあり、明快に定義することは難しい。

本調査では、「よく保守的とか革新的とかいう言葉が使われていますが、あなたご自身はこの中のどれにあたるとおもいますか。(ア) 保守的 (イ) やや保守的 (ウ) 中間 (エ) やや革新的 (オ) 革新的」という質問で、有権者の保革イデオロギーに関する自己認識を尋ねた (Q21)。今回の調査結果を過去4回と比較したのが図7-4である。この12年の間に、政党システムの変化や政権担当政党の変化を経験したにもかかわらず、有権者の保革イデオロギー分布はほぼ安定しており、保守寄りにやや偏った、「中間」にピークがある単峰形となっている。

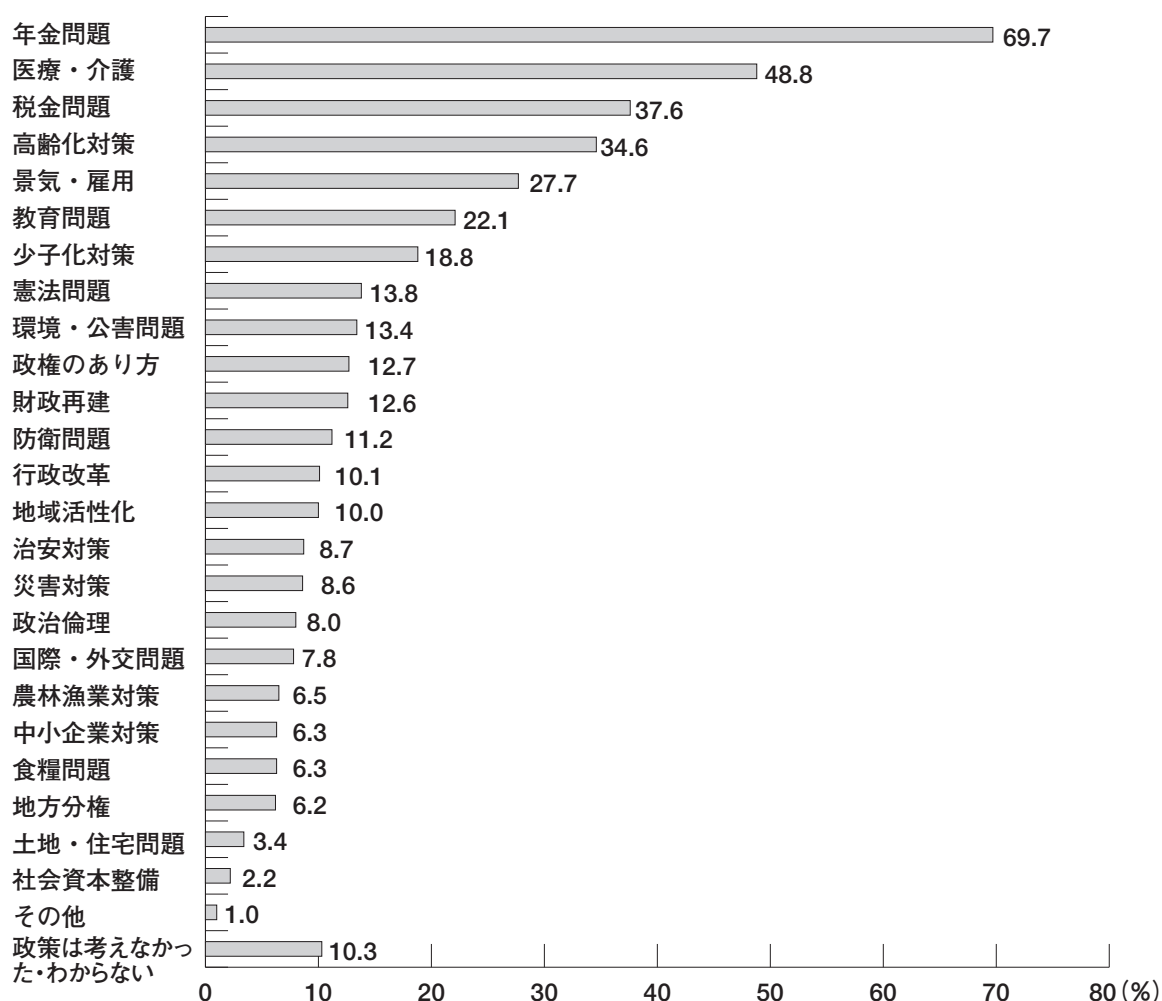
図7-4 イデオロギーの分布 —過去5回の比較—



(3) 考慮した問題

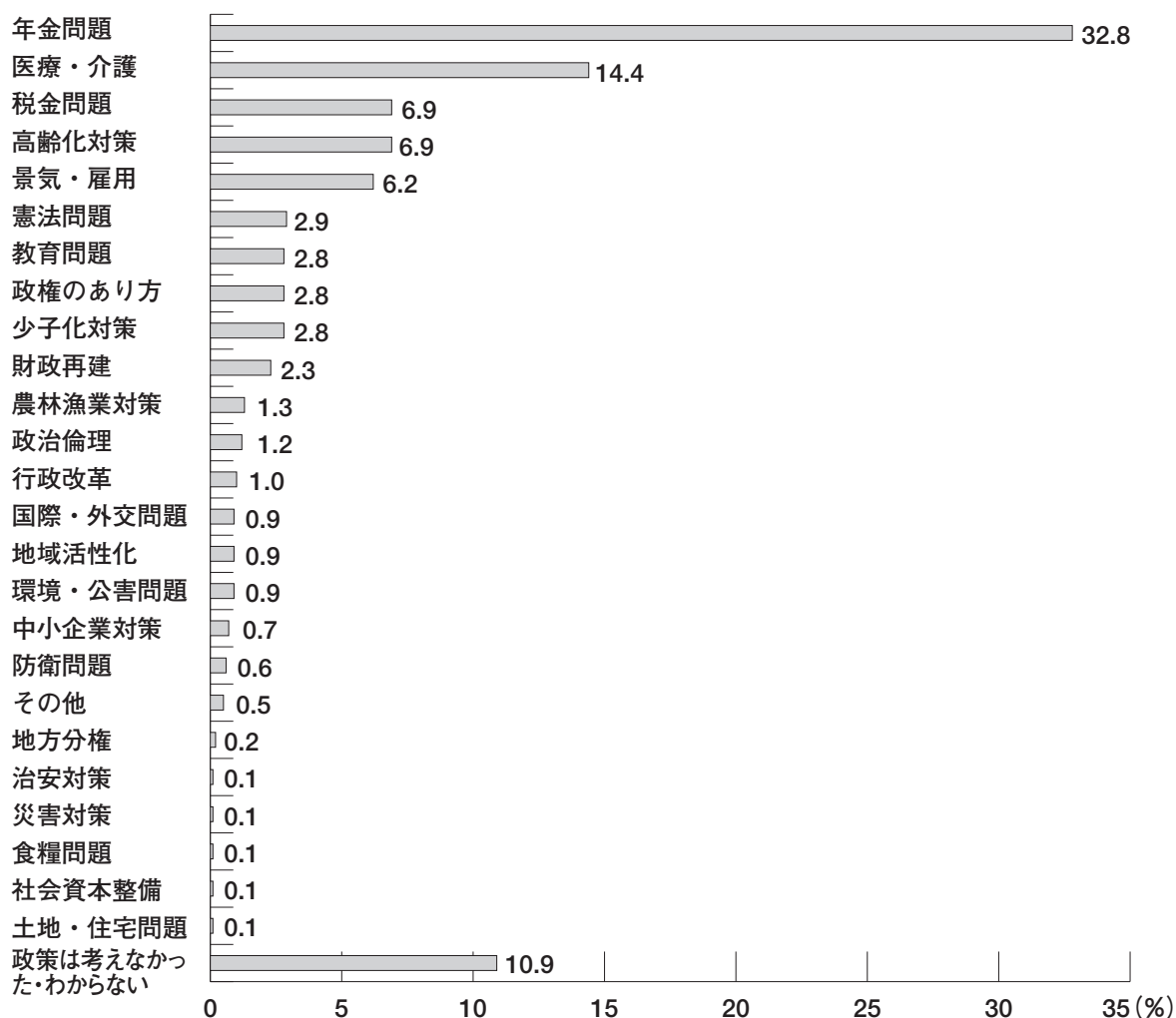
有権者は、今回参院選に際して、どのような政策問題を考慮して投票行動を決定したのであろうか。本調査では、「今回の選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にありましたらおっしゃってください」（Q15）という質問文で、25項目の中から当てはまるものを全て選択してもらった。その回答をまとめたのが図7-5である。最も選択率が高かったのは「年金問題」で、69.7%の回答者が言及した。以下、「医療・介護」（48.8%）、「税金問題」（37.6%）、「高齢化対策」（34.6%）、「景気・雇用」（27.7%）、「教育問題」（22.1%）、「少子化対策」（18.8%）の選択率も高い。

図7-5 考慮した問題（複数回答）



2項目以上を選択した人に対しては、「それでは、今あげられた中で、最も考慮した問題はどれですか」と改めて質問した（Q15SQ1）。その回答の分布を示したのが図7-6である。選択率の高かった上位5項目は複数回答の場合と全く同じで、「年金問題」（32.8%）、「医療・介護」（14.4%）、「税金問題」（6.9%）、「高齢化対策」（6.9%）、「景気・雇用」（6.2%）の順であった。有権者は、自分の生活に直結する身近な問題を考慮していたことがわかる。

図7-6 考慮した問題（1つを選択）



本調査では、「あなたが、最も考慮している問題について、どの党の政策があなたの立場に近いですか」という質問も行っている（Q15SQ2）。「最も考慮した問題」として選択率の高かった5項目について、各項目を選択した人が、どの政党の政策が自分の立場に近いと認識していたかをまとめたのが表7-2である。自民・民主の二大政党に着目すると、「医療・介護」（自民30.5%、民主23.3%）に関しては民主党よりも自民党を選択した人の方が多いのに対し、「年金問題」（自民24.0%、民主41.0%）、「税金問題」（自民21.9%、民主29.7%）、「高齢化対策」（自民25.8%、民主30.5%）に関

しては民主党の選択率の方が高い⁵。特に、今回参院選の一大争点で、32.8%の回答者が最も考慮した問題として挙げた年金問題に関して、両党の選択率の差が17ポイントと飛び抜けて大きいところに、両党の選挙結果の一端が垣間見える。

表 7－2 最も考慮した問題について、立場の近い政党

	自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	どの党でもない	実数
年金問題	24.0 %	41.0 %	4.6 %	2.5 %	0.7 %	0.3 %	27.0 %	608
医療・介護	30.5	23.3	7.5	7.5	1.5	0.8	28.9	266
税金問題	21.9	29.7	4.7	5.5	3.9	0.8	33.6	128
高齢化対策	25.8	30.5	6.3	3.9	1.6	0.0	32.0	128
景気・雇用	35.7	33.9	4.3	4.3	0.9	0.0	20.9	115

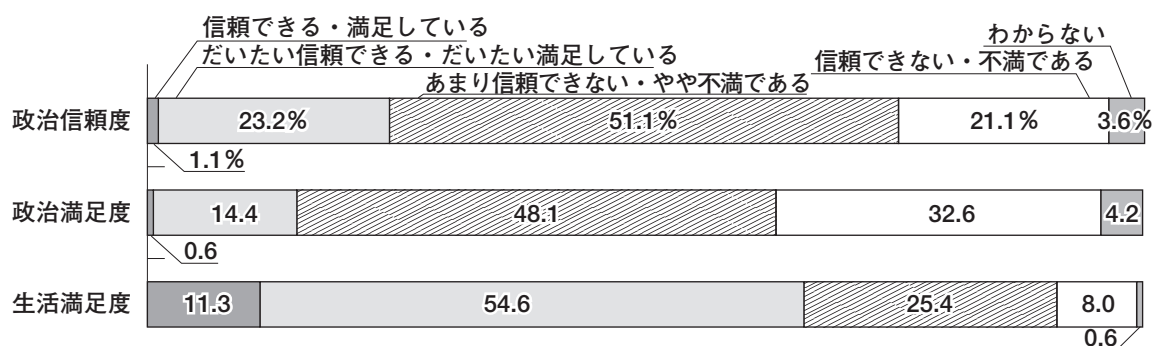
(4) 国政信頼度・政治満足度・生活満足度

「あなたは、国の政治をどれくらい信頼できるとお考えでしょうか」（Q26）という質問に対する回答は、「信頼できる」がわずか1.1%、「だいたい信頼できる」が23.2%、「あまり信頼できない」が51.1%、「信頼できない」が21.1%であった（図 7－7 参照）⁶。

国政に対する信頼度と同様に、有権者の政治に対する満足度もかなり低い。「あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか」（Q25）という質問に対する回答は、「満足している」がわずか0.6%、「だいたい満足している」が14.4%、「やや不満である」が48.1%、「不満である」が32.6%であった⁷。

こうした政治に対する満足度の低さとは対照的に、自身の生活に対する満足度は比較的高い。「あなたは、現在のご自分の生活にどの程度満足していますか」（Q24）という質問に対する回答は、「満足している」が11.3%、「だいたい満足している」が54.6%、「やや不満である」が25.4%、「不満である」が8.0%と、肯定的な回答が約3分の2を占める⁸。政治には不満だが、自分の生活には概ね満足しているというのが、日本の有権者の意識のようである。

図 7－7 政治信頼度・政治満足度・生活満足度



⁵ 「景気・雇用」に関しては、自民35.7%、民主33.9%と、選択率にほとんど差はない。

⁶ この他に「わからない」が3.6%。なお、質問文及び選択肢が選挙の度に変更されているため、過去の調査における回答の分布との比較は残念ながらできない。

⁷ この他に「わからない」が4.2%。

⁸ この他に「わからない」が0.6%。

8 投票行動

本節では、今回参院選における有権者の投票行動を分析する。具体的には、(1)社会的属性と投票政党、(2)投票政党の連続と変化、(3)政党支持と投票政党、(4)決定時に重視した点と投票政党、(5)最も考慮した問題と投票政党、という5つの論点について検討する。

(1) 社会的属性と投票政党

表8-1は、社会的属性のカテゴリーごとに、選挙区選挙における各政党への投票傾向をまとめたものである。性別に関しては、自民党への投票傾向は男性（27.0%）と女性（27.2%）とで拮抗しているのに対し、民主党への投票傾向は女性（26.6%）に比べ男性（36.4%）の方が10ポイント近く高い。先に見た政党支持の場合と同様の結果となっている。

年齢に関しては、80歳以上を除き年齢が上がるにつれて自民党への投票傾向が上昇する一方、民主党への投票傾向は40歳代をピークとする単峰分布を示している。年代ごとに3つに区分した学歴の影響を見ると、20歳以上40歳未満の人々に関しては、学歴と投票政党の選択との間に明瞭な関係は認められない。40歳以上60歳未満の人々に関しては、学歴が高くなるにつれて自民党への投票傾向が低下し、民主党への投票傾向が上昇するという関係が見られる。最後に60歳以上の人々に関しても、投票政党の選択に対する学歴の影響は見られない。

職業に関しては、農林業・漁業従事者（52.1%）、商工業・サービス業・自由業従事者（27.5%）、主婦（31.3%）、無職の人（36.5%）の自民党への投票傾向が全体（27.1%）より高く、商工業・サービス業・自由業従事者（36.0%）、管理職（44.9%）、専門職（35.0%）、事務職（39.9%）、運輸業・通信・生産工程従事者（32.9%）の民主党への投票傾向が全体（31.2%）より高い。

居住地域に関しては、東京都区部や17大都市、人口10万以上の市に比べ人口10万未満の市や町村において自民党への投票傾向が高いという関係が見られる。

表8-2は、同じ社会的属性のカテゴリーごとに、比例代表選挙における各政党への投票傾向をまとめたものである。選挙区選挙の場合とほぼ同様の傾向が確認できるが、管理職（26.5%）の自民党への投票傾向が全体（24.6%）よりわずかながら高い点、農林業・漁業従事者（32.9%）の民主党への投票傾向が全体（32.8%）とほぼ変わらない点が異なる。

表 8－1 社会的属性と投票政党（選挙区選挙）

	自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	実数
<u>全体</u>	27.1%	31.2%	2.4%	3.5%	0.8%	1.4%	17.5%	16.1%	1,853
<u>性別</u>									
男性	27.0	36.4	2.2	3.2	0.6	1.7	14.6	14.2	867
女性	27.2	26.6	2.5	3.8	0.9	1.1	20.1	17.8	986
<u>年齢</u>									
20歳代前半	9.5	20.6	3.2	4.8	0.0	3.2	38.1	20.6	63
20歳代後半	10.6	28.7	2.1	2.1	0.0	0.0	38.3	18.1	94
30歳代	17.5	30.1	2.6	1.7	0.0	2.2	31.9	14.0	229
40歳代	20.0	37.7	4.8	2.6	1.3	1.6	15.2	16.8	310
50歳代	24.0	33.5	1.3	4.2	1.3	1.8	16.9	16.9	379
60歳代	35.4	33.4	1.5	4.7	0.7	1.0	9.7	13.5	401
70歳代	42.5	25.6	1.8	3.2	0.7	1.1	6.0	19.3	285
80歳以上	32.6	19.6	3.3	4.3	0.0	0.0	27.2	13.0	92
<u>学歴：20～40歳未満</u>									
中学卒	7.7	30.8	0.0	7.7	0.0	0.0	38.5	15.4	13
高校卒	15.5	24.8	3.9	0.8	0.0	0.8	41.1	13.2	129
短大・高専卒	16.3	24.5	2.0	4.1	0.0	3.1	30.6	19.4	98
大学・大学院卒	13.5	34.8	2.1	2.1	0.0	2.1	30.5	14.9	141
<u>学歴：40～60歳未満</u>									
中学卒	31.3	17.2	4.7	1.6	3.1	1.6	28.1	12.5	64
高校卒	23.4	36.8	2.3	3.7	1.0	1.7	14.7	16.4	299
短大・高専卒	19.9	34.9	3.4	4.8	1.4	1.4	15.8	18.5	146
大学・大学院卒	19.2	40.1	2.8	2.8	1.1	2.3	14.7	16.9	177
<u>学歴：60歳以上</u>									
中学卒	37.7	22.3	1.9	3.0	0.8	1.9	15.8	16.6	265
高校卒	38.3	32.1	2.0	3.6	0.8	0.6	9.5	13.1	358
短大・高専卒	40.0	35.0	1.7	6.7	0.0	0.0	3.3	13.3	60
大学・大学院卒	36.0	31.5	1.1	7.9	0.0	0.0	1.1	22.5	89
<u>職業</u>									
農林業・漁業	52.1	24.7	0.0	0.0	0.0	4.1	6.8	12.3	73
商工業・サービス業・自由業	27.5	36.0	2.5	4.0	1.0	1.5	14.5	13.0	200
管理職	26.5	44.9	3.1	1.0	1.0	3.1	7.1	13.3	98
専門職	20.0	35.0	1.3	2.5	0.0	2.5	22.5	16.3	80
事務職	13.8	39.9	1.6	2.1	0.0	1.6	19.7	21.3	188
販売業・サービス業	19.5	27.3	2.7	4.1	0.5	0.5	29.1	16.4	220
運輸業・通信・生産工程	24.0	32.9	3.0	1.2	0.6	0.6	24.0	13.8	167
学生	9.5	28.6	9.5	0.0	0.0	9.5	33.3	9.5	21
主婦	31.3	26.8	3.0	4.0	1.8	1.5	13.9	17.7	396
無職	36.5	26.6	1.8	6.1	0.6	0.6	12.6	15.2	342
<u>居住地域</u>									
東京都区部	22.9	28.4	8.3	2.8	0.0	0.9	18.3	18.3	109
17大都市	15.7	40.3	3.3	5.6	0.3	1.0	20.7	13.1	305
人口10万以上の市	25.0	30.9	2.8	2.7	0.9	1.2	18.1	18.4	773
人口10万未満の市	35.2	28.1	0.4	4.1	0.9	0.9	15.9	14.6	466
町村	36.0	27.0	0.5	2.5	1.0	4.5	14.0	14.5	200

表 8－2 社会的属性と投票政党（比例代表選挙）

	自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	実数
<u>全体</u>	24.6%	32.8%	6.7%	3.6%	1.8%	1.6%	17.8%	11.2%	1,853
<u>性別</u>									
男性	23.2	37.9	5.4	3.5	2.4	2.3	15.0	10.3	867
女性	25.8	28.3	7.9	3.7	1.2	0.9	20.2	12.1	986
<u>年齢</u>									
20歳代前半	12.7	17.5	3.2	3.2	1.6	4.8	39.7	17.5	63
20歳代後半	9.6	29.8	2.1	3.2	1.1	6.4	38.3	9.6	94
30歳代	16.2	31.4	5.7	1.7	0.4	0.9	32.3	11.4	229
40歳代	18.1	38.1	8.4	2.6	1.3	1.6	15.5	14.5	310
50歳代	22.2	35.4	6.3	4.7	2.6	1.8	16.9	10.0	379
60歳代	30.4	36.4	6.7	4.5	1.7	1.0	9.5	9.7	401
70歳代	39.3	27.4	8.8	3.2	3.2	0.7	6.7	10.9	285
80歳以上	29.3	22.8	6.5	4.3	0.0	0.0	27.2	9.8	92
<u>学歴：20～40歳未満</u>									
中学卒	7.7	30.8	0.0	7.7	0.0	0.0	46.2	7.7	13
高校卒	11.6	25.6	5.4	0.8	0.0	1.6	41.9	13.2	129
短大・高専卒	17.3	27.6	7.1	5.1	0.0	3.1	29.6	10.2	98
大学・大学院卒	14.9	33.3	2.1	1.4	2.1	4.3	31.2	10.6	141
<u>学歴：40～60歳未満</u>									
中学卒	28.1	15.6	14.1	1.6	4.7	0.0	28.1	7.8	64
高校卒	19.1	37.8	8.4	3.7	1.3	1.7	15.4	12.7	299
短大・高専卒	19.2	36.3	6.8	6.2	0.0	1.4	15.1	15.1	146
大学・大学院卒	20.9	42.4	3.4	2.8	4.0	2.8	14.7	9.0	177
<u>学歴：60歳以上</u>									
中学卒	31.7	26.4	10.6	3.4	3.0	0.4	15.5	9.1	265
高校卒	34.4	34.1	7.0	3.4	1.4	0.6	9.8	9.5	358
短大・高専卒	38.3	36.7	6.7	5.0	1.7	0.0	3.3	8.3	60
大学・大学院卒	34.8	32.6	1.1	7.9	2.2	3.4	2.2	15.7	89
<u>職業</u>									
農林業・漁業	50.7	32.9	2.7	0.0	1.4	0.0	6.8	5.5	73
商工業・サービス業・自由業	25.0	35.0	8.0	5.0	2.5	0.5	15.5	8.5	200
管理職	26.5	44.9	6.1	0.0	3.1	2.0	7.1	10.2	98
専門職	17.5	41.3	2.5	1.3	1.3	0.0	22.5	13.8	80
事務職	13.3	41.5	3.2	2.1	1.6	2.7	20.7	14.9	188
販売業・サービス業	16.8	28.6	6.8	3.6	0.9	1.8	29.5	11.8	220
運輸業・通信・生産工程	19.2	34.1	7.2	1.2	2.4	3.0	24.6	8.4	167
学生	14.3	19.0	4.8	0.0	4.8	14.3	33.3	9.5	21
主婦	29.8	27.3	9.1	4.3	0.8	0.8	13.9	14.1	396
無職	31.0	30.7	6.7	6.1	2.6	1.5	12.3	9.1	342
<u>居住地域</u>									
東京都区部	20.2	31.2	8.3	3.7	0.0	0.9	18.3	17.4	109
17大都市	14.8	39.0	5.2	5.6	1.3	2.0	20.7	11.5	305
人口10万以上の市	22.9	31.8	7.4	3.1	2.1	1.7	18.6	12.4	773
人口10万未満の市	32.6	29.8	5.4	3.9	1.7	1.7	15.9	9.0	466
町村	29.5	35.0	9.0	1.5	2.5	0.5	14.0	8.0	200

(2) 投票政党の連続と変化

表 8－3 から表 8－6 は、前回参院選（平16）、第44回衆院選（平17）から今回参院選（平19）にかけての投票政党の連続と変化を示すものである。平成16年7月の参院選については3年以上前、第44回衆院選については約2年前の投票政党を、今回の調査の時点で思い出して回答してもらういわゆる「リコール調査」なので、記憶が不鮮明である等の理由により、ある程度の誤差が生じる可能性は否定できない。ただ、本調査のようなクロス・セクションのデータで、過去の選挙から今回参院選にかけての票の移動を知るには、リコールの手法を用いざるを得ない。

4つの表からは共通した特徴を見て取ることができる。第一に、前回参院選・第44回衆院選で自民党に投票した人のうち、今回参院選でも自民党に投票したのは半数程度に過ぎず、3割弱が民主党に流れている。たとえば前回参院選の選挙区選挙で自民党に投票したと回答した人は772名いたが、そのうち今回参院選の選挙区選挙でも自民党に投票したと回答したのは421名に過ぎず、「歩留率」は54.5%にとどまる。その一方で、25.4%にあたる196名は、今回は民主党候補への投票を選択している。第二に、前回参院選・第44回総選挙で民主党に投票した人の歩留率は8割前後と高く、自民党へ流れる比率も5%未満と低い。前回参院選の選挙区選挙で民主党に投票したと回答した349名のうち、今回参院選の選挙区選挙でも民主党に投票したと回答したのは、79.4%にあたる277名である。他方、前回参院選は民主党候補への投票を選択しながら、今回は自民党候補に投票したのは10名（29%）に過ぎない。第三に、前回参院選・第44回衆院選で棄権した人のうち7割程度は今回参院選もやはり棄権しているが、今回は民主党に投票したという人が15%程度いるのに対し、自民党に投票したと回答したのは5%程度にとどまる。

このような自民党の歩留率の低さ、それとは対照的な民主党の歩留率の高さ、そして前回棄権した人からの集票の差に、今回参院選における両党の選挙結果の一端が表れていると言えよう。

表 8－3 前回参院選選挙区選挙と今回参院選選挙区選挙の投票政党

		今回参院選（選挙区）								計
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	
前回参院選 （平 16・選挙区）	自民党	54.5 %	25.4 %	0.4 %	0.6 %	0.5 %	1.2 %	10.6 %	6.7 %	772
	民主党	2.9	79.4	0.9	2.0	0.9	1.1	7.7	5.2	349
	公明党	17.8	7.8	33.3	1.1	0.0	0.0	8.9	31.1	90
	共産党	8.1	14.5	1.6	62.9	1.6	0.0	6.5	4.8	62
	社民党	10.0	15.0	0.0	0.0	30.0	0.0	15.0	30.0	20
	他	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3	7
	棄権	4.5	12.9	1.3	2.6	0.0	2.6	67.1	9.0	155
	わからない・ 無回答	10.3	15.8	1.3	2.3	0.0	1.5	24.4	44.5	398
計		502	578	44	65	14	26	325	299	1,853

表 8－4 前回参院選比例代表選挙と今回参院選比例代表選挙の投票政党

		今回参院選（比例代表）								計
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	
前回参院選 （平 16・比例代表）	自民党	53.7 %	28.6 %	1.6 %	1.0 %	0.7 %	0.7 %	11.1 %	2.6 %	730
	民主党	3.9	78.5	0.9	1.2	1.5	3.0	8.7	2.4	335
	公明党	5.3	8.0	77.0	0.9	0.9	0.9	5.3	1.8	113
	共産党	3.2	19.0	3.2	65.1	0.0	1.6	4.8	3.2	63
	社民党	5.9	32.4	0.0	0.0	41.2	5.9	8.8	5.9	34
	他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	棄権	6.2	14.2	1.9	1.2	1.9	1.9	66.7	6.2	162
	わからない・ 無回答	7.2	19.3	4.3	2.7	1.2	1.7	23.9	39.8	415
計		455	608	125	66	33	29	329	208	1,853

表 8－5 第44回衆院選小選挙区選挙と今回参院選選挙区選挙の投票政党

		今回参院選（選挙区）								計
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	
第44回衆院選 （平17・小選挙区）	自民党	54.8 %	24.3 %	0.9 %	1.2 %	0.5 %	1.7 %	10.3 %	6.4 %	778
	民主党	3.2	83.2	0.3	1.8	0.6	0.9	6.5	3.5	339
	公明党	18.8	8.8	32.5	0.0	0.0	0.0	7.5	32.5	80
	共産党	9.3	13.0	1.9	64.8	1.9	0.0	3.7	5.6	54
	社民党	5.0	20.0	0.0	0.0	30.0	0.0	5.0	40.0	20
	他	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5	12.5	25.0	8
	棄権	4.8	12.7	2.4	2.4	0.0	0.6	70.3	6.7	165
	わからない・ 無回答	8.8	16.1	1.2	2.7	0.2	1.5	23.7	45.7	409
計		502	578	44	65	14	26	325	299	1,853

表 8－6 第44回衆院選比例代表選挙と今回参院選比例代表選挙の投票政党

		今回参院選（比例代表）								計
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	
第44回衆院選 （平17・比例代表）	自民党	55.0 %	27.1 %	1.9 %	1.0 %	0.6 %	0.3 %	12.0 %	2.2 %	726
	民主党	3.5	81.6	0.0	1.5	1.7	3.5	6.4	1.7	343
	公明党	4.7	5.6	83.2	0.0	0.9	0.9	3.7	0.9	107
	共産党	3.4	16.9	1.7	69.5	0.0	1.7	3.4	3.4	59
	社民党	3.6	32.1	0.0	0.0	53.6	3.6	3.6	3.6	28
	他	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	7
	棄権	5.0	15.1	2.5	1.3	1.3	1.3	69.8	3.8	159
	わからない・ 無回答	6.6	18.4	4.0	2.6	1.2	1.7	24.1	41.5	424
計		455	608	125	66	33	29	329	208	1,853

(3) 政党支持と投票行動

表 8－7 は、支持政党と今回参院選の選挙区選挙における投票政党との関係を見たものである。選挙区選挙では、自民党支持者の62.8%、民主党支持者の82.5%がそれぞれ自民党候補、民主党候補に投票したと回答した。自民党支持者に関しては、その16.0%が民主党候補への投票に「流出」している。これに対し、民主党支持者の自民党への流出率はわずか2.3%にとどまる。自民党に逆風が吹く中、同党は自らの支持基盤を固めることができなかったようである。その他の政党の歩留率を見ると、公明党が30.9%、共産党が73.9%、社民党が20.0%となっている。もっとも、公明党・社民党の数字に関しては、額面どおりに受け取るべきではない。というのも、選挙区選挙では全ての政党が候補者を擁立しているわけではないので、自らの支持政党の候補者に投票したくてもできないという場合が多くあるからである。

表 8－7 支持政党と選挙区選挙の投票政党

		今回参院選（選挙区）								計
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	
支持政党	自民党	62.8 %	16.0 %	0.8 %	0.3 %	0.2 %	0.9 %	12.5 %	6.5 %	648
	民主党	2.3	82.5	0.6	0.6	0.3	1.2	7.3	5.2	343
	公明党	25.5	5.3	30.9	2.1	0.0	3.2	5.3	27.7	94
	共産党	6.5	8.7	2.2	73.9	0.0	0.0	6.5	2.2	46
	社民党	4.0	16.0	0.0	0.0	20.0	0.0	8.0	52.0	25
	他	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0	6
	支持なし	8.4	25.6	1.0	3.6	1.0	1.7	30.2	28.4	691
計		502	578	44	65	14	26	325	299	1,853

比例代表選挙では、主要政党のほとんどが候補者を擁立するので、支持政党と投票政党の連関がより明確になる。表 8－8 は、支持政党と比例代表における投票政党との関係を見たものである。比例代表選挙でも、自民党の歩留率は59.7%と低く、18.7%が民主党への投票に流れている。対照的に、民主党の歩留率は82.2%と高い。その他では、公明党で85.1%、共産党で76.1%、社民党で56.0%の支持者が、比例代表選挙で支持する政党への投票を選択している。

政党支持なし層の投票行動は、その数が多いため、選挙結果を大きく左右する。今回の回答者の37.3%を占める政党支持なし層の比例代表選挙における投票行動を見ると、半数以上（55.1%）が「棄権」「わからない」「無回答」であったが、27.5%が民主党に投票しており、自民党に投票したのは7.1%に過ぎない。

以上の分析から、今回参院選で民主党が躍進を遂げた要因としては、民主党支持率が上昇し、しかも歩留率が高かったこと、自民党支持者からも票を獲得することに成功したこと、支持なし層からの集票が自民党の3倍強にのぼったこと等が挙げられる。

表 8－8 支持政党と比例代表選挙の投票政党

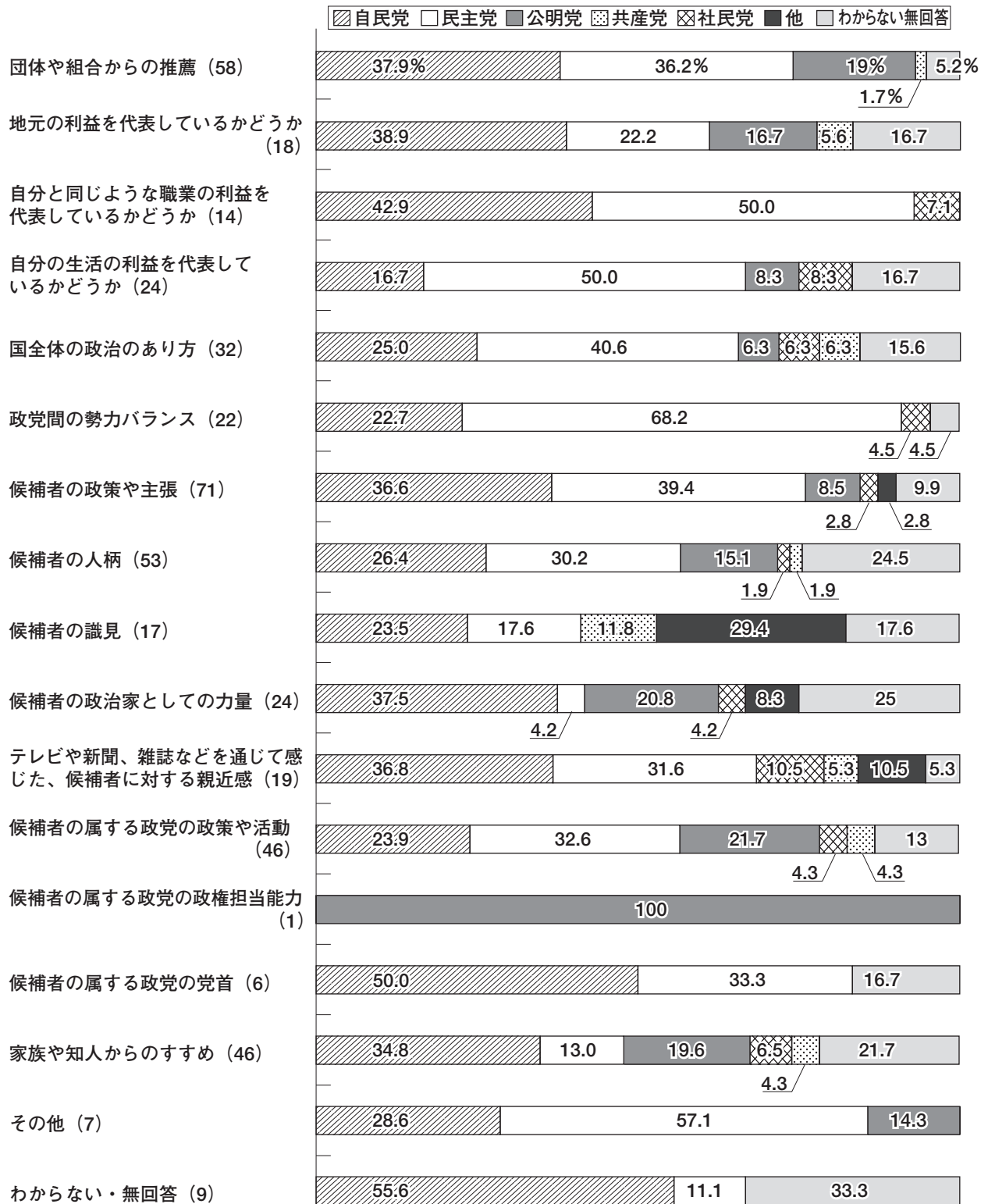
		今回参院選（比例代表）								計
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	他	棄権	わからない 無回答	
支持政党	自民党	59.7 %	18.7 %	3.2 %	0.5 %	0.5 %	0.6 %	13.0 %	3.9 %	648
	民主党	4.4	82.2	1.5	1.2	0.3	1.5	7.3	1.7	343
	公明党	1.1	6.4	85.1	1.1	1.1	0.0	4.3	1.1	94
	共産党	4.3	8.7	2.2	76.1	0.0	2.2	6.5	0.0	46
	社民党	4.0	12.0	0.0	0.0	56.0	0.0	8.0	20.0	25
	他	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	6
	支持なし	7.1	27.5	2.5	3.3	2.0	2.5	30.5	24.6	691
計		455	608	125	66	33	29	329	208	1,853

(4) 決定時に重視した点と投票政党

投票する候補者や政党を決める際に何を重視するかによって、投票行動は異なるのであろうか。本調査では、「あなたは、選挙区選挙で投票する候補者を決める時（比例代表選挙で投票する候補者を決める時、比例代表選挙で投票する政党を決める時）、どういう点を重くみたのですか。この中ではどれでしょうか。いくつでも結構です」「それでは、今あげられた中で、最も重くみたのはどれですか。1つ選んでください」（Q9SQ2、SQ3、Q10SQ3、SQ4、Q10SQ5、SQ6）という質問を行っている。この質問に対する回答を用いて、投票行動決定時に重視した点と投票政党との関係を検討したのが図8-1から図8-3である。これらは、比例代表選挙（候補者名で投票した場合と政党名で投票した場合は区別）・選挙区選挙における投票行動決定時に最も重視した点として挙げられた項目ごとに、各政党への投票比率を計算し、まとめたものである。ある項目に言及した人々の間で特定の政党への投票傾向が著しく高い場合、その項目を重視することが、特定の政党への投票を促したということが考えられる。

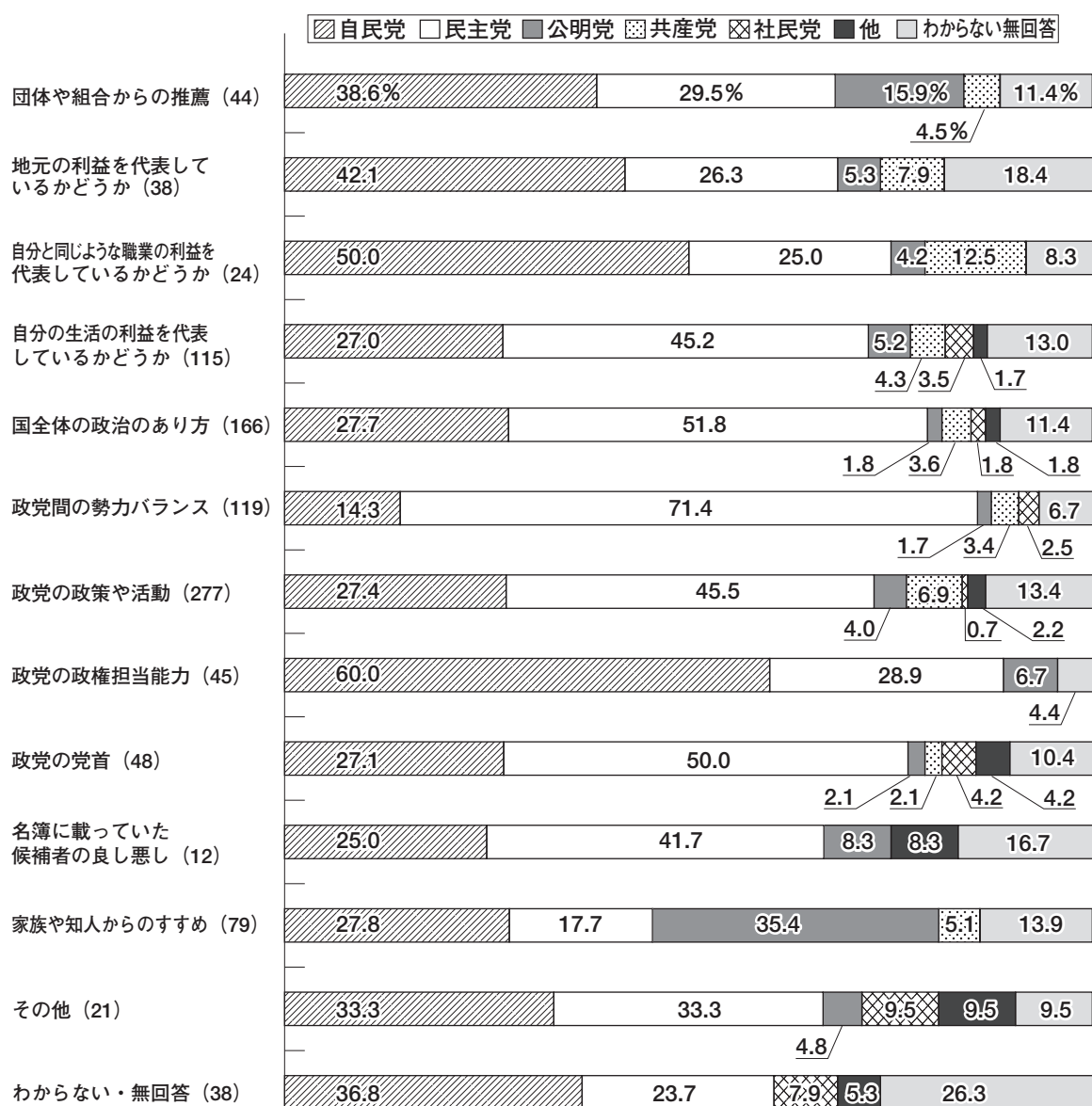
まず比例代表選挙で候補者名を記入して投票した人に関しては、次のような特徴を読み取ることができる（図8-1参照）。対象者の5%以上が「最も重視した」として挙げた8項目について見ると、「候補者の政治家としての力量」「家族や知人からのすすめ」を最も重視した人々の中では、自民党への投票傾向が民主党への投票傾向よりも10ポイント以上高く、逆に「自分の生活の利益を代表しているかどうか」「国全体の政治のあり方」「候補者の属する政党の政策や活動」を最も重視した人々の中では、民主党への投票傾向が自民党への投票傾向よりも10ポイント程度高い。そして「候補者の人柄」「候補者の政策や主張」「団体や組合からの推薦」の3つを最も重視した項目として挙げた人々の中では、自民党への投票傾向と民主党への投票傾向が拮抗している。

図 8－1 投票行動決定時に重視した点と投票政党（比例代表選挙、候補者名で投票）



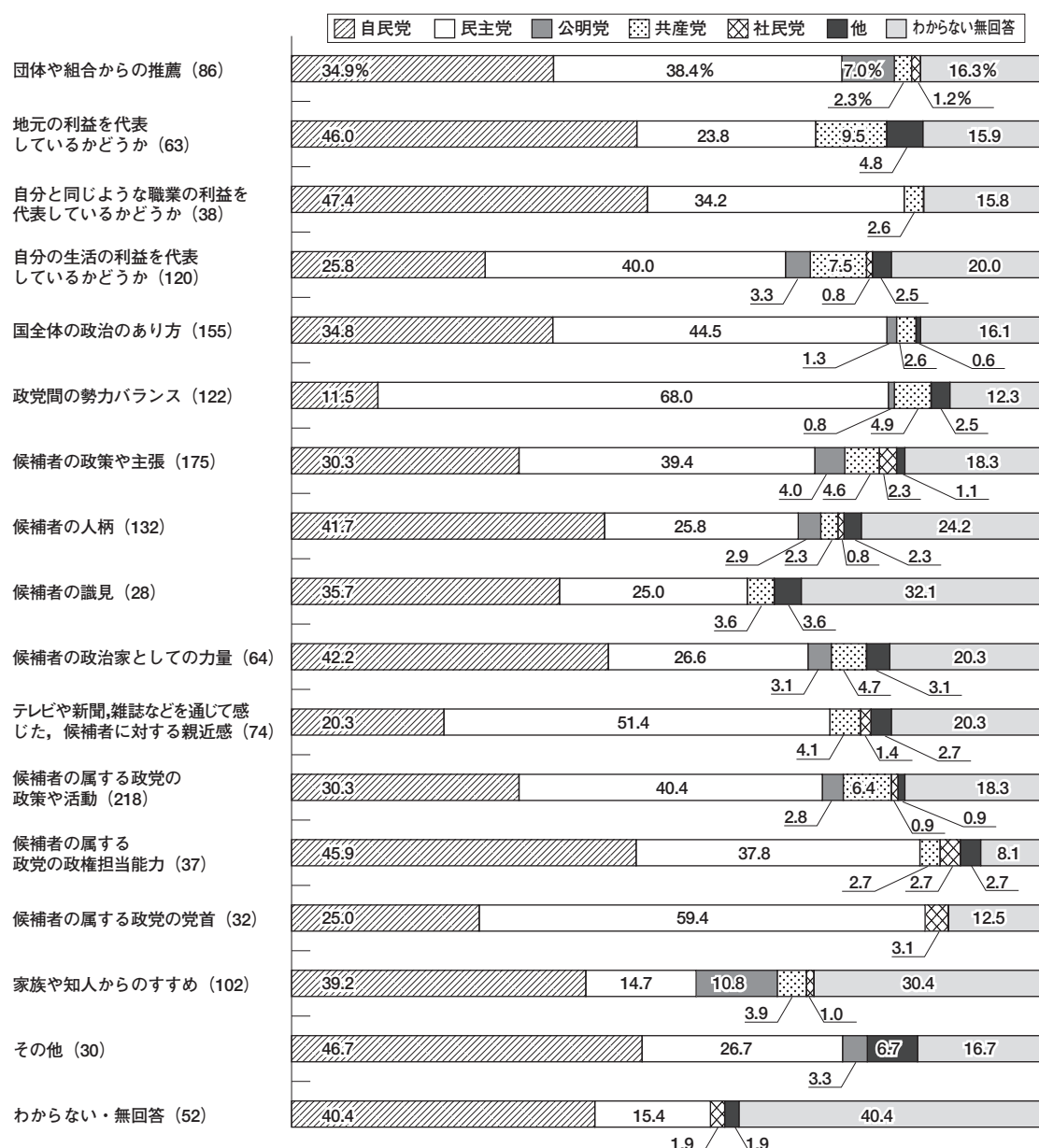
次に比例代表選挙で政党名を記入して投票した人に関しても、候補者名を記入して投票した場合とほぼ同様で、「家族や知人からのすすめ」を最も重視した人の中では、自民党への投票傾向が民主党への投票傾向よりも10ポイント程度高く、「自分の生活の利益を代表しているかどうか」「国全体の政治のあり方」「政党間の勢力バランス」「政党の政策や活動」の4項目を最も重視した人の中では、民主党への投票傾向が自民党への投票傾向よりも10ポイント以上高い（図8－2参照）。

図8－2 投票行動決定時に重視した点と投票政党（比例代表選挙、政党名で投票）



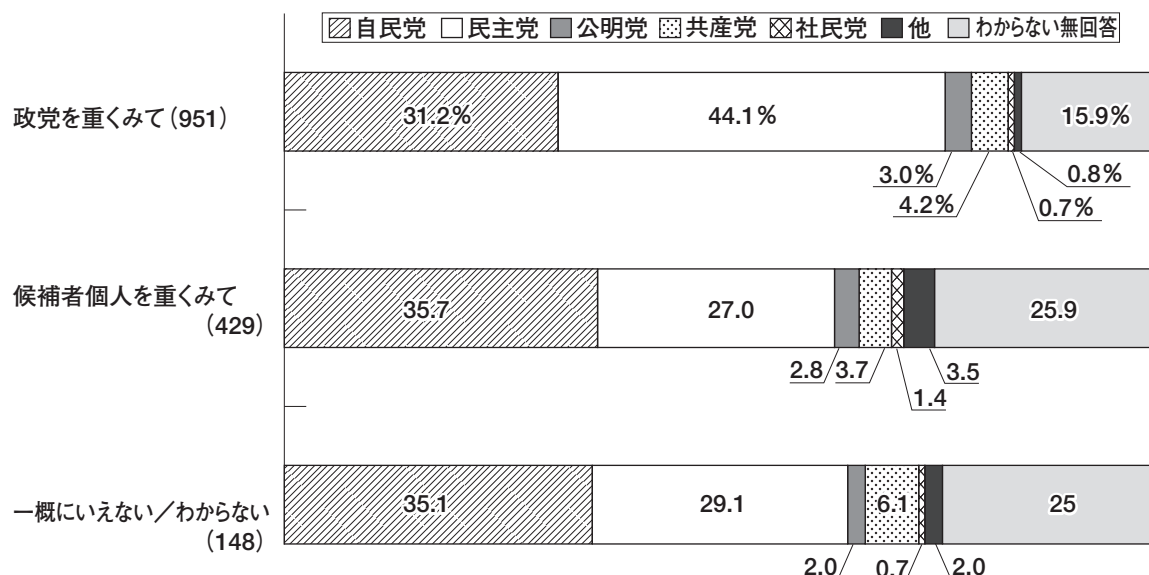
最後に選挙区選挙における投票者に関しては（図 8－3 参照）、対象者の5%以上が「最も重視した」として挙げた8項目について見ると、「候補者の人柄」「家族や知人からのすすめ」を最も重視した人々の間では、自民党への投票傾向が民主党への投票傾向よりも10ポイント以上高い。逆に、「自分の生活の利益を代表しているかどうか」「国全体の政治のあり方」「政党間の勢力バランス」「候補者の属する政党の政策や活動」の4項目を最も重視した人々の間では、民主党への投票傾向が自民党への投票傾向よりも10ポイント以上高い。概して、候補者要因や家族・知人からのすすめを重視する人は自民党（候補）に投票し、生活利益や政党要因、政党間の勢力バランス、国全体の政治のあり方に着目する人は民主党（候補）に投票するという傾向が見られたのである。

図 8－3 投票行動決定時に重視した点と投票政党（選挙区選挙）



さて、選挙区選挙において候補者要因に着目する人が自民党候補に投票し、政党要因に着目する人が民主党候補に投票するという傾向を、別の質問に対する回答からも改めて確認しておこう。本調査では、「選挙区選挙では、あなたは政党のほうを重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか」（Q9SQ4）という質問も行われている。これに対する回答ごとに各政党への投票傾向をまとめたのが図8-4である。「政党を重く」見た人に関しては、自民党候補に投票したのが31.2%、民主党候補に投票したのが44.1%であったのに対し、「候補者を重く」見た人に関しては、自民党候補に投票したのが35.7%、民主党候補に投票したのが27.0%であった。やはり、候補者要因重視と自民党候補への投票、政党要因重視と民主党候補への投票という関係が、図8-4でも確認できるのである。

図8-4 選挙区選挙における投票に際して政党を重視したか、候補者を重視したか



(5) 最も考慮した問題と投票政党

今回参院選でどの問題を最も考慮したかによって、投票政党が異なるということはあるのだろうか。先に第6節(3)で見た、今回参院選で最も考慮した問題として言及率の高かった5項目、すなわち「年金問題」、「医療・介護」、「税金問題」、「高齢化対策」、「景気・雇用」について、これらを挙げた人の投票政党をまとめたのが図8-5と図8-6である。これを見ると、「医療・介護」を最も重視する人は民主党に比べ自民党を、「税金問題」を最も重視する人は自民党に比べ民主党を選択しやすかったことがわかる。そして予想されたとおり、「年金問題」を最も考慮した人々に関して投票政党の違いが最も鮮明に表れている。すなわち、選挙区選挙では、「年金問題」を最も考慮した人のうち自民党候補に投票したのが28.6%であったのに対し、民主党

候補に投票したのは36.8%であった。同様に、比例代表選挙でも、「年金問題」を最も考慮した人のうち自民党に投票したのが24.0%であったのに対し、民主党候補に投票したのは39.3%に上った。

図 8－5 最も考慮した問題と投票政党（選挙区選挙）

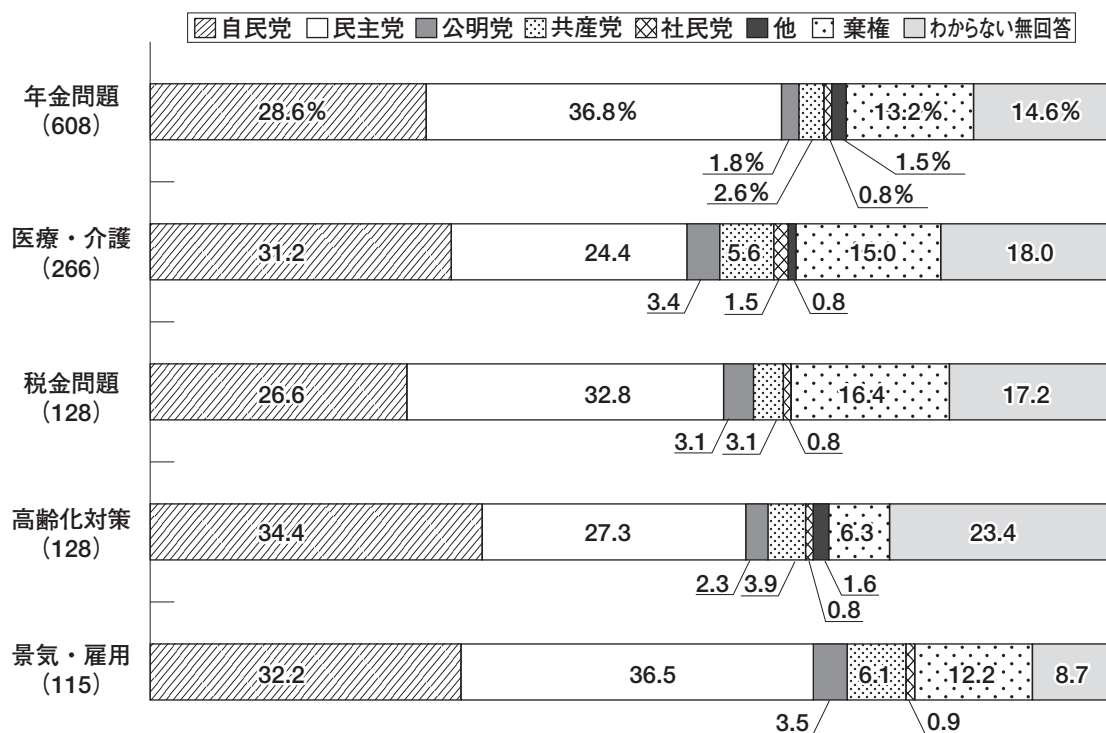
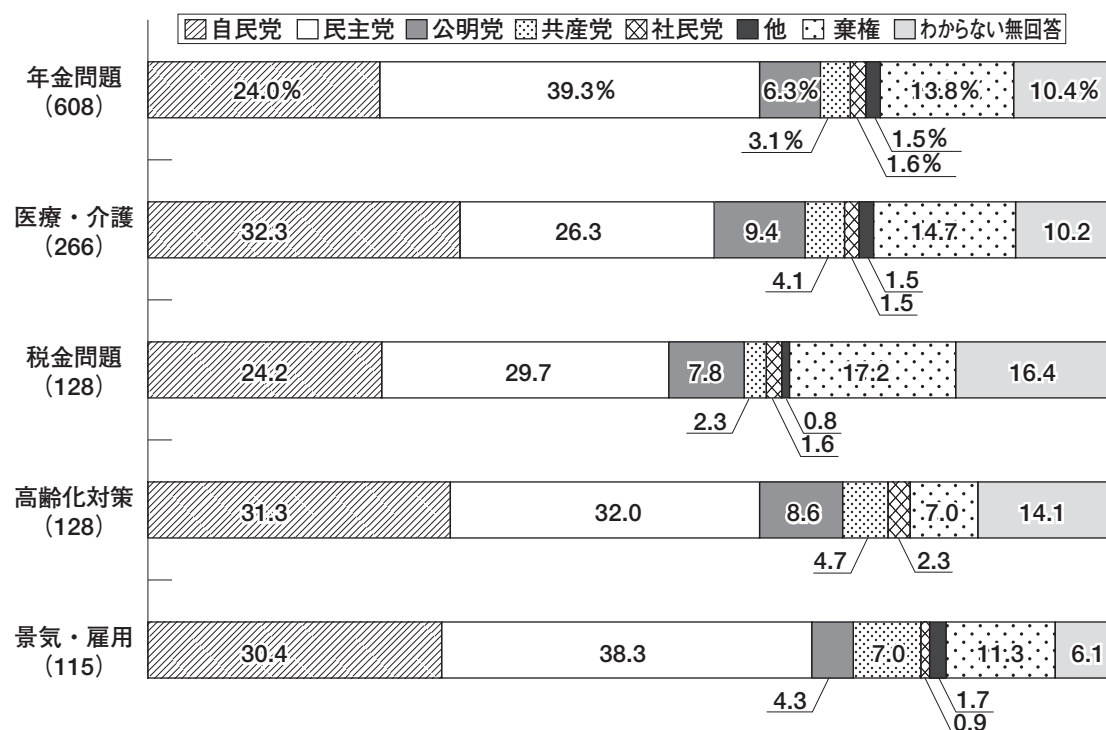


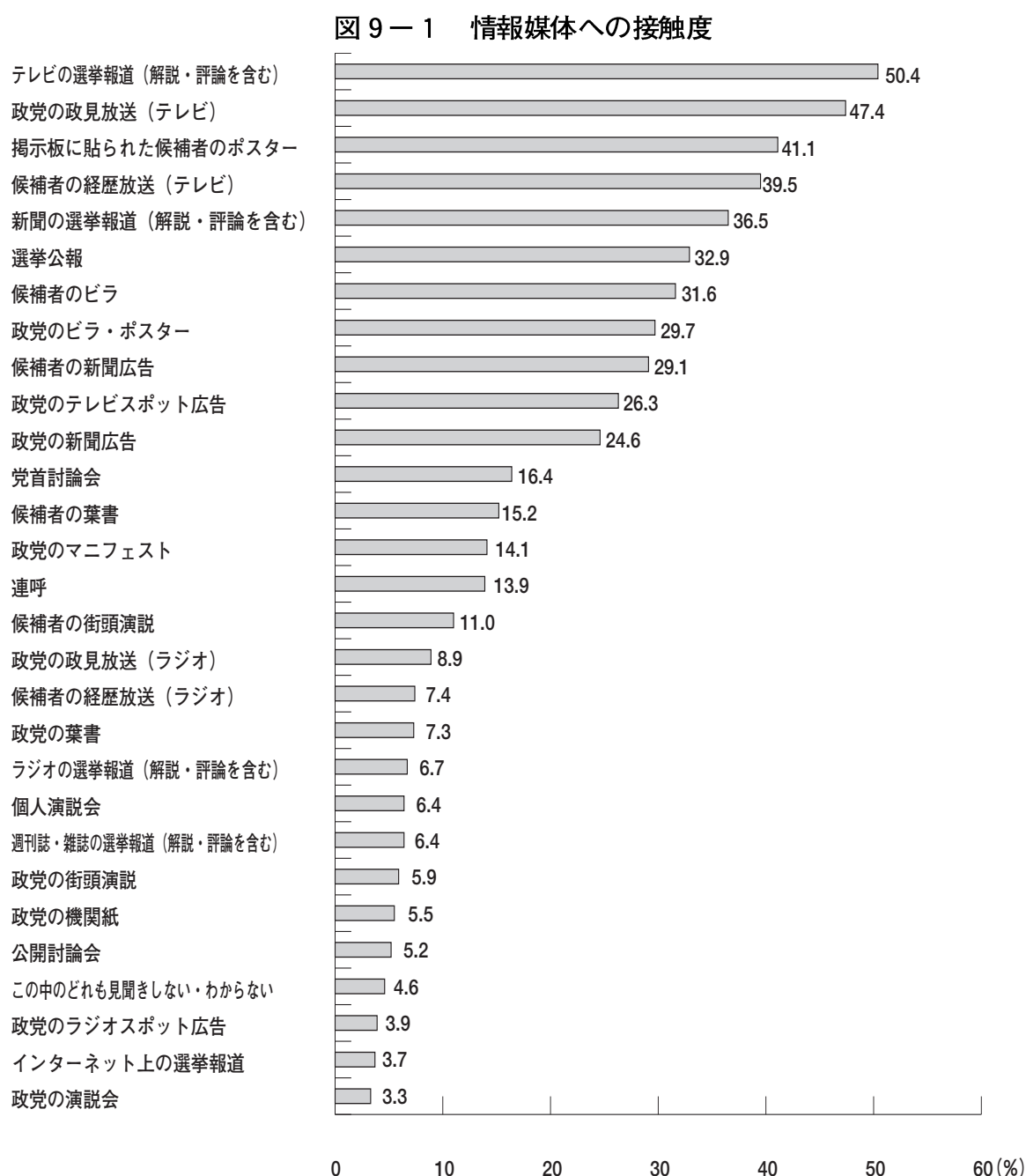
図 8－6 最も考慮した問題と投票政党（比例代表）



9 選挙関連情報源と明るい選挙推進協議会への参加

(1) 選挙関連情報媒体への接触度と有用度

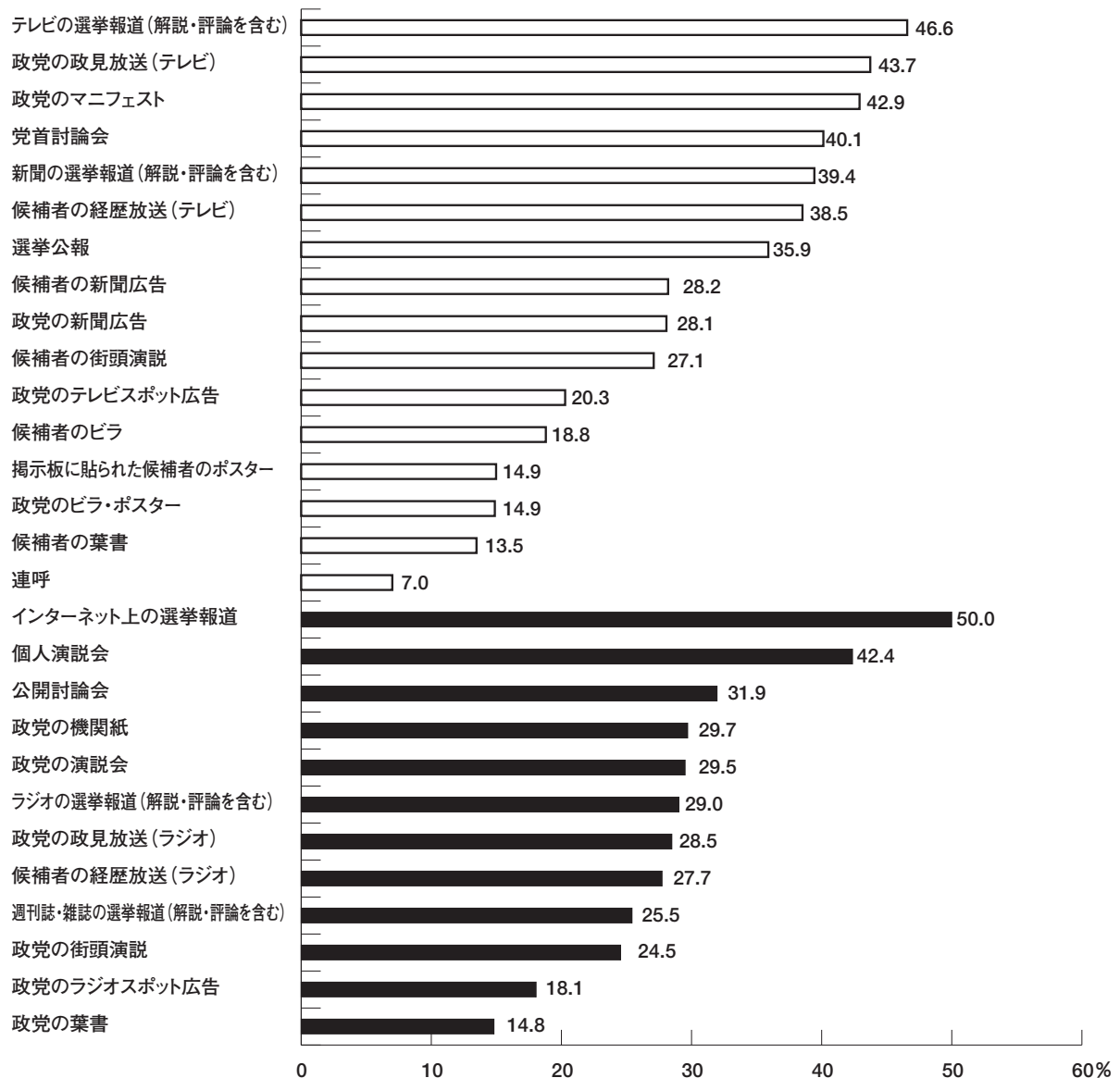
有権者は今回参院選時、選挙に関する情報を提供する様々な媒体にどの程度接触したのだろうか。本調査では、選挙関連情報への接触に関して、次のような質問を行っている。「役に立ったか立たないかは別として、今回の選挙で、あなたが見たり聞いたりしたものが、この中にありましたら、全部おっしゃってください」(Q12)。回答者には、29項目から当てはまるものを全て選んでもらった。その回答をまとめたのが図9-1である。



容易に予想のつくことではあるが、有権者の多くはテレビを通じて選挙情報に接触するようである。「見たり聞いたりした」と言及された比率の上位5媒体は、「テレビの選挙報道（解説・評論を含む）」（50.4%）、「政党の政見放送（テレビ）」（47.4%）、「掲示板に貼られた候補者のポスター」（41.1%）。「候補者の経歴放送（テレビ）」（39.5%）、「新聞の選挙報道（解説・評論を含む）」（36.5%）であり、テレビ関連のものが3つ含まれる。その他、20%以上の回答者が言及した項目として、「選挙公報」（32.9%）、「候補者のビラ」（31.6%）、「政党のビラ・ポスター」（29.7%）、「候補者の新聞広告」（29.1%）、「政党のテレビスポット広告」（26.3%）、「政党の新聞広告」（24.6%）がある。

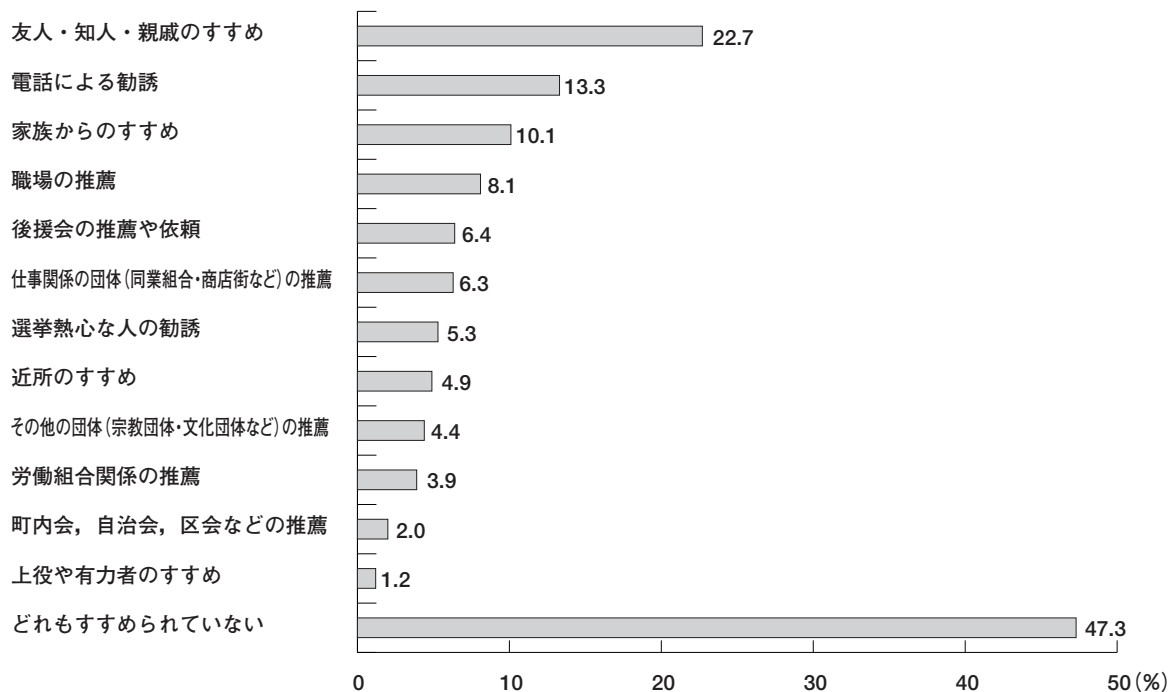
また本調査では、同じ29項目に関して、「それでは投票してもしなくても、役に立ったものがこの中にありましたら、全部おっしゃってください」という質問も行っている（Q13）。興味深いのは、接触度の高い情報媒体が、必ずしも有用度（役に立つ度合い）の高い情報とは限らない、ということである。たとえば「掲示板に貼られた候補者のポスター」は、回答者の41.1%が「見たり聞いたりした」と回答しているものの、「役に立った」と感じているのは、15.0%に過ぎない。この有用度を数値で表したのが図9-2である。これは、「役に立った」と回答した人数を、「見たり聞いたりした」と回答した人数で割った値で、「見たり聞いたりした」と回答した比率が10%以上であった16項目を黒色の棒グラフで、10%未満であった13項目を白色の棒グラフで示してある。図9-2によると、見聞きした人の数が多く、しかも有用度が最も高かったのは「テレビの選挙報道（解説・評論を含む）」である。先に述べたとおり、回答者の50.4%がテレビの選挙報道を見聞きしたと答えているが、そのうち46.6%が「役に立った」とも述べている。以下、有用度が30%を超える項目として、「政党の政見放送（テレビ）」（43.7%）、「政党のマニフェスト」（42.9%）、「党首討論会」（40.1%）、「新聞の選挙報道（解説・評論を含む）」（39.4%）、「候補者の経歴放送（テレビ）」（38.5%）、「選挙公報」（35.9%）がある。なお、「インターネット上の選挙報道」に関しては、有用度が50%と高いものの、接触比率は3.7%と極めて低い。インターネットは、まだ十分に普及していないため接触比率は低い、有用度は高い情報媒体であると言えよう。

図 9－2 情報媒体の有用度



さて、今回の調査では他者からのすすめの有無については、「参考になったかどうかは別として、今回の選挙で、あなたがすすめられたものがこの中にありましたら、全部おっしゃってください」という質問文で、独立して尋ねている（Q14）。その回答をまとめたのが図 9－3 である。これによると、半数弱（47.3%）の回答者はどのすすめも受けていない一方で、「友人・知人・親戚のすすめ」を受けた人が22.7%、「電話による勧誘」を受けた人が13.3%、「家族からのすすめ」を受けた人が10.1%いた。

図 9－3 他者からのすすめ

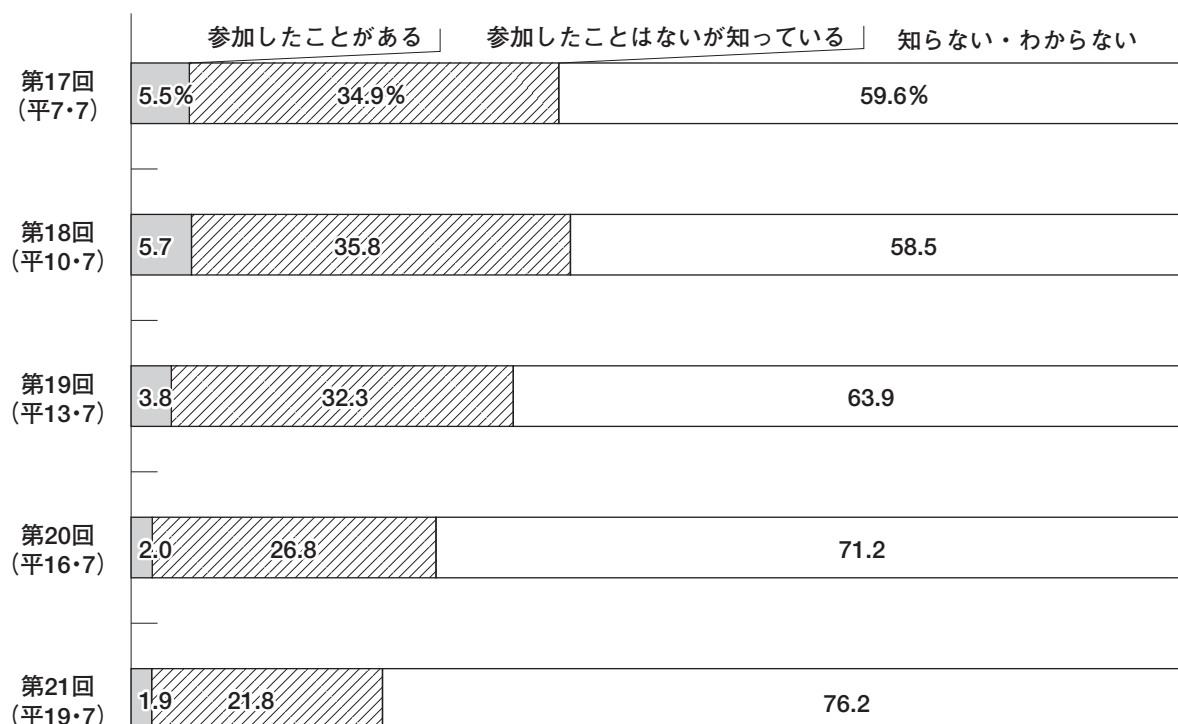


(2) 明るい選挙推進協議会の周知と参加

明るい選挙推進協議会は、きれいな選挙の実現、投票率の向上、国民の政治意識の向上等を図るための活動を行っている。明るい選挙推進協議会をどのくらいの有権者が認知し、また同協議会の行う活動に、どのくらいの有権者が参加したことがあるのだろうか。「あなたの県（都・道・府）や市（区・町・村）に、投票を呼びかけたり選挙をきれいにするための活動を行っている『明るい選挙推進協議会』や『白ばら会』があることをご存知ですか」（Q29）という質問を行い、「（「知っている」と答えた人に対して）『明るい選挙推進協議会』や『白ばら会』の行っている講演会、話し合い活動、学級講座などに参加されたことがありますか」（Q29 S Q）と尋ねている。図 9－4 は、第17回参院選（平 7）以降の状況を時系列的に示しているがこの調査では、明るい選挙推進協議会の認知度・参加度は、近年低下傾向にある。今回は、「参加したことがある」が1.9%へ、「参加したことはないが知っている」が21.8%へと低下し、「知らない・わからない」は76.2%であった。

今回参院選でも、「投票に参加しましょう」という呼びかけを、国や都道府県・市区町村や明るい選挙推進協議会等が行った。この呼びかけに用いられた媒体の中で、回答者の10%以上が「見たり聞いたりした」と答えたものをまとめたのが表 9－1 である（Q28）。これによると、テレビや新聞が持つ宣伝力はかなり大きい。また、広報車、国や都道府県、市区町村の広報紙、啓発ポスターも、比較的多くの人の耳目に届いていることがわかる。

図 9－4 明るい選挙推進協議会の周知と参加



これらの媒体への接触は、実際に投票参加と結びついているのであろうか。表 9－1 の右側には、今回参院選で投票したと回答した比率⁹を、各媒体を見聞きしたと人と、見聞きしなかったと回答した人とに分けて計算した値、及び両者の差が掲載されている。これによると、「テレビスポット広告」を見聞きした比率は高い（59.7%）ものの、見聞きした人で投票したと回答した比率（72.1%）と見聞きしなかった人で投票したと回答した比率（69.5%）との差は2.6ポイントとあまり大きくない。これとは対照的に、「新聞広告」「広報車」「国や都道府県、市区町村の広報紙」に関しては、見聞きした人の投票傾向が見聞きしなかった人の投票傾向に比べ10%程度高い。元々投票に行くつもりだった人ほどこれらの媒体によく接触したという可能性もあるため、これらの媒体への接触が投票参加を促進したという因果関係は断定できないものの、投票参加との間に明瞭な関連が認められる。

⁹ 厳密には、比例代表選挙で投票した（候補者の）政党名を回答した人の比率。

表 9－1 投票参加促進広告への接触と投票参加

	見聞きした 比率	見聞きした 人の投票率	見聞き しなかった人 の投票率	差
テレビスポット広告	59.7%	72.1%	69.5%	2.6
新聞広告	48.2	75.9	66.5	9.5
広報車	35.8	76.2	68.2	8.0
国や都道府県、市区町村の広報紙	24.6	80.2	68.0	12.2
啓発ポスター	21.3	75.7	69.8	6.0
立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン	16.2	79.0	69.5	9.5
啓発チラシ	11.5	73.2	70.7	2.5
交通広告（車内・駅）	11.3	71.0	71.0	-0.1
ラジオスポット広告	11.3	76.1	70.4	5.7
（全体）		72.7	62.2	10.5

明るい選挙推進協議会の活動への参加と投票—棄権の選択にはどのような関係があるのだろうか。表 9－2 は、回答者を、明るい選挙推進協議会の活動に参加したことがあるグループ（36名）、活動を知っていたが参加したことがないグループ（404名）、活動を知らなかったグループ（1413名）に分け、グループごとに、比例代表選挙の投票政党名を挙げた比率を求めたものである。この表が示すように、明るい選挙推進協議会の諸活動に参加したことはないが、それを知っている人の投票傾向（78.7%）は知らない人の投票傾向（68.6%）よりも約10ポイント高い。さらに、明るい選挙推進活動を知っており、しかもそれに参加した経験のある人の投票傾向（80.6%）は、経験のない人の投票傾向よりわずかながら高い。その意味で、明るい選挙推進活動の周知とそれに対する参加の活性化は、投票率向上の面からも重要である。

表 9－2 明るい選挙推進協議会の活動への参加と投票率

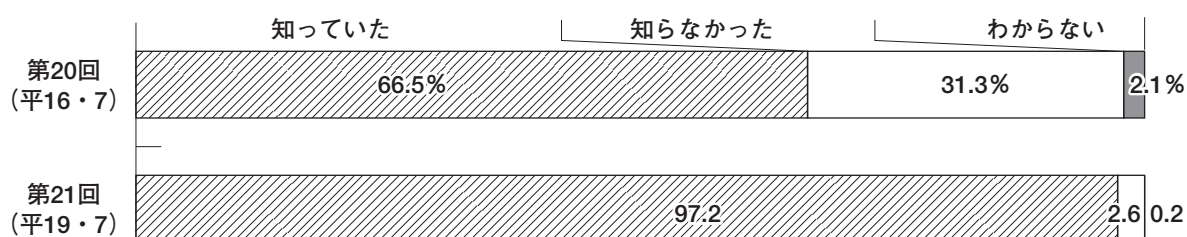
比例代表選挙で 投票政党名を挙げた比率		
明るい選挙推進協議会を		
知っている（参加経験あり）	（36）	80.6
知っている（参加経験なし）	（404）	78.7
知らない／わからない	（1,413）	68.6

10 選挙制度について

(1) 期日前投票制度

本世論調査では、期日前投票制度の認知度を調べるために、「仕事や旅行、冠婚葬祭などで投票日当日に投票できない方が、公示日の翌日から投票日の前日までの間、投票することができる期日前投票制度をあなたはご存知でしたか」という質問をした（Q 6）。結果は図10－1を参照。97.2%の調査対象者が「知っていた」と回答し、前回参院選の時の66.5%から30ポイント以上認知度が上昇していることがわかる。

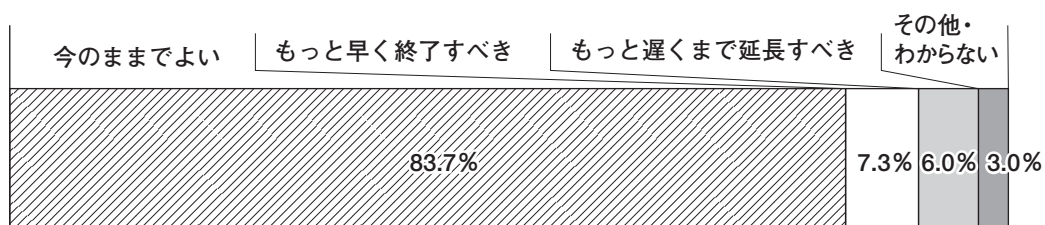
図10－1 期日前投票



(2) 投票時間

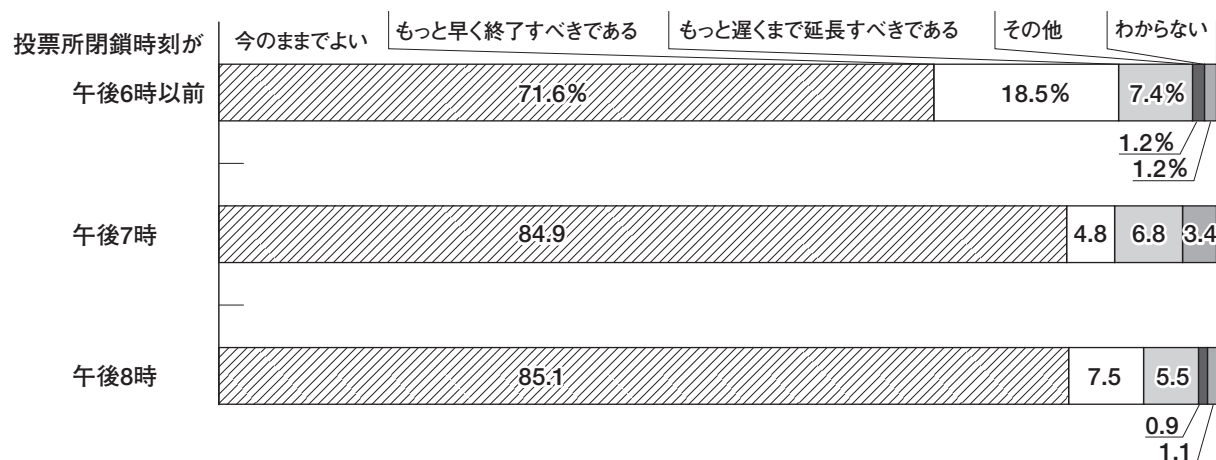
投票時間について、「平成9年の改正で投票時間が午後6時までから午後8時まで延長されていますが、このことについて、あなたは、どうお感じになられていますか。この中からあげてください」（Q11S Q）という質問をして、3つの回答肢から選んでもらっている（図10－2参照）。83.7%が「今のままでよい」と回答し、7.3%が「もっと早く終了すべきである」、6.0%が「もっと遅くまで延長すべきである」と回答しており、概ね好評であると言える。

図10－2 投票時間についての意識



これを調査対象者の投票所の閉鎖時刻ごとに見たのが図10－3である。「今のままでよい」は午後6時以前（午後5時以前含む）が71.6%、午後7時が84.9%、午後8時が85.1%、「もっと早く終了すべきである」は午後6時以前が18.5%、午後7時が4.8%、午後8時が7.5%、反対に「もっと遅くまで延長すべきである」は午後6時以前が7.4%、午後7時が6.8%、午後8時が5.5%となっている。調査対象者は各々の投票所の閉鎖時刻に関し評価しているものの、午後6時以前に着目すると、「もっと早く終了すべき」と「もっと遅くまで延長すべき」が他の回答者より高い。推測だが投票所の閉鎖時刻に関し午後6時以前の投票区には、現行午後8時までの投票時間に対し何らかの意見を持っている人が多いのかも知れない。

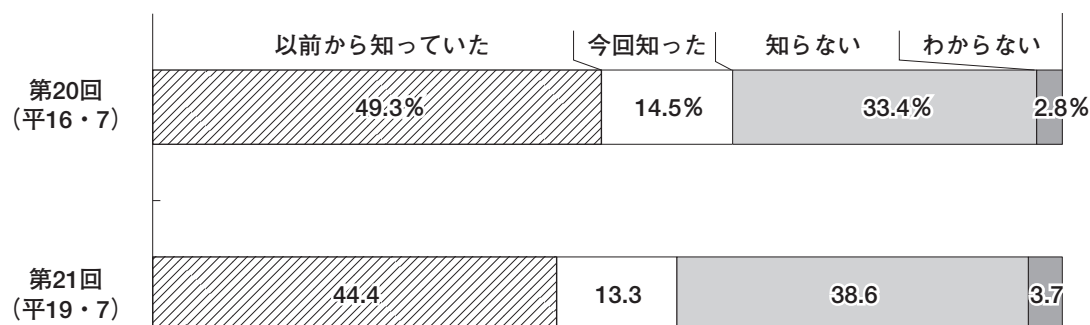
図10－3 投票時間についての意識



(3) 非拘束名簿式比例代表制

本世論調査では、非拘束名簿式比例代表制の認知度を調べるために、「平成13年7月の参議院選挙から、比例代表選挙の候補者名簿に当選順位をつけず、候補者の得票順で当選者を決める非拘束名簿式比例代表制になっています。あなたはこのことをご存知ですか。」(Q27)という質問をした(図10－4参照)。その結果、44.4%が「以前から知っていた」と回答し、13.3%が「今回知った」と回答し、38.6%が「知らない」と回答した。前回参院選の時の世論調査と比べて見ると、「以前から知っていた」という割合が5ポイントほど減少していることがわかる。非拘束名簿式比例代表制の認知度は、まだ高くはないと言えることができる。

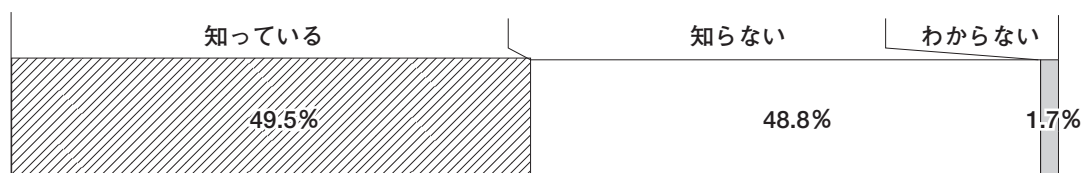
図10－4 非拘束名簿式比例代表制の認知



(4) 在外選挙

今回参院選から選挙区選挙でも投票できるようになった在外選挙の認知度を調べるために、「平成12年の衆議院総選挙から、衆・参の比例代表選挙については海外にいても投票できる『在外選挙』が行われていますが、今回の選挙から選挙区選挙でも投票できるようになりました。あなたはこのことをご存知ですか。」という質問をした(Q31)。その結果(図10－5参照)、49.5%が「知っている」、48.8%が「知らない」、1.7%が「わからない」と回答している。まだ、約半数が新しい制度の導入を認知していないことがわかる。

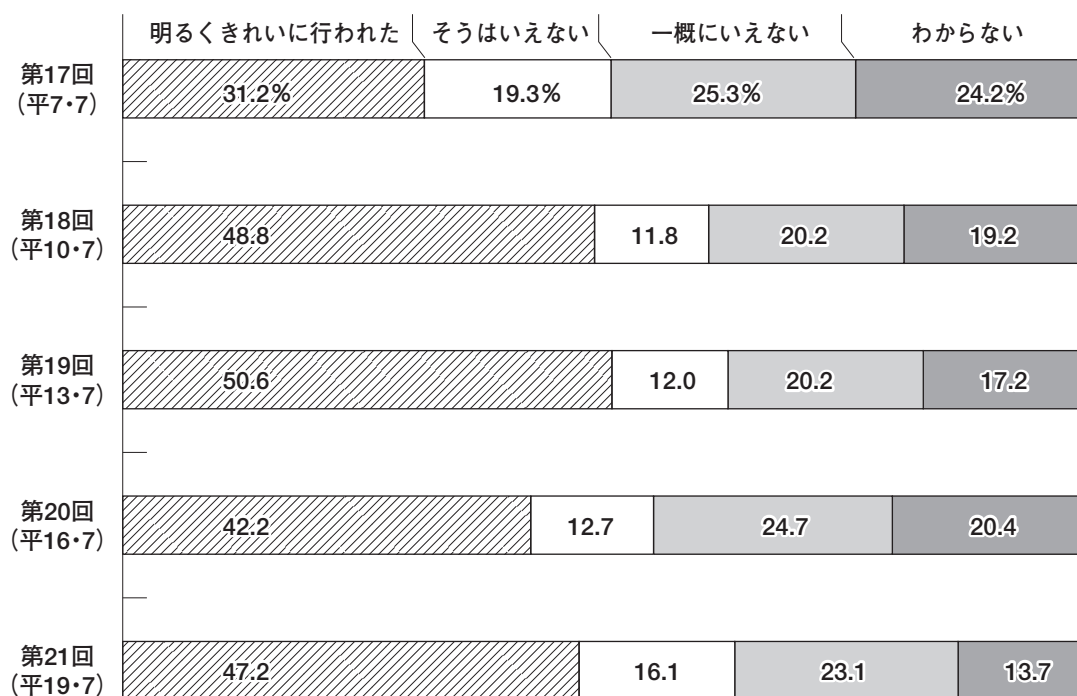
図10－5 在外選挙の認知



11 清潔度の印象

腐敗のないきれいな選挙が行われることは、代議制民主主義が民主的に機能する前提条件である。有権者は、今回参院選の「清潔度」を、どのように評価しているのだろうか。本調査では、「今回の参議院選挙は、全体として明るくきれいな選挙が行われたと思いますか、そうはいえないと思いますか」と問うている（Q1）。その回答は、「明るくきれいに行われた」が47.2%、「そうはいえない」が16.1%、「一概にいえない」が23.1%、「わからない」が13.7%であった。図11－1は、過去5回（第17回参院選（平7）から今回参院選）の参院選時に行われた調査における回答の分布を、時系列的にまとめたものである。

図11－1 参院選清潔度の印象



この質問で「そうはいえない」と答えた人に対し、「今回の選挙が明るくきれいに行われなかったのは、主としてこの中のどれに責任があると思いますか」と尋ねたところ（Q15 Q2）、39.9%が「政党」、21.1%が「候補者」、12.4%が「選挙制度」、7.7%が「有権者」、6.0%が「選挙運動の取締りのやり方」を挙げた。選挙が明るくきれいに行われない責任は、我々有権者の側というよりもむしろ、選挙を戦う政党や候補者の側にあると考える人が多数を占める。この質問に対する回答の分布を過去5回の調査に関してまとめたのが図11－2である。

図11－2 きれいな選挙が行われない責任

	有権者	候補者	政党	選挙制度	取り締まり	その他・わからない
第17回 (平7・7)	14.1%	13.9%	40.1%	15.6%	4.1%	12.2%
第18回 (平10・7)	14.6	17.3	33.8	21.2	6.9	6.2
第19回 (平13・7)	14.6	20.9	22.1	20.9	8.4	13.1
第20回 (平16・7)	11.4	23.5	37.1	16.9	4.5	6.6
第21回 (平19・7)	7.7	21.1	39.9	12.4	6.0	12.8

12 まとめ

以下が、本調査報告書の大まかな結果である。

- (1) 今回参院選（平19）の投票率は、比例代表が58.63%、選挙区が58.64%であった。投票率の低下が懸念されたが、前回参院選を若干上回る投票率が確保された。
- (2) 都道府県別で今回特に投票率が高かったのは、島根県（71.80%）、秋田県（67.69%）、鳥取県（67.66%）、山形県（67.28%）である。特に投票率が低かったのは、青森県（53.88%）、茨城県（54.00%）、群馬県（54.60%）、福岡県（54.83%）であった。
- (3) 若い有権者の投票率は著しく低く、20歳代前半で32.82%、20歳代後半で38.93%であった。
- (4) 比例代表選挙で、民主党は全国で39.5%の票を集め、20議席を獲得した。自民党は、28.1%の票を獲得し14議席を獲得。選挙区選挙では、民主党は全国で40.5%の票を集め、40議席を獲得。自民党は31.4%で23議席。この結果、民主党が第一党に躍進した。
- (5) 今回参院選の選挙競争率は、選挙区選挙が3.0倍、比例代表選挙が3.3倍、全体で3.2倍であり、前回よりわずかに上昇した。
- (6) 今回参院選における選挙違反検挙件数は156件、検挙人員は237人であった。最も検挙件数が多かったのは買収で67件、次いで自由妨害の49件。検挙人員も買収が最も多く136人、次いで自由妨害41人であった。
- (7) 国や地方の政治について回答者の23.6%が「非常に関心をもっている」、60.4%が「多少は関心をもっている」と回答した。
- (8) 今回の選挙に関して、回答者の40.3%が「非常に関心」があった、43.9%が「多少は関心」があったと回答した。「非常に関心」があると答えた割合は、第16回参院選（平4）からでは、今回が最大であった。しかし、若者の関心度は低く、20歳代前半では19.0%のみが「非常に関心」があると回答していた。
- (9) 回答者の56.7%が「投票することは、国民の義務である」、23.7%が「投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない」と回答した。しかし、若年層ではこのような投票義務感は低い。
- (10) 職業別の投票傾向は、農林漁業（92.9%）と管理職（91.1%）が特に高い。しかし、運輸・通信・生産工程（75.5%）、専門職（72.9%）、販売・サービス（72.1%）は比較的低い。
- (11) 自分が在住している市区町村に対して愛着度が強い人ほど、投票傾向も強い。
- (12) 若年層（20～30歳代）では、投票の意識的位置づけが投票傾向に強く影響を与えており、投票を「個人の自由」と位置づけている若年層の投票傾向は35.2%にすぎない。

しかし、同じ若年層でも、「権利だが棄権すべきではない」と位置づけている人の投票傾向は78.0%、「投票は義務」と考えている人は85.6%と比較的高い。

- (13) 若年層（20～30歳代）の場合、支持政党を持っているか否かが投票傾向に強い影響を与えている。特定政党への強い支持を持っている若年層の投票傾向は95.8%、弱い支持の若年層は78.1%である。支持政党を持っていない若年層の投票傾向は53.0%と低い。

- (14) 「自分の支持している政党や候補者が勝つ見込がないときには、投票してもむだである」、「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しても、しなくても、どちらでもかまわない」、「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない」、「政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある」という意見に同意する人ほど、今回参院選で棄権する傾向が見られた。

- (15) 今回の参院選について、「投票日に、用事があった」、「候補者についてよくわからなかった」、「投票日に、体調がすぐれなかった」、「投票に行くのは面倒だった」ことが投票参加を低めることにつながった。

逆に「自分の選挙区に、どうしても当選させたい候補者がいた」、「もりたてたい政党があった」、「団体・組織・知り合いから、特定の候補者や政党に投票するよう、頼まれたり勧められたりした」、「政党の立場の違いがはっきりしていた」、「自分の一票が、選挙結果を左右すると思えた」、「自分の一票が、日本の政治のあり方を左右すると思えた」、「選挙結果によって、自分の身の回りの生活や暮らし向きが左右されるように思えた」、「選挙結果によって、日本の政治のあり方が左右されるように思えた」ことが投票参加を高めることにつながったようである。

- (16) 投票棄権者の内、26.0%が選挙期間に入る前に棄権することを決めていた。また、38.9%が投票日当日に棄権することを決定していた。

- (17) 投票以外の形態で政治に参加した経験を持つ人は持たない人に比べ、今回参院選で棄権する比率が低かった。この関係は、選挙との関連性の薄い参加形態である「地域のボランティア活動やNPO活動に参加する」、「自治会活動に積極的に参加する」、「請願書に署名する」に比べ、選挙と密接に関連する参加形態である「政党や政治家の集会に行く」、「候補者や政党への投票を知人に依頼する」、「政治家の後援会員となる」、「選挙運動を手伝う」において、より強かった。

- (18) 今回参院選に際して尋ねた「ふだんの支持政党」は、自民党が35.0%、民主党が18.5%、公明党が5.1%、共産党が2.5%、社民党が1.3%、その他が0.3%、「支持政党なし」と「わからない・無回答」を合わせた比率が37.3%であった。

- (19) 政党支持に関して、時系列的には次のような特徴が見られた。第一に、自民党は、

「ふだん」の政党支持のレベルでは、前回参院選に比べ4.3ポイント支持率を増大させている。第二に、民主党は、「ふだん」の政党支持のレベルでも、時を経るごとに次第に支持率を上昇させ、今回参院選ではこれまでで最高の支持率を記録している。第三に、これら2つの特徴の裏返しとして、政党支持なし層が、この5回の参院選後調査の中で最少となっている。第四に、いずれかの政党を支持する人々の間では、二大政党化が顕著に進行している。

(20) この12年の間に、政党システムの変化や政権担当政党の変化を経験したにもかかわらず、有権者の保革イデオロギー分布はほぼ安定しており、保守寄りにやや偏った、「中間」にピークがある単峰形となっている。

(21) 今回の参院選で投票行動を決定する際、最も考慮した問題として選択率が高かったのは、「年金問題」、「医療・介護」、「税金問題」、「高齢化対策」、「景気・雇用」であった。有権者は、自分の生活に直結する身近な問題を考慮していたのである。

最も考慮した問題として選択率が一番高かった「年金問題」について、自民党の政策が最も自分の立場に近いと認識していた人が24.0%、民主党の政策が最も自分の立場に近いと認識していた人が41.0%であった。両党の選択率の差が17ポイントと大きいところに、両党の選挙結果の一端が垣間見える。

(22) 今回参院選後の調査でも、日本の有権者の国政に対する信頼度・政治に対する満足度が低い一方で、自身の生活に対する満足度は比較的高いという傾向が確認できた。政治には不満だが、自分の生活には概ね満足しているというのが、日本の有権者の意識のようである。

(23) 社会的属性と自民党への投票との関係には、①性別による差はほとんどない、②80歳以上を除き年齢が上がるにつれて自民党投票傾向が上昇する、③40歳以上60歳未満の人々に関して、学歴が高くなるにつれて自民党への投票傾向が低下する、④職業に関して、農林業・漁業従事者、商工業・サービス業・自由業従事者、主婦、無職の人の自民党投票傾向が全体より高い、⑤居住地域に関しては、東京都区部や17大都市、人口10万以上の市に比べ人口10万未満の市や町村において自民党への投票傾向が高いという傾向が見られる。

他方、社会的属性と民主党への投票との関係には、①女性に比べ男性の民主党への投票傾向が10ポイント近く高い、②民主党への投票傾向が40歳代でピークとなる単峰分布を示している、③40歳以上60歳未満の人々に関して、学歴が高くなるにつれて民主党への投票傾向が上昇する、④職業に関して、商工業・サービス業・自由業従事者、管理職、専門職、事務職、運輸業・通信・生産工程従事者の民主党への投票傾向が全体より高いという特徴が確認された。

(24) リコールの手法を用いて前回参院選、第44回衆院選から今回参院選にかけての投票

政党の連続と変化を見ると、①前回参院選・第44回衆院選で自民党に投票した人のうち、今回参院選でも自民党に投票したのは半数程度に過ぎず、3割弱が民主党に流れている、②前回参院選・第44回衆院選で民主党に投票した人の歩留率は8割前後と高く、自民党へ流れる比率も5%未満と低い、③前回参院選・第44回衆院選で棄権した人のうち7割程度は今回参院選もやはり棄権しているが、今回は民主党に投票したという人が15%程度いるのに対し、自民党に投票したと回答したのは5%程度にとどまる、といった傾向が読み取れる。

- (25) 主要政党のほとんどが候補者を擁立する比例代表選挙に関して政党支持と投票政党との関係を見ると、①自民党の歩留率は59.7%と低く、18.7%が民主党への投票に流れている、②対照的に民主党の歩留率は82.2%と高い、③その他の政党の歩留率は、公明党が85.1%、共産党が76.1%、社民党が56.0%であった、ということが明らかとなった。
- (26) 今回調査の回答者の37.3%を占める政党支持なし層の比例代表選挙における投票行動を見ると、半数以上が「棄権」「わからない」「無回答」であったが、27.5%が民主党に投票しており、自民党に投票したのは7.1%に過ぎなかった。
- (27) 比例代表選挙では、投票する候補者や政党を決める際に「候補者の政治家としての力量」「家族や知人からのすすめ」を最も重視した人の間では、自民党への投票傾向が民主党への投票傾向よりも高く、「自分の生活の利益を代表しているかどうか」「国全体の政治のあり方」「候補者の属する政党の政策や活動」を最も重視した人の間では、民主党への投票傾向が自民党への投票傾向よりも高かった。

他方、選挙区選挙では、「候補者の人柄」「家族や知人からのすすめ」を最も重視した人々の間では、自民党への投票傾向が民主党への投票傾向よりも高く、逆に、「自分の生活の利益を代表しているかどうか」「国全体の政治のあり方」「政党間の勢力バランス」「候補者の属する政党の政策や活動」の4項目を最も重視した人々の間では、民主党への投票傾向が自民党への投票傾向よりも高かった。

概して、候補者要因や家族・知人からのすすめを重視する人は自民党（候補）に投票し、生活利益や政党要因、政党間の勢力バランス、国全体の政治のあり方に着目する人は民主党（候補）に投票するという傾向が見られたのである。

- (28) 最も考慮した問題として「医療・介護」を挙げた人は民主党に比べ自民党を、「年金問題」「税金問題」「景気・雇用」を挙げた人は自民党に比べ民主党を選択する傾向があった。
- (29) 選挙に関する情報を提供する様々な媒体の中で、今回参院選で有権者の多くが接触し、しかも役に立ったと感じたものは、「テレビの選挙報道（解説・評論を含む）」、「政党の政見放送（テレビ）」、「新聞の選挙報道（解説・評論を含む）」、「候補者の経

歴放送（テレビ）」、「選挙公報」であった。

- (30) 今回参院選で、半数弱の回答者は他者からのすすめを全く受けなかったと答えたが、その一方で「友人・知人・親戚のすすめ」を受けた人が22.7%、「電話による勧誘」を受けた人が13.3%、「家族からのすすめ」を受けた人が10.1%いた。
- (31) 明るい選挙推進協議会の認知度・参加度は、今回は、「参加したことがある」が1.9%へ、「参加したことはないが知っている」が21.8%へ低下した。
- (32) 明るい選挙推進協議会の諸活動を知らない人の投票傾向に比べ、参加したことはないがそれを知っている人、知っておりしかもそれに参加した経験のある人の投票傾向は高い。その意味で、明るい選挙推進活動の周知とそれに対する参加の活性化は、投票率向上の面からも重要である。
- (33) 期日前投票制度の認知度は97.2%で、前回参院選の時から30ポイント以上上昇している。
- (34) 平成9年の改正で投票時間が午後8時までに延長された投票時間について、回答者の83.7%が「今のままでよい」と回答し、7.3%が「もっと早く終了すべきである」、6.0%が「もっと遅くまで延長すべきである」と回答している。
- (35) 第19回参院選（平13）から導入された非拘束名簿式比例代表制の下、候補者の得票順で当選者を決めることを、44.4%が「以前から知っていた」と回答し、13.3%が「今回知った」と回答し、38.6%が「知らない」と回答した。非拘束名簿式比例代表制の認知度は、まだ高くはない。
- (36) 『在外選挙』で今回参院選から選挙区選挙でも投票できるようになったことに関して、49.5%が「知っている」、48.8%が「知らない」、1.7%が「わからない」と回答している。まだ、約半数が新しい制度の導入を認知していない。
- (37) 選挙の清潔度の印象に関して、前々回に比べ前回参院選（平16）では、「明るくきれいに行われた」を選択した比率が8.4ポイント低下したが、今回は5.0ポイント盛り返し47.2%となっている。また、前回に比べ今回、「わからない」の比率が6.7ポイント低下し13.7%となっている。

今回の選挙が明るくきれいに行われなかった責任の主体として挙げられたのを見ると、「政党」が39.9%、「候補者」が21.1%、「選挙制度」が12.4%、「有権者」が7.7%、「選挙運動の取締りのやり方」が6.0%であった。選挙が明るくきれいに行われない責任は、我々有権者の側というよりもむしろ、選挙を戦う政党や候補者の側にあると考える人が多数を占める。時系列的には、第19回参院選以降、「有権者」と「選挙制度」を挙げる回答者が減少する一方、「政党」の責任を指摘する人が20ポイント弱増加している。

付録：調査対象者の社会的特徴

(1) 性別

性別	実数	%
男性	867	46.8
女性	986	53.2
合計	1,853	100%

(2) 年齢

年齢	実数	%
20～24歳	63	3.4
25～29歳	94	5.1
30～39歳	229	12.4
40～49歳	310	16.7
50～59歳	379	20.5
60～69歳	401	21.6
70歳以上	377	20.3
合計	1,853	100%

(3) 最終学歴

最終学歴	実数	%
小・高小・新中卒	342	18.5
旧中・新高卒	786	42.4
新高専・短大・専修学校卒	304	16.4
旧高専大・新大卒	382	20.6
大学院（修・博）卒	25	1.3
わからない	14	0.8
合計	1,853	100%

(4) 本人職業

本人職業	実数	%
公務員	96	8.8
公務員以外	691	63.6
自営（自由業を含む）	213	19.6
家族従業	74	6.8
その他	12	1.1
合計	1,086	100%

(5) 業界の分布

業界分類	実数	%
管理職	98	9.2
事務職	188	17.6
専門職（医師・弁護士など）	80	7.5
販売業・サービス業	220	20.6
運輸業・通信・生産工程	167	15.6
農林業・漁業	73	6.8
商工業・サービス業	181	16.9
自由業	19	1.8
その他	44	4.1
合計	1,070	100%

* 「わからない」「無回答・答えたくない」を除く

(6) 居住年数

居住年数	実数	%
3年未満	85	4.6
3年以上	169	9.1
10年以上	243	13.1
20年以上（生まれてからずっと）	1,353	73.0
わからない	3	0.2
合計	1,853	100%

(7) 都市規模

都市規模	実数	%
東京都区部	109	5.9
17大市	305	16.5
人口10万以上の市	773	41.7
人口10万未満の市	466	25.1
町村	200	10.8
合計	1,853	100%

(8) 居住地域

居住地域	実数	%
北海道	92	5.0
東北	140	7.6
関東	552	29.8
北陸	104	5.6
東山	86	4.6
東海	196	10.6
近畿	260	14.0
中国	127	6.9
四国	78	4.2
北九州	119	6.4
南九州	99	5.3
合計	1,853	100%

(9) 所属団体（複数回答）

所属団体	実数	%
政治家の後援会	64	2.5
自治会	748	29.5
婦人会	99	3.9
青年団・消防団	23	0.9
老人クラブ（会）	167	6.6
P T A	140	5.5
農協その他の農林漁業団体	79	3.1
労働組合	83	3.3
商工業関係の経済団体	52	2.1
宗教団体	64	2.5
同好会・趣味のグループ	262	10.3
住民運動・消費者運動・市民運動の団体	15	0.6
N P O・地域づくり団体	25	1.0
その他	20	0.8
どれにも加入していない	675	26.6
わからない	17	0.7

第21回 参議院議員通常選挙の実態

—調査結果の概要—

平成 20年 3月発行

編集・発行 財団法人 明るい選挙推進協会

東京都港区虎ノ門 2－1－1 商船三井ビル 4 階

電話 03 (3560) 6266・6267

ファクシミリ 03 (3560) 6268

ホームページ <http://www.akaruisenkyo.or.jp/>
